

設置の趣旨等を記載した書類

目次

① 設置の趣旨及び必要性	3
1. 学部・学科を設置する経緯	3
2. 養成する人材像と教育研究上の目的	4
3. 3つのポリシー	6
4. 研究対象とする中心的な学問分野	11
② 学部・学科等の特色	12
③ 学部・学科の名称及び学位の名称	13
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	14
1. 教育課程の編成の体系性	14
2. 主要授業科目	18
3. 単位時間数	18
4. 一年間の授業期間や各授業科目の授業期間	18
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	20
1. 教育方法	20
2. 卒業要件	21
3. 履修モデル	21
4. 履修科目の年間登録上限（CAP 制）	22
5. 留学生の受入れ	23
6. 多様なメディアを利用した授業	23
⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	24
⑦ 編入学定員を設定する場合の具体的計画	26
⑧ 実習の具体的計画	27
1. 教育実習（教職課程）の具体的計画	27
2. 博物館実習（学芸員課程）の具体的計画	30
3. 日本語教育実習（日本語教員課程）の具体的計画	33
⑨ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	36
1. 国内における実習	36
2. 海外における実習	37
⑩ 取得可能な資格	40

⑪ 入学者選抜の概要	41
1. 募集人員	41
2. 主たる選抜	41
3. その他の選抜	43
4. 正規の学生以外の者の受入れ	44
⑫ 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	45
⑬ 研究の実施についての考え方、体制、取組	47
⑭ 施設、設備等の整備計画	48
1. 校地、運動場の整備計画	48
2. 校舎等施設の整備計画	49
3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	50
⑮ 管理運営	53
1. 教授会	53
2. 教授会以外の会議・委員会	54
⑯ 自己点検・評価	56
⑰ 情報の公表	58
⑱ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	61
⑲ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	64

① 設置の趣旨及び必要性

1. 学部・学科を設置する経緯

清泉女子大学の沿革と社会的役割

清泉女子大学は、スペインの聖心侍女修道会の修道女4名によって昭和10年に開設された「清泉寮」を淵源とする大学である。昭和25年に文学部国文学科（平成9年に日本語日本文学科に名称変更）、英文学科（平成6年に英語英文学科に名称変更）の1学部2学科による4年制女子大学として「清泉女子大学」が開設される。以来、昭和36年にスペイン語スペイン文学科、昭和38年に基督教文化学科（平成5年に文化史学科に改組）、平成13年に地球市民学科を設置し、直近の23年間は、文学部1学部5学科による教育を行ってきた。

建学の精神は、基督教ヒューマニズムにある。「まことの知・まことの愛（VERITAS et CARITAS）」をモットーに、少人数教育による人格的触れ合いを通して、自分で考え、判断し、決断できる女性の育成を行ってきた。昭和37年に現在地である東京都品川区東五反田に移転してからは、交通の便が良好な立地を活かし、東京都のみならず、埼玉県、神奈川県、千葉県等の近隣県からも学生を受け入れ、首都圏における女子教育推進の一角を担い、社会に有為な人材を輩出している。

現代社会における人文科学のニーズ

開学以来、本学文学部が教育・研究の基盤としてきた人文科学は、人間の創造した文化と向き合い、人間そのものについて探究する学問である。環境問題や人口問題、AIの急速な進化等の現代社会が抱えるさまざまな課題と対峙するためには、自然科学のみならず、人文科学の知見が必要不可欠であることは、もはや自明であると言ってよいだろう。令和3年の「科学技術基本法」の改正では、「人文科学のみに係るものを除く」という規定が排除され、人文科学の果たす役割が、科学技術・イノベーション政策の中に明確に位置づけられた。人文科学が本質的に持つ思考の枠組みを提示する力、物事の問題点を明らかにする力は、今後ますます重要性を増すものであると予測できる。

一方、高等学校において令和4年度から実施された新学習指導要領においては、教科の枠を超えた学習が促され、探究学習に代表される主体的な学びが推進されている。知識を深め、思考力・判断力を磨いていく過程で「生きる力」を涵養していく学びは、まさに人文科学との親和性が高いものであると言える。また、高校生の興味関心の方向性は多様化しており、それに十分に応えうる学問分野の幅の広さがあることも、人文科学の有する特徴のひとつであると言える。現在、関西の私立大学（追手門学院大学、四天王寺大学等）を中心に、新しい教育手法を取り入れた文学部の開設が相次いでいるのも、学習者のニーズの高まりを反映したものであると見なされる。

さらに、予測困難な時代の到来を見据えたときに、社会全体において、答えのない問いに
対峙できる能力を持つ人材が求められている。未来に対する想像力は、多角的な視点によっ
て支えられるものである。多角的な視点を獲得するためには、一つの分野に対する限られた
専門性だけではなく、複数の学問領域をまたぐ総合的な知識を有することが必要である。つ
まり、人文科学の諸分野を学ぶことによって身につく幅広い教養は、今後の社会において非
常に重要な意味を持ち、深い洞察力や高い倫理観を持った人材を養成するためにも必要不
可欠な要素であると言えるだろう。

以上のように、本学が従前から実践してきた人文科学を中心とした教育の本質は、現在の
学習者のニーズに応えうるものであると同時に、今後の社会においてより一層必要とされ
るものであると考えられる。

新学部設置の必要性

しかしながら、上記の教育理念を具体的に実践するにあたり、現状の本学における 1 学部
5 学科の構成は、必ずしも有効な形態ではないと考えられる。70 年以上前の開学当初から枠
組みを変えていない日本語日本文学科、英語英文学科に代表されるように、学科構成が旧来
の固定的な学問分野の区切りにとどまるため、多様性のあるカリキュラムが構築しづらく、
複合的な学びを実現させることが困難であった。

上記の問題点を解消し、社会のニーズに応える教育を、在学生および高校生にわかりやす
く展開するために、文学部 5 学科を発展的に改組転換し、総合文化学部と地球市民学部の 2
学部を設置する。両学部とも、従前と同じく、自ら考え、行動できる女性を育成するという
共通の目標を掲げるが、そこに到達するための学び方によって学部を分けることで、それぞ
れの教育内容と特色をより明確に打ち出すことを可能とするものである。

このうち、総合文化学部は、日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学
科、文化史学科の 4 学科を、総合文化学科 1 学科として再編するものである。この再編によ
り、従来の学科の枠組みを超えて、人文科学の諸分野を横断する学びが可能となる。多様化
する高校生の志向に対応すると同時に、現代社会で必要とされる総合知とそれを活用する
汎用的な能力を身につけた人材を輩出するために必要な改組転換として位置づけられる。

2. 養成する人材像と教育研究上の目的

(1) 総合文化学部：養成する人材像と教育研究上の目的

総合文化学部では、開学以来の清泉女子大学の教育モットーである「まことの知・まこと
の愛 (VERITAS et CARITAS)」を具現することを第一の教育目的とする。加えて、従来より
も広範かつ多様な学問知を基盤とする教育が可能となるため、前述した人文科学の学問的

特徴を最大限に活かし、学生の想像的・創造的思考力を涵養することを第二の目的とする。この二つの目的を達成するために、学問分野を横断した知識を修得しつつ、種々の汎用的能力の養成が可能なカリキュラムを構築し、幅広い教養を基盤として、他者を理解し、物事を客観的に判断し、よりよい社会を作り上げるために主体的に動くことのできる人材を輩出することを目指す。

総合文化学部として養成する人材像と教育研究上の目的は、以下の通りである。

養成する人材像

人文科学の諸分野に関する幅広い知識を基盤として人間の尊厳や文化の多様性を深く理解し、人間愛の立場から自律的に社会貢献し、国際的に活躍できる人材を養成する。

教育研究上の目的

- ①建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを基盤とし、人文科学の見地から「人間とは何か」を追究することを通して、幅広い教養と専門分野の知識を修得させる。
- ②多様な文化のあり方を理解することで、他者を尊重し、協働できる姿勢を涵養する。

(2) 総合文化学科：養成する人材像と教育研究上の目的

総合文化学部の下に、総合文化学科を置く。総合文化学科には、日本文化領域、国際文化領域、文化史領域の3領域を置く。総合文化学部の教育目標をより具体的に達成するために、養成する人材像と教育研究上の目的を、以下のように設定する。

養成する人材像

- ①人文科学の広範な知識によって自己を取り巻く世界を的確に理解し、深い洞察力に基づいて判断・行動できる人材を育てる。
- ②文化の多面性を理解し、他者を尊重する姿勢を身につけることによって、国際社会に貢献できる人材を養成する。

教育研究上の目的

- ①3領域（日本文化領域・国際文化領域・文化史領域）の学びを通して、言語・文学・歴史・美術・宗教等の専門知識を修得させる。
- ②領域を横断する総合的な学びによって、さまざまな物の見方を知り、文化・社会の多面性を理解する力を身につけさせる。
- ③段階的な学修によって、データ処理能力、分析力、問題解決力、表現能力等を身につけさせる。
- ④人間に対する興味関心を持ち、生涯にわたって学びつづける姿勢を涵養する。

3. 3つのポリシー

前述の通り、総合文化学部 総合文化学科では、建学の精神に基づき、人文科学の広範な知識を基盤とした汎用的能力を身につけた人材を養成することを教育目標とする。その達成のために、以下の通り、3つのポリシーを定める。

(1) ディプロマ・ポリシー

全学ディプロマ・ポリシーと、総合文化学部 総合文化学科ディプロマ・ポリシー（以下、「学科ディプロマ・ポリシー」とする）の2つを定める。学科ディプロマ・ポリシーは、全学ディプロマ・ポリシーを、学科の教育体系に即して具体化したものである。全学ディプロマ・ポリシーで項目ごとに定められた能力は、学科ディプロマ・ポリシーにおいてもそれぞれ同じ番号の項目でその達成を目指すものとする。

全学ディプロマ・ポリシー

清泉女子大学では、建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「まことの知・まことの愛 (VERITAS et CARITAS)」を具現することを教育目標とする。その達成のために、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士」の学位を授与する。

DP1【専門知識】

専門プログラムを通して培われる知の力

DP2【リテラシー】

見えるもの聞こえるものを受け止めて、世界を理解し解釈する力

DP3【論理的思考力、批判的思考力】

見えないもの聞こえないものを心に描いて、広く深く思索する力

DP4【主体的に学ぶ力】

自ら学ぶことの大切さを知り、学ぶことの楽しさを深めて、学び続ける力

DP5【協働力】

他者とながら、お互いを知り、お互いを認める力

DP6【問題解決力】

問題を整理して解決を導き、思いを表現し、世界に働きかける力

総合文化学部 総合文化学科 ディプロマ・ポリシー

- DP1 古代から現代に至る人間の営みを、言語・文学・歴史のいずれかを軸として学び、人文科学の専門知識を修得している。
- DP2 ことばを体系的に理解し、運用できるとともに、文献や資料を正確に解釈することができる。
- DP3 人間心理の普遍性や世界の多様性を学ぶことによって、自分とは異なる立場を想像し、客観的な思考をすることができる。
- DP4 自らの興味関心の方向性を知り、学問を探究し、自己の生き方に結びつけることができる。
- DP5 とともに学ぶ過程で互いの見解を理解し、自身の役割を見つけ、他者と協働することができる。
- DP6 自ら問いを見つけ、解法を考え、自分なりの答えを導くなかで、その過程と結果を他者に効果的に伝えることができる。

ディプロマ・ポリシーと養成する人材像の対応

全学・学科いずれのディプロマ・ポリシーも、幅広い専門知識の修得を目指す DP1 と、学修の過程で養成される汎用的能力の修得を目指す DP2～6 の 2 つに区分できる。分野を横断する幅広い専門知識の修得と、その知識を社会で活かすための技能・思考力・姿勢の修得に重きを置いた DP を設定することによって、「2. 養成する人材像と教育研究上の目的」の総合文化学科の「養成する人材像」に掲げた「深い洞察力に基づいて判断・行動できる人材」、「国際社会に貢献できる人材」の輩出を目標とすることを明確化する。

なお、総合文化学科の「教育研究上の目的」とディプロマ・ポリシーとの対応は、以下の表の通りである。

教育研究上の目的	DP1 専門知識	DP2 リテラシー	DP3 思考力	DP4 主体性	DP5 協働力	DP6 問題解決力
①専門知識の修得	○					
②多面的な理解力			○			
③分析力、問題解決力		○				○
④学びつづける姿勢				○	○	

(2) カリキュラム・ポリシー

前述の総合文化学部 総合文化学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

CP1【基本構成】

本学部のカリキュラムは、学生が学部のカリキュラムを越えて履修する基幹教育科目と学科の専門科目によって構成される。

CP2【領域】

本学科には3つの領域（日本文化領域、国際文化領域、文化史領域）があり、学生は入学時に選択した領域（自領域）の学問分野をベースとして学修を進める。3つの領域は相互に関連しているので、自領域以外の領域（他領域）の科目が履修できるようにカリキュラムを編成し、学生には領域を横断する科目履修を推奨する。

CP3【基幹教育科目】

様々な場面で活用できる汎用的スキルをはじめ、人間観・人生観を広め深める力、言語によるコミュニケーション力、そして領域をこえて専門知を活用する力を身につけるために基幹教育科目を設置する。以下の「清泉スタンダード」「必修外国語」「選択外国語」「教養科目」の4つの区分を設ける。

CP3-1 基礎的汎用的なスキルを身につけ、キリスト教の人間観を学ぶとともに自らの人生観を考えるため、1・2年次必修「清泉スタンダード」科目群を置く。各科目の位置づけを理解したうえで履修できるように、科目群を「学びのスキル」「建学の精神」「情報科学」「心身の健康」「人間・社会」の5つの区分に整理する。

CP3-2 「必修外国語」科目として、実践的な英語の発信力を育成する1・2年次必修英語科目を置く。4技能の基礎力を固めるとともに、英語を使って清泉を知り、社会とつながる力を身につける。授業の一環としてe-learningも導入し、各自のレベルに合わせて学修を補完する。

CP3-3 各自の興味や目標に応じて学ぶことのできる「選択外国語」科目（2単位は選択必修）を配置する。スキル別の力の向上や各種検定対策を意識した多様な英語科目と、異なる価値観に触れ、新たな視野をはぐくむ諸外国語科目から構成される。初習外国語は段階的に学べるように、入門と初級のレベルを設置する。

CP3-4 専門領域をこえた幅広い知識や、多角的にものごとをとらえる力を身につけるための「教養科目」を、1～4年次の選択科目として置く。「教養科目」を「清泉スタンダードの展開」と位置づけ、必修科目とのつながりが意識できるように、「清泉スタンダード」の5つの区分に準じて科目を配置する。

CP4【専門科目】

言語・文学・歴史を軸とする人文科学の広範な知識を修得するとともに、社会に通用する汎用的能力を身につけるために専門科目を設置する。以下の「専門コア科目」「専門基礎科目」「専門探究科目」の3つの区分を設ける。

CP4-1 思考力・分析力・表現力等の汎用的能力を養成するために、1～4年次に「専門コア科目」を置く。主体的に学修に取り組む姿勢を培い、他者と協働しながら、学びの集大成である卒業論文・卒業プレゼンテーションへと向かうための段階的なカリキュラムを構成する。

CP4-2 各領域の学問分野に必要な基礎知識と基本的な学習方法を修得するために、1年次に「専門基礎科目」を置く。それぞれの学問分野の導入となる入門的な科目を配置する。

CP4-3 人文科学の知識を幅広く修得するために、2～4年次に「専門探究科目」を置く（一部の科目は1年次から履修可）。1学部1学科制の特徴を活かし、自領域・他領域の区別にとらわれることなく、自由で幅広い科目選択を可能とする。各自が身につけたい知識・技能に応じて体系的な科目履修ができるように、32単位を基本とした履修モデル（プログラム）を設定する。

カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応

上記のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応は、科目群ごとに以下の表の通りとなる。特に DP2【リテラシー】、DP3【論理的思考力、批判的思考】、DP6【問題解決力】に関しては、汎用的能力を強化していくための段階的な到達目標として位置づけ、下級年次から上級年次へと順に到達できるようにカリキュラム・ポリシーと対応させる。また、DP4【主体的に学ぶ力】はすべての科目における到達目標とする。

専門科目については、「専門基礎科目」・「専門探究科目」が主として DP1 に対応し、「専門コア科目」が主として DP2～6 に対応する。幅広い知識とそれを活かす汎用的能力をそれぞれの科目群で身につけ、相互に補完しつつ教育目標を達成するように構成されている。

		DP1	DP2	DP3	DP5	DP6
CP		専門知識	リテラシー	思考力	協働力	問題解決力
CP1【基本編成】						
CP2【領域】						
CP3 【基幹教育科目】	CP3-1【清泉スタンダード】		◎	○	○	
	CP3-2【必修外国語】		◎		◎	
	CP3-3【選択外国語】		◎		○	
	CP3-4【教養科目】		○	◎	○	
CP4 【専門科目】	CP4-1【専門コア科目】	*	◎	◎	◎	◎
	CP4-2【専門基礎科目】	◎	◎			
	CP4-3【専門探究科目】	◎	○	○	○	○

◎＝当該科目群で主に対応する DP

○＝一部科目で対応する DP

DP4（主体的に学ぶ力）＝全科目で対応

*「卒業論文・卒業プレゼンテーション」のみ対応

各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係については、カリキュラムマップ（【資料 1】）に示す。教育課程の体系については、「④ 教育課程の編成の考え方及び特色」で詳述する。

また、ディプロマ・ポリシーに定める到達目標を達成するために、各授業科目における到達目標を具体化し、到達状況を適切に評価する。成績評価に加え、各種アセスメントテストおよび学生の自己評価（アンケート）を柔軟に組み合わせ、複合的に評価することとする。

（３）アドミSSION・ポリシー

前述のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める人材を育成するため、以下の通り、「学力の３要素」に示す能力、資質等を備えている学生を求める。

AP1【知識・技能】

総合文化学部 of 学修に必要な国語、英語、地理歴史を中心とした教科・科目で、高等学校等で習得すべき基礎的な学力が身についている。

AP2【思考力・判断力・表現力】

物事を筋道立てて捉え、自分の考えをまとめ、それを伝えるための基礎的な力を有している。

AP3【主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度】

総合文化学部 of 学修内容・分野（言語・文学・歴史・美術・哲学・宗教など）に興味・関心を持ち、課題に対し主体性を持って粘り強く取り組む姿勢、および他者と協調して学修しようという意欲・態度を有している。

アドミSSION・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応

上記のアドミSSION・ポリシーとディプロマ・ポリシーの各項目の対応は、以下の表の通りである。各 AP が 2 つの DP と対応し、AP 全体ですべての DP へと繋がるように構成されている。

AP	学力の 3 要素	DP1 専門知識	DP2 リテラシー	DP3 思考力	DP4 主体性	DP5 協働力	DP6 問題解決力
AP1	知識・技能	○	○				
AP2	思考力・判断力・表現力			○			○
AP3	主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度				○	○	

なお、入学者選抜ごとの実施計画については、「⑪ 入学者選抜の概要」で詳述する。

(4) 3つのポリシーの相関・整合性

ここまで述べてきたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー相互の関係性・整合性については、3つのポリシー対応表（【資料2】）にまとめて示す。ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な資質を持つ学生をアドミッション・ポリシーで定めると同時に、最も高次の到達目標である DP6【問題解決力】に向けて段階的に学修を進めていけるようにカリキュラム・ポリシーを設定する。総合的な人文科学の知識の修得（DP1）と DP6 の達成を目指して「卒業論文・卒業プレゼンテーション」に向き合うことで、最終的な学修目標が達成できるように設計されている。

4. 研究対象とする中心的な学問分野

本学科の中心的な学問分野は、人文科学である。具体的には、文学（日本文学、英語圏文学、スペイン語圏文学）、言語学（日本語学、英語学、スペイン語学、外国語教育学）、歴史学（日本史学、東洋史学、西洋史学、日本美術史学、西洋美術史学、宗教史学、聖書学）を研究対象として有する。

② 学部・学科等の特色

学部・学科の特色

総合文化学部 総合文化学科は、本学が長年培ってきたキリスト教ヒューマニズムを基盤とした教育をひきつづき実践し、普遍的な人間の営為を「文化」という事象を通して考究することによって、社会においても通用する思考力・判断力・表現力を育むことを重視する。文学、言語学、歴史学等の専門分野の学修を軸として、関連する他領域の学問分野も横断的に学ぶことにより、広範な人文科学の知識を修得させると同時に、その知識を実践的に活かすことのできる汎用的能力を培う点を特色とする。

特に、190 科目を配置する「専門探究科目」は、学生各自が学びたい内容、身につけたい能力に応じて、科目を自由に組み合わせて履修することができる。従来の学科単位では叶わなかった学際的な学びが可能となる点が、本学科の最大の特徴であると言える。

中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、特に「総合的教養教育」に比重を置き、特色の明確化を図ることとする。

組織全体の特色

総合文化学部の設置により、上位組織である清泉女子大学は、従来の文学部 1 学部体制から 2 学部体制（地球市民学部・総合文化学部）へと変更されるが、両学部ともにキリスト教ヒューマニズムに基づいた教育を行い、「まことの知・まことの愛（VERITAS et CARITAS）」を具現することを目指す点は共通する。両学部の学修方法は異なるものの、大学としての教育理念・目標は従前通りであるため、組織全体の特色に変更は生じない。

③ 学部・学科の名称及び学位の名称

「① 設置の趣旨及び必要性」及び「② 学部・学科等の特色」で述べた通り、本学部の教育研究上の目的は、人文科学の広範な知識を土台とし、社会に通用する汎用的な能力を育成する点にある。中心となる学問分野は、従前の文学部と同様であるが、受験生には狭義の「文学」のみを扱う学部と誤解されかねない懸念があるため、人文科学が本質的に向き合う人間の営為を端的に表すものとして「文化」という言葉を選んだ。さらに、従前の4学科を統合することによって、文化を多角的・複合的に考察することが可能となったことを示すために「総合」を冠し、「総合文化学部」の名称を選定した。1学部1学科であるため、学科も同様の「総合文化学科」とし、学位は、学びの内容を社会にわかりやすく示すために、「学士（人文科学）」とした。

また、英語名称については、国際的な通用を踏まえ、人文科学を扱う学部であることを明確に示すために、「Humanities」を用いることとした。学部の英語名称は「Faculty of Humanities」、学科の英語名称は「Department of Humanities」、学位の英語名称は「Bachelor of Humanities」である。

学部の名称

総合文化学部

[Faculty of Humanities]

学科の名称

総合文化学科

[Department of Humanities]

学位の名称

学士（人文科学）

[Bachelor of Humanities]

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成の体系性

「① 設置の趣旨及び必要性」の「3. 3つのポリシー」内「(2) カリキュラム・ポリシー」で述べた通り、本学部教育課程は、基幹教育科目と学科の専門科目の2つに大別される（CP1【基本構造】）。全体として、従来の学科制とは異なる分野横断的な学修によって、広範な知識修得を可能とする教育課程を編成する。さらに、総合的な専門知を活用するために必要となる汎用的能力が段階的に身につけられるように、年次進行を意識した科目配置がなされている。

以下、科目区分ごとに、それぞれの編成について説明する。

(1) 基幹教育科目（CP3）

基幹教育科目は、全学共通で、キリスト教ヒューマニズムに基づく建学の精神を核とした人間観を育み、社会に通用する汎用的能力を向上させるために設けられた科目群で、「清泉スタンダード」「必修外国語」「選択外国語」「教養科目」の4つの区分で構成されている。総合文化学部にとっては、専門教育の前提となる基礎的・汎用的なスキルを養成すると同時に、専門教育で対象とする領域をこえた学問知を身につけ、それを活用する力を培う科目群として位置づけられる。

清泉スタンダード（CP3-1）

汎用的能力の強化および人間観、人生観を考える力の強化を目標とする1・2年次の必修科目群である。各科目の位置づけを明確化するために、以下の5つの区分に整理する。

ア 学びのスキル

大学での学修を円滑にスタートさせるために必要な知識・スキルを修得するための科目群である。基本的な学修環境を整えるための「スタートアップ・ゼミナール」と、高校から大学の学びへの意識の転換および基礎的スキルを身につけるための「初年次ゼミナール」を配置する。いずれも1年次前期に設定され、全学的な学びの入口として配置される。

イ 建学の精神

本学の建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解するための科目群である。キリスト教についての基礎的・専門的知識を段階的に学び、自らの人生観に結びつけて考える力を養う。1年次に「人間論」（前期）、2年次に「キリスト教学Ⅰ」（前期）、「キリスト教学Ⅱ」（後期）を配置する。

ウ 情報科学

大学での学修におけるICT活用に必要な知識とスキルを修得するための科目群である。BYOD PCの環境整備およびそれを活用するための基礎的スキルの養成を目的とした「情報環境の構築」を1年次前期に配置する。同じく1年次に配置される「情報社会の安全と倫理」

（前期）、「データリテラシー基礎」（後期）は「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（リテラシーレベル）に認定されたカリキュラムを構成する必修科目である。情報セキュリティ問題の解決力、基礎的なデータ処理能力の向上を目的とする。

エ 心身の健康

大学生活を健康かつ安全に過ごすために、1 年次後期に「健康・安全管理」を必修科目として配置する。大学生活のみならず卒業後も健康に生きるための知識と実践力を身につける。

オ 人間と社会

自らをとりまく社会を多角的に捉える力を培うための科目群である。1 年次前期の「初年次ゼミナール」「人間論」で学んだ現代的な課題を自らのキャリアと関わらせて考えるために「キャリア・デザインⅠ」を1 年次後期に配置する。また、本学の建学の精神と深く関わるスペイン語の学習を通して、異なる国や地域の文化・社会に親しむ姿勢を身につけるために「スペイン語の世界」を2 年次後期に配置する。いずれも必修科目として設定する。

必修外国語（CP3-2）

実践的な英語の発信力を育成することを目標とする科目群である。1 年次前期／後期に「First-year English: Seisen Studies in English」と「First-year English: Integrated Skills」、2 年前期に「Second-year English: English Seminar」を必修科目として配置する。いずれの科目にも e-learning が導入され、各自の英語レベルに最適化された内容で学修を補完する。

なお、「First-year English」の履修に必要な英語力が十分でない学生向けに「First-year English: Basic English HC」を設置し、代替履修を可能とする。

選択外国語（CP3-3）

語学力の強化と異文化理解の向上を目標とする科目群である。外国語学習を通して異なる価値観に触れ、新たな視野を形成するために、2 単位を選択必修とする（「日本語」科目を除く）。スキル別の力の向上を目指す「English Skills Workshop」、各種英語検定対策講座、諸外国語（フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮・韓国語、イタリア語、ギリシア語、ラテン語、ロシア語）科目等を配置する。初習外国語は段階的に学べるように、入門と初級のレベルを設置する。

教養科目（CP3-4）

専門領域をこえた幅広い知識や、多角的にものごとをとらえる力を身につけるための科目群である。各自の興味関心に応じて自由な履修が可能となるように選択科目として設定する。必修科目との繋がりを意識させ、体系的な履修が可能となるように、「清泉スタンダードの展開」科目群として位置づけ、「清泉スタンダード」と同様の5つの区分に科目を配

置する。各区分に該当する科目は、以下の表の通りである。

学びのスキル	建学の精神	情報科学	心身の健康	人間・社会
考える技法	キリスト教の祈り	数量リテラシー	暮らしの科学（実験講座 健康と環境）	キャリア・デザインⅡ
書く技法（基礎）	キリスト教のことば	情報科学1	暮らしの科学（栄養学）	キャリア・デザインⅢ
書く技法（一般）	キリスト教の思想	情報科学2	暮らしの科学（病気の予防）	キャリアの組織論
書く技法（発展）	キリスト教と現代社会	情報科学3	暮らしの科学（健康増進）	インターンシップ
読む技法	キリスト教と美術	情報科学4	心身の医学	ジェンダー学
対話の技法	キリスト教と音楽		体育実技・理論	ほか左記以外の
文理融合基礎	キリスト教と文学		体育実技・理論	教養科目すべて

なお、教養科目に該当する科目は、カリキュラムマップ（【資料1】）にすべて掲出している。

（2）専門科目（CP4）

専門科目は、総合文化学科の中心的な学問分野（文学、言語学、歴史学）の専門知識を修得すると同時に、社会に通用する汎用的能力を育成するために設けられた科目群で、「専門コア科目」「専門基礎科目」「専門探究科目」の3つの区分で構成されている。

本学科には、3つの領域（日本文化領域、国際文化領域、文化史領域）を設定する（CP2【領域】）。入学時に選択した領域（自領域）の専門分野に関わる科目を学修の核として履修しつつ、自領域以外の領域（他領域）の専門分野も柔軟に学修できるように科目を配置する。

専門コア科目（CP4-1）

汎用的能力を培うための科目群である。1～4年次に必修（もしくは選択必修）科目として配置され、学びの集大成である「卒業論文・卒業プレゼンテーション」に向かうための段階的なカリキュラムを構成する。演習科目を中心に構成され、全科目（「卒業論文・卒業プレゼンテーション」を除く）で協働力の強化を目指す。以下、科目毎に設置意図を説明する。

ア「総合文化スタディーズ」

1年次前期に配置する。テーマ別に3コースを設定し、いずれか1コースを選択必修とする。領域の枠を超えて、総合文化学科の有する学問分野を知るとともに、学ぶことの楽しさを知り、主体的に学問と向き合う姿勢を身につけるための科目である。

イ「日本文化入門演習」「国際文化入門演習」「文化史入門演習」

1年次後期に配置する。領域毎の学問分野を横断するオムニバス形式の授業を実施する。自領域の入門演習を必修とする。領域内の学問体系を理解し、基礎的な調査分析方法や考え方を身につけるための科目である。

ウ「総合文化データサイエンス」

2年次前期に配置する。本学科の専門分野におけるデータサイエンスの活用法を理解し、調査・分析能力を高めるための科目である。

エ「基礎演習」

2年次前期にa、後期にbを配置する。22科目を設置し、科目番号1～5が日本文化領域、

6～13 が国際文化領域、14～22 が文化史領域の専門分野を扱う。自領域の科目を前期後期とも 2 単位（計 4 単位）ずつ必修とする。論理的・批判的な思考力を身につけるための科目である。

オ「演習」

3 年次前期に a、後期に b を配置する。科目設定は「基礎演習」と同様である。「基礎演習」でのトレーニングを土台として、自ら課題を見つけ、それを解決するためのトレーニングを行うための科目である。

カ「研究法演習」

4 年次前期に a、後期に b を配置する。卒業論文の作成、卒業プレゼンテーションの実施に向けての指導を受けるための科目である。指導教員担当科目の履修を必修とする。「基礎演習」「演習」でのトレーニングを土台として、思考力、表現力を完成させる。

キ「卒業論文・卒業プレゼンテーション」

4 年間で身につけた思考力・表現力を可視化し、専門的な学修成果を総合的に評価するために、必修科目として配置する。

専門基礎科目（CP4-2）

1 年次前期・後期に配置する。各領域の学問分野に必要な基礎知識と基本的な学習方法を修得するための科目群である。自領域の科目は前期後期とも 4 単位（計 8 単位）を必修とし、他領域の科目も履修可とする。領域毎の必修科目は、以下の通りである。

	日本文化領域	国際文化領域		文化史領域
		専攻言語：英語	専攻言語：スペイン語	
前期	漢字文化論 初級くずし字ワークショップ	パフォーマンスa 英語アカデミック・ベーシックsa	スペイン語Ⅰ-1（文法） スペイン語Ⅰ-2（文法） スペイン語Ⅰ-1（会話） スペイン語Ⅰ-2（会話） Gramática y lectura I-1* Gramática y lectura I-2* Comunicación oral I-1* Comunicación oral I-2*	文化史学序説 日本史概説a 東洋史概説a 西洋史概説a }
後期	日本文学読解トレーニング 日本語データ分析入門	パフォーマンスb 英語アカデミック・ベーシックsb	スペイン語Ⅱ-1（文法） スペイン語Ⅱ-2（文法） スペイン語Ⅱ-1（会話） スペイン語Ⅱ-2（会話） Gramática y lectura II-1* Gramática y lectura II-2* Comunicación oral II-1* Comunicación oral II-2*	日本史概説b 東洋史概説b 西洋史概説b 史学概論 美術史概論 哲学概論 宗教学概論 聖書学概論 }

* 既修者用クラス

なお、スペイン語科目のみ、授業内学修に比重を置くため、1 単位設定とする。4 科目を配置することによって、他の専門基礎科目と同等の学修量を担保する。

専門探究科目（CP4-3）

2～4 年次に配置する（一部の入門的な科目は 1 年次から履修可とする）。人文科学の広範

な知識を修得するための科目群である。1 学部 1 学科制の特徴を活かし、領域にとらわれることなく、自由で幅広い科目選択を可能とする。各自が身につけたい力に応じて体系的な科目履修ができるように、32 単位を基本とした履修モデル（「プログラム」）を設定する。履修モデルについては、「⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」で詳述する。

なお、専門探究科目に該当する科目は、カリキュラムマップ（【資料 1】）にすべて掲出している。

2. 主要授業科目

総合文化学科では、主要授業科目を「専門コア科目」の各科目に設定する。ただし、「総合文化スタディーズ」は、本学科が有する学問領域を紹介するガイダンス的要素の強い科目であるため、主要授業科目からは除くこととする。

本学科では、自由で多様な履修を重視するため、学生によって履修する科目は大幅に異なることとなる。そのなかで、「専門コア科目」は、全領域共通の必修科目で構成されており、学生の学修活動の基盤となる科目群として位置づけられるため、これらを主要授業科目に設定する。

3 ポリシー対応表（【資料 2】）に示した通り、基幹教育科目も含め、本学部のすべての科目は、最も高次の到達目標である DP6【問題解決力】を担う科目に繋がるように設計されている。DP6 を主として担うのは、「専門コア科目」内の「演習」、「研究法演習」、「卒業論文・卒業プレゼンテーション」である。これらの科目はすべて基幹教員が担当し、「養成する人材像」に叶う人材を輩出するために適切な指導を行うこととする。

3. 単位時間数

本学では、授業内学修に比重を置くスペイン語科目（「専門基礎科目」）を除き、1 単位あたりの学内の授業時間数を 15 時間として設定し、授業外学修に比重を置く。そのため、1 単位あたり 45 時間の学習時間を確保するために、半期で登録できる単位の上限を 24 単位に設定する。1 週間で必要な授業外の学習時間は 42 時間になり、学生には日曜日を除いた月曜日から土曜日に毎日 7 時間の学習が求められている。令和 2 年度から BYOD を導入し、大学の空き時間や休み時間、通学時間等、何時でも何処でも学習できる環境を提供しているため、十分この学習時間を確保することができると考えている。

4. 一年間の授業期間や各授業科目の授業期間

本学では、令和 3 年度より 105 分授業×13 週で半期の授業を構成している。授業期間を半期 13 週とすることで、従来の半期 90 分×15 週の時よりも長くなった長期休暇期間を利

用して、集中授業、ボランティア活動、インターンシップ、PBL 活動や海外研修等学生が自ら主体的に行う学外学修に挑戦しやすい環境を提供し、学外での学びを推進している。

また、以前より長くなった 105 分の授業時間を活用し、1 回の授業の中で講義とディスカッションや演習、実習などを組み合わせた授業やアクティブラーニングの導入、地域連携活動、実習体験学習など、これまでの 90 分授業では実現できなかった本学の多様な学びの推進を実現している。

以上のような教育効果を踏まえ、新学部設置後も同様の授業期間を設定する計画である。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

総合文化学部 総合文化学科のカリキュラムは、人文科学の総合的な知識とそれを実践で活かすための汎用的能力を修得できるように編成されている。各科目の授業内容を効果的に教授するために、以下の通りの教育方法を用いる。

(1) 授業の方法と学生数

授業形式については、各科目の到達目標に応じて、講義形式、演習形式、実習形式の3形態を使い分ける。講義形式は、知識を修得する科目に用いる。演習形式は、修得した知識を主体的に活用するためのトレーニングを行う科目に用いる。実習形式は、主として身体的な活動を伴う科目に用いる。

「④ 教育課程の編成の考え方及び特色」で述べた通り、本学科の専門科目は、汎用的能力の育成を主目的とする「専門コア科目」と、専門知識の修得を主目的とする「専門基礎科目」・「専門探究科目」に大別される。よって、講義形式および演習形式の科目を中心として編成し、実習形式はそれを補完するために配置される。

「専門コア科目」は、演習形式を中心として編成する。ゼミナール形式での少人数授業を基本とし、クラス数および同一目的で実施する科目数を多く設定している。例外的に、「総合文化スタディーズ」・「総合文化データサイエンス」は、オムニバスでの講義形式となるが、授業内でグループワーク等を実施するなどして、主体的に学びに向かう姿勢の強化を補完する。

「専門基礎科目」は、講義形式・演習形式の双方を用いる。各領域の学問分野の特色にあわせて、それぞれの基礎知識を修得するために有効な方法を設定する。

「専門探究科目」は、講義形式を中心として編成する。1クラスの履修者数が多くなる場合があることも想定しているが、知識の修得が主目的であるため支障はないと考える。語学系の科目、ワークショップ型の科目については演習形式で行い、効果的に学修が進められるようにクラス数を多く設定している。語学研修等の学外実習を実施する科目については実習形式で行う。詳細は、「⑨ 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的な計画」において述べる。

基幹教育科目についても、上記と同様の方針で、到達目標によって授業方法を使い分ける。「清泉スタンダード」は基礎的な知識および汎用的能力の修得を目指す必修科目群であるため、科目ごとの目標に応じて有効な方法を設定し、3形態が混在する形で編成する。「必修外国語」・「選択外国語」は専門科目の語学系科目と同じく演習形式として設定し、適正な履修者数となるようにクラス数を設定している。「教養科目」は知識の修得が主目的となるため講義形式を中心に編成する。

以上のように、基幹教育科目・専門科目の授業方法を統一の方針によって設定することに

よって、相互に補完する形で確実に学修目標に到達できるように授業を展開していく。

(2) 配当年次

「④ 教育課程の編成の考え方及び特色」で述べた通り、「卒業論文・卒業プレゼンテーション」を最終目標として段階的に学修が進められるように、基幹教育科目、専門科目いずれも、基礎から応用、発展へと進行していく形で各科目に年次を割り当てている。

汎用的能力を養成するための科目として、基幹教育科目の「清泉スタンダード」を1年次に配置し、専門科目の「専門コア科目」を各学年に段階的に配置する。基幹教育科目の「必修外国語」は1・2年次に、「選択外国語」は上級年次での履修も推奨し、継続して外国語学習を進められるように指導する。

広範な知識を修得するための科目として、基幹教育科目の「教養科目」は1～4年次に、専門科目の「専門基礎科目」は1年次に、「専門探究科目」は基本的には2～4年次に配置する。「専門探究科目」の一部の入門的な科目は1年次から履修可能とすると同時に、高度な内容の科目は3・4年次配当にするなどし、体系的に知識を修得できるように設定する。

2. 卒業要件

総合文化学部では、基幹教育科目で40単位、専門科目で62単位、自由選択で22単位以上、計124単位以上修得することを卒業要件とする。【資料3】の表に示す。

専門科目のうち、最低必要単位数として過半数を占めるのは、人文科学の広範な知識を修得するための「専門探究科目」である。32単位分の科目の組み合わせについては、履修モデルを設定し、体系的な学修が進められるように履修指導を行う。

さらに、自由選択として、基幹教育科目（選択外国語、教養科目）、専門科目（すべての科目群）から、上記の規定単位数を超える分の科目を履修することができるほか、他学部（地球市民学部）科目、資格課程科目を選択履修することもできる。22単位という幅を持たせることによって、学生の主体性を重視し、より広範な知識が修得できるように設定している。

3. 履修モデル

選択領域別に、以下、4つの履修モデルを提示する。履修モデル①～③は自領域の科目を中心に学ぶモデル、履修モデル④は領域を横断して学際的に学ぶモデルとして設計している。

履修モデル① 選択領域：日本文化【資料4-1】

日本文化領域を選択し、日本語学を専門的に学ぶ学生を想定したモデルである。言語学、日本語学関係の科目を中心に履修し、言語に関する知識を増やすと同時に、創作実践の科目

を履修することによって、洗練された日本語力を身につける。また、外国語や異文化コミュニケーションに関する科目の履修により、自国文化を相対的に捉える視座も獲得する。就職先としては、出版・編集、広告・メディア、教育サービス、公務員等が想定される。

履修モデル② 選択領域：国際文化（スペイン語専攻）【資料 4-2】

国際文化領域を選択し、スペイン語を専門的に学ぶ学生を想定したモデルである。スペイン語を段階的に学ぶことにより、4年間で確固たる語学力をつけることを目指す。実践的にスペイン語を使える能力を養成すると同時に、外国語学習を通して異文化を知り、他者に対する想像力を磨くことによって、国際的に活躍できる力を身につける。就職先としては、観光、国際交流、教育サービス等が想定される。

履修モデル③ 選択領域：文化史【資料 4-3】

文化史領域を選択し、歴史学を専門的に学ぶ学生を想定したモデルである。ゼミナールの分野は日本史を選択するが、各国の歴史に関する科目も履修し、世界的な観点から日本を捉える視座を獲得する。加えて、日本文化に関わる科目も履修することで、多角的に自国を理解するための知識を修得する。就職先としては、観光、出版・編集、広告・メディア、公務員等が想定される。

履修モデル④ 選択領域：国際文化（英語専攻）【資料 4-4】

国際文化領域を選択し、英語学を専門的に学びつつ、自国文化を世界に発信する方法を身につけることを目指す学生を想定したモデルである。日本文化や日本史に関する科目を多く履修することで自国に関する知識を得ると同時に、異文化コミュニケーションや国際交流に関わる科目の履修によって、国際社会でその知識を活用する力を修得する。就職先としては、観光、国際交流、航空、ホテル、外資系企業等が想定される。

以上のように、自領域の学問分野を中心に学びながら他領域の学問分野によって視野を広げる、あるいは全領域の学問分野を横断的に学び幅広い知識を身につける等の履修パターンが想定されるが、いずれのモデルにおいても、人文科学の広範な知識に基づいた多角的な視座を身につけ、国際社会に通用する能力を持つ人材を育成することが可能である。

4. 履修科目の年間登録上限（CAP 制）

単位の過剰登録を防ぎ、1単位を修得するために必要な学修時間（45 時間）を確保することで単位の実質化を図るとともに、各年次にわたって体系的かつ段階的に履修することで学修の質を向上させることを目的として、半期 24 単位、年間 48 単位を履修登録単位の上限に設定する。また、学生の学習意欲を高めるために、前年度の GPA が 2.8 以上の場合

登録単位の上限を超えて履修登録することができる制度を設ける。

5. 留学生の受入れ

正規留学生、交換留学生の当学部への入学・在籍を予定している。在籍開始時には、各部署の職員がオリエンテーションを行う他、学科教員が学期初めの履修指導を行う。留学期間中の在籍管理や生活指導については国際交流センター職員が担当し、定期的を開催する留学生ランチミーティングなどで在籍を確認する他、授業、生活、アルバイトについて指導する。国際交流センター職員や所属学科教員が定期的に留学生の授業の出席状況などを確認し、問題があれば教職員が協力して対応する。この他に、留学生の日常的な学習・生活の相談にはアドバイザー教員とバディ学生を配置して複数の相談できる窓口を提供する。

6. 多様なメディアを利用した授業

メディアを利用した授業は、基幹教育科目の「初年次ゼミナール」が該当する。当該科目は、再履修者用の科目として設定される。再履修者の中には合理的配慮が必要となる学生等も含まれるため、各自の事情に応じた履修が可能となるように、オンデマンド教材等を用いて授業を行う。卒業要件としては、通常の「初年次ゼミナール」と同様に扱う。

⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

総合文化学部 総合文化学科では、インターネット等の高速大容量通信網を利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を、遠隔地間でほぼ同時に共有する技術を用いて行う授業（以下、遠隔授業と記す。）を、別に定める「多様なメディアを高度に利用した授業の実施ガイドライン」（【資料 5】）に沿って実施することがある。

実施場所

遠隔授業を実施する場所は、授業に参加する教員と学生のそれぞれが所在する遠隔地とする。ただし、実施場所の制約によって学修成果が妨げられないように、大学は努力することとする。

実施の形態と授業成立の要件

遠隔授業は、遠隔地にいる授業担当教員と履修者が同時に会話を行える環境で教授学習をすすめるオンライン授業、授業担当教員が構成して送信可能状態にした動画等の教材と履修者が指定された期間内に視聴等して学習するオンデマンド授業の、いずれかまたはそれらの組み合わせで実施できる。

実施に必要とされる機器と環境を整備する責任主体

教員が遠隔授業を実施するために必要とする機器と実施環境の整備は、大学、授業担当教員、履修者が、それぞれ分担して行うこととする。分担の詳細は、「多様なメディアを高度に利用した授業の実施ガイドライン」に定める。

学則での規定

遠隔授業の実施に当たり、実施根拠を明確にするため、本学学則において、以下のとおり規定する。

【学則抜粋】

第 12 条 授業の方法は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

② （略）

③ 第 1 項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

④ 教育上有益と認めるときは、第 1 項の授業を、外国において履修させることができる。

前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

- ⑤ 授業時間のおおよそ2分の1以上を第3項の方法により実施する授業科目については、当該授業科目を開講する年度の開始時に、学生に対してその旨を明示するものとする。
- ⑥ 第3項の方法により修得する単位数は、60単位を超えて卒業に必要な単位として算入することができない。

告示の要件を満たすものであることの説明

上記の学則第12条第6項に定めるように、卒業に必要とされる単位に示す遠隔授業科目の単位数が60単位を超えることがない仕組みとなっている。それは大学設置基準第32条第5項に定める範囲内となっている。

⑦ 編入学定員を設定する場合の具体的計画

総合文化学部 総合文化学科では、編入学定員は設定せず、定員の範囲内で編入学を認める。

既修得単位の認定方法

入学前に所属していた他大学等での既修得単位の認定は、成績証明書・シラバス等を確認し、科目内容、科目のレベル、授業時間数等を基に、基幹教育科目、学科専門科目の区分ごとに単位の認定を行う。

履修指導方法

編入学生には、本学入学後2年間（3年次編入）あるいは3年間（2年次編入）で卒業ができるように学年毎の学部全体ガイダンスに加え、編入学生ガイダンスを実施し、他大学等の既修得単位の認定状況に応じた履修計画が立てられるよう本学教員が個別に対応する。

教育上の配慮

編入学年のグループアドバイザーの教員や学務担当職員が履修登録の相談に応じ、履修登録のアドバイスを行う。既修得単位の認定状況によっては、下級年次対象科目を上級年次で履修することがあり得るので、教員・職員間で連絡を取り柔軟に対応する。

⑧ 実習の具体的計画

総合文化学部 総合文化学科で履修できる資格課程の実習について、以下の通りに計画する。

1. 教育実習（教職課程）の具体的計画

（1）実習の目的

教育実習は、教職課程コアカリキュラムに書かれているとおり、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として、教員免許を取得するための必修科目として置かれている。指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることが、教育実習の目的である。

本学では、中学校・高等学校の一種免許を両方とも取得するように指導し、学生は3週間の教育実習を行う。

（2）実習先の確保の状況

教育実習校に関しては、教職課程の課程認定時に清泉女学院中学高等学校（神奈川県鎌倉市城廻 200 番地）等の私立学校から承諾を受けており、また、本学が所在する東京都教育委員会から、東京都公立学校教育実習実施承諾書を受けている。これらの機関には、毎年教育実習生を受け入れていただいている。その他、本学との協定校、学生の出身校等からも、毎年、実習の協力をいただいている。教育実習先は問題なく確保できている。

清泉女学院中学高等学校の教育実習受入れ承諾書（【資料 6-1】）と、東京都教育委員会の東京都公立学校教育実習実施承認書（【資料 6-2】）を添付する。

（3）実習先との契約内容

本学科の母体となる従前の4学科では、書面上の契約は締結せずに、教育実習校で教壇実習をはじめとする教育実習の機会の提供を受けていたが、今後、様々な状況の変化も想定されるため、必要に応じて実習先との契約も締結する予定である。

（4）実習水準の確保の方策

教育実習は、教職課程と課程認定を受けた学科が協力して行う教員養成の、いわば総仕上げにあたる重要な場であり、その水準の確保は極めて重要である。

教育実習校の質について、また、教育実習の指導にあたる教員が一定の実践的指導力を有

することについて、疑うべき要素はない。実習においては、実際に授業を行う教壇実習を中心として、授業や生徒の観察、活動への参加などを、各実習校の教育活動の中で行なっており、これについても十分な水準が確保されている。

実習の水準を保つためには、実習に行く以前の、3年にわたる大学での教育の質を高めることが何よりも重要である。

教職課程教育の詳細を書くには紙幅が十分ではないので、ここでは、教育実習に直接関わる方策についてのみ取り上げる。授業での対応策から述べると、各「教科教育法」では、ICTの活用法の指導に配慮しつつ、模擬授業を行なって実践力を高め、3年次後期に配置している「教育実習指導」では、教育実習を具体的に意識した指導を行う。また、授業以外では、教職支援室を設置し、ベテランの中高教員、校長や指導主事などの教育行政・管理経験者を相談員として配置し、教育実習に向けた個別の相談・指導体制を整える。

(5) 実習先との連携体制

事務手続きから述べると、教育実習校には、実習実施の1年以上前から、受け入れていただくための打診・連絡を始め、多くの場合は1年ほど前に教育実習の内諾を受ける。その後、実習校に対しては、実習を行う学生の情報その他を適宜伝える。学生には、教育実習開始前に必ず実習校を訪問し、校長、副校長、実習指導教諭等から必要な指導を受けるように指導する。

実際の教育実習に際しては、すべての実習校に教員が巡回指導に出向き、学生の授業を参観し、実習校側からの評価や意見をうかがうことにする。

(6) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

教育実習に限らず、学外で実習や活動をつつがなく行なう場合には、事前に健康状態を確認しておく必要がある。教育実習を行う4年次の4月に健康診断を受け、教育実習に支障をきたす可能性がある健康上の問題がないことを確認する。また、伝染病等の感染のおそれがないことを確認するために、母子健康手帳などの記録から過去の予防接種歴について報告させ、必要な場合には予防接種を受けるように指導する。

また、学外での活動に備えて、大学の負担で全学生が学生教育研究災害傷害保険（通学中等障害危険担保特約付）（学研災）に加入する。教育実習等の場合は、さらに、実施中およびその往復中の損害賠償事故に備えて、学生教育研究賠償責任保険（学研賠）にも大学負担で参加全学生が加入する。

教育実習中に知り得た生徒の個人情報保護することの重要性や、生徒と個人的に接することがはらむ問題については、SNSでの情報発信や情報交換に潜んでいる危険性を含め、「教育実習指導」その他の授業で繰り返し説明し、危険な言動に至ることがないように注意喚起する。

(7) 事前・事後における指導計画

教職課程の指導の多くが事前指導にあたるが、ここでは、教育実習に直接関わる事前指導・事後指導について述べる。

3 年次後期に設置している「教育実習指導」では、教育実習についての基本的な事項をなるべく具体的に理解し、学生が教育実習に対して高い動機づけと意欲を持って準備をしていくことを目的とする。また、「教育実習」の授業は、教育実習を大学の単位として認定するために置いているのにとどまらず、実習開始前に 6 回、実習終了後に 1 回、大学で授業を実施して、事前指導、事後指導を行なう。事前指導では、学生自身の課題を把握し、より良い実習にしようとの態度を身に付けることを目的とする。事後指導では、教育実習を振り返って各自の課題を確認する。4 年次後期に設定している「教職実践演習」では、教育実習で得られた成果と課題等を省察するとともに、この課題に対処し克服するよう、指導計画を組む。

また、授業とは別に、教育実習の巡回指導を担当する教員は、教育実習の事前・事後に各一回、学生と個人的に面談して実習についての指導を行い、学生は、その指導を「巡回教員の事前事後指導シート」にまとめる。

(8) 教員及び助手の配置

「(5) 実習先との連携体制」で述べたように、教育実習期間中に、基本的にすべての実習校に、本学の基幹教員が巡回指導に訪れる。教員一人当たり 1 校ないし 2 校となるよう教員間で調整を行う。また、実習先には教員の自宅から訪れることも可能であり、大学または自宅からの距離も考慮して実習先の調整を行うことで、移動時間もさほど大きな負担とはならないよう配慮する。以上より、教員が大学で担当している授業時間とはほぼ干渉しない。万一干渉した場合は、補講期間での授業またはオンデマンド配信による授業でカバーする。

(9) 実習施設における指導者の配置計画

教育実習では、実習校となる中学校・高等学校の専任教員が教育実習生の指導教員となるのが通例である。また、そのほかに、教育実習担当の教員、教科の主任教員が実習生の指導にあたる。

指導者の配置に問題はない。

(10) 成績評価体制および単位認定方法

実習の評価は基本的に教育実習校に委ねている部分が多い。実習校には「教育実習報告票」を提出するよう依頼する。ここには、教育実習生について、学習指導、生徒指導、実習態度、教職への適性の 4 つの観点からの評価と、総合評価を記入するようになっている。教育実習校の評価はこの「教育実習報告票」に集約される。

ただし、教育実習は、大学の授業である「教育実習Ⅰ，Ⅱ」（計4単位）として評価を行なうので、成績評価の最終的な責任は大学にある。大学としては、「教育実習報告票」に加えて、教育実習の巡回指導教員からの報告や、学生自身と学級担任教諭および教科指導教諭が記入した実習の記録、学生が作成した指導案等を参考に、最終的に評価を行う。

実習を記録するために、大学は「教育実習ノート」を配布する。一日あたり見開き2ページの記録欄を用意し、実習生はそこに、その日の活動記録、その日の活動についての感想や考察などの自由記述を書く。記録欄には、学級担任教諭および教科指導教諭がその日の所感を記入する欄も用意する。毎日の記録を書くページの後には、実習期間を終えての総合的な感想を学生が記入するページと、指導教諭（学級担任教諭および教科指導教諭）が総合所見を記入するページが続く。実習後にこのノートを提出させて実習の様子を確認し、評価の資料とする。

2. 博物館実習（学芸員課程）の具体的計画

（1）実習の目的

学外実習（館園実習）は博物館内部の活動を経験し、博物館業務の実際や内部で働く学芸員の今日的意義を理解することを目的とし、学芸員課程の4年次必修科目「博物館実習」（3単位）の一環として実施される。「博物館実習」は学内の講義・実習（1単位）と学外の博物館・美術館における最低5日間の実習（2単位）とを組み合わせしており、3年次までの所定の必修科目を履修した学生に、各自が選んだ学外の博物館・美術館など（以下「博物館」とする）の内部で実際におこなわれている活動の一端を体験させるものである。

（2）実習先の確保の状況

本学科の母体となる従前の学科では、学生自身が日頃から情報収集や実際の見学経験を通じて希望の実習先を検討することの学習効果を考慮し、大学側が実習先をあらかじめ確保することはせず、学生が各自の専門性に合致する実習先を探し、実習先の確保を行ってきた。

新設学科においても、課程主任教員および学務担当職員の指導のもと、学生自身が各自の専門性に合致する実習先を探せるよう日々サポートする体制を整え、学生各自が希望する実習先5館から最終的な応募先を絞り込む。この際、過去の実習生受入れ実績のある博物館の情報提供、複数の学生の希望が重複した場合の調整、応募書類作成の指導、応募の際の事務手続きなどをおこなう。実習先の選択にあたっては、現住所または帰省先から公共の交通機関で無理なく通える範囲の博物館を学生の適性に即して勧める。

（３）実習先との契約内容

現状では書面による契約は締結していないが、実習先の受入れ体制や要望は博物館ごとに異なっており、今後は必要に応じて契約書の作成を検討する。

（４）実習水準の確保の方策

２年次の「生涯学習概論」２単位、３年次の「博物館学」４単位（博物館法記載の「博物館概論」「博物館経営論」各２単位に相当）の単位取得を４年次での「博物館実習」履修の条件とし、学外実習に必要な知識の修得を義務づける。３年次での履修継続は、２年次終了時に実施される選抜試験を通じて適性と学習意欲を判断し、これに合格した者のみに認める。４年次には「博物館実習」の一環として、博物館資料（掛け軸・卷子・保存箱など）の取り扱いを習得する学内実習・博物館見学（国立博物館と私立美術館各１館）を６月上旬までに実施し、学外実習において最低限必要な知識と技術を習得させる。このほか、２年次より開催されるガイダンスは無遅刻・無出席を求め、レポートや書類の提出の遅延や未提出は認めないこととする。

（５）実習先との連携体制

学生にとって実習がより充実した実り多い経験となるためには、実習先の博物館と大学との協働指導体制が確立し、充実している必要がある。そのために以下の事項に特に留意し、それらの実施を徹底する。

ア 博物館との連携

課程主任教員は学芸員としての実務経験を活かし、日常的に情報収集するとともに博物館施設との交流を密接に持つ。学務担当職員は応募にあたって事前の情報収集と相談、応募書類の提出を担当するほか、必要に応じて実習後に受入れ先への聴き取りをおこない、指導体制の改善をはかる。

イ 学内での連携体制

課程主任教員や学務担当職員と実習生の相互が連絡方法を把握する。また、学生に対しては、メールや電話での定期的な報告・連絡を義務づける。

（６）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

ア 感染予防対策

学外において各種実習や活動をおこなう場合、必ず「感染の恐れのある疾患のないこと」を確認する必要がある。本学ではウエルネスセンターの指導のもと、実習を次年度に控えている学生には、下記の４点を遵守させる。各自が直接実習先に証明書類を提出しない場合でも要件は同じである。

- ① ３年次の健康診断の検査項目をすべて受診していること
- ② ①の健康診断結果報告書を受領していること

③①の健康診断結果で再検査や異常がない、または受診・再検査などの対応を済ませていること

④麻疹と風疹ワクチンをそれぞれ 2 回接種していること（もしくは抗体価検査で免疫があると証明されていること）

イ 保険などの加入状況

学外での活動に備えて、全学生が学生教育研究災害傷害保険（通学中等障害危険担保特約付）（学研災）および学生教育研究賠償責任保険（学研賠）に大学負担で加入する。

（７）事前・事後における指導計画

学外実習事前・事後の学生指導は課程主任教員が担当する。事前のスケジュールは下記のとおりである。

《1 年次》3 月にガイダンスを実施、学芸員という職業の概要、博物館の分類、資格認定の流れ、課程の概要を説明し、2 年次の 4 月に「資格課程履修届」の提出を求める。

《2 年次》3 月に選抜試験を実施。

《3 年次》6 月にガイダンスを実施、専攻・ゼミ、現住所・帰省先、縁故ある実習館などの情報を記載した調書の提出を求める。11 月末～12 月に実習館選定ガイダンスを実施。その後実習館を決定、実習館へ提出する志望理由書やレポートなどを準備。

《4 年次》4～6 月に資料取り扱い実習と博物館見学を実施。

事後は実習中の体験を通じて学んだことをレポートにまとめて提出させるほか、実習記録簿を提出させ、実習中の取組と学習内容を確認する。

（８）教員及び助手の配置

実習に当たっては、学芸員実務経験者である課程主任教員 1 名、現役学芸員である非常勤講師とティーチングアシスタント（TA）またはラーニングサポーター（LS）各 1 名を配置する。課程主任教員は必要に応じ実習先と連絡を取り、学生の帰校後はレポートや実習記録簿を確認して実習の状況や問題点を把握し、適宜学生へのフィードバックをおこなう。非常勤講師と TA または LS は課程主任教員とともに学内での博物館資料取り扱い実習での指導、博物館見学での引率と指導をおこなう。

（９）実習施設における指導者の配置計画

博物館実習では、実習施設の学芸員が実習生の指導者となるのが通例で、通常は巡回指導することではなく、今後も不要と考えている。但し、課程主任教員および学務担当職員はつねに実習施設と連絡を取り合って状況把握に努め、必要が生じた場合は課程主任教員が実習施設に赴く準備を整えている。

(10) 成績評価体制および単位認定方法

①所定の実習時間を満たしていること②実習内容を毎日記録していること③実習終了後、所定の期間内に最終レポートを提出していることの 3 条件を満たしていることを前提に課程主任教員が成績評価する。評価にあたっては実習記録簿（毎日の取組と実習館の評価）と最終レポートの記述を基準とし、学内実習の成績（平常点、レポート）と総合し、「博物館実習」の単位を認定する。

3. 日本語教育実習（日本語教員課程）の具体的計画

(1) 実習の目的

日本語教育実習は、「登録日本語教員」制度の開始に伴い、「登録実践研修機関」の実践研修（教壇実習）として実施し（登録申請予定）、修了により地球市民学部の選択必修科目「フィールドワーク 6（日本語教育実習）」（2 単位）の単位が付与される。また、総合文化学部の学生で、本学の日本語教員課程（「登録日本語教員養成機関」として登録申請予定）を履修する学生にも開放される。学外実習は日本語学校等における日本語教育および学校運営の活動を経験し、一方、学内実習は地域在住外国人を対象とするコースデザインおよび日本語教育の活動を経験し、いずれかを履修することを通じて日本語教員の今日的意義を理解することを目的とする。

(2) 実習先の確保の状況

学外実習は従来実習生の受入れを依頼している複数の日本語学校および姉妹校である清泉インターナショナル学園および海外協定校、また、学内実習は地域日本語教室を独自で運営すると同時に本学教員の担当する授業内でも実習を実施する。

(3) 実習先との契約内容

本課程では従来、書面上の契約は締結せずに実習の授業を提供していたが、「登録日本語教員」制度の開始にともない、必要に応じて実習先との契約を検討する。

(4) 実習水準の確保の方策

「登録日本語教員」制度の開始に伴い、「登録日本語教員養成機関」（登録申請予定）相当の課程修了見込みの学生に限り履修を認める。

(5) 実習先との連携体制

学生にとって実習がより充実した実り多い経験となるためには、実習先の日本語学校等

と大学との協働指導体制が確立し、充実している必要がある。そのために以下の事項に特に留意し、それらの実施を徹底する。

ア 日本語学校等との連携

課程主任教員は日本語教員としての実務経験を活かし、日常的に情報収集するとともに日本語学校等との交流を密接に持つ。学務担当職員は応募にあたって事前の情報収集と相談、応募書類の提出を担当するほか、必要に応じて実習後に受入れ先への聴き取りをおこない、指導体制の改善をはかる。

イ 学内での連携体制

課程主任教員や学務担当職員と実習生の相互が連絡方法を把握する。また、学生に対しては、メールや電話での定期的な報告・連絡を義務づける。

（６）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

教育実習に限らず、学外で実習や活動をつつがなく行なう場合には、事前に健康状態を確認しておく必要がある。教育実習を行う年次の４月に健康診断を受け、教育実習に支障をきたす可能性がある健康上の問題がないことを確認している。また、伝染病予防の観点から、母子健康手帳などの記録から過去の予防接種歴について報告させ、必要な場合には予防接種を受けるように指導している。

また、学外での活動に備えて、全学生が学生教育研究災害傷害保険（通学中等障害危険担保特約付）（学研災）および学生教育研究賠償責任保険（学研賠）に大学負担で加入する。

（７）事前・事後における指導計画

実習事前・事後の学生指導は課程主任教員が担当する。事前のスケジュールは下記のとおりである。

《１年次》年度末３月下旬に資格課程ガイダンスを実施、日本語教員という職業の概要、日本語教育機関、資格認定の流れ、課程の概要等を説明し、２年次の４月に「資格課程履修届」の提出を求める。

《２～３年次》２～３月に日本語教員課程修了認定試験を実施する（予定）。

《３～４年次》新年度開始直前の３月下旬に実習ガイダンスを実施し、その後実習先を決定、実習先へ提出する志望理由書や指導案などを準備する。

事後は実習中の体験を通じて学んだことをレポートにまとめて提出させるほか、実習記録簿を提出させ、実習中の取組と学習内容を確認する。また、それぞれ実習先の異なる実習生同士合同で報告会を実施し、次年度の履修希望者に参加させる。

（８）教員及び助手の配置

実習に当たっては、課程主任または実習科目担当教員１名、ティーチングアシスタント（TA）またはラーニングサポーター（LS）１名を配置する予定である。課程主任または実習

科目担当教員は必要に応じ実習先と連絡を取り、学生の帰校後はレポートや実習記録簿を確認して実習の状況や問題点を把握し、適宜学生へのフィードバックをおこなう。現役日本語教員である非常勤講師が担当する演習科目と連携を取りつつ、学内での模擬授業での指導、日本語学校授業見学での引率と指導を行う。

（９）実習施設における指導者の配置計画

実習計画が整い次第、課程主任または実習科目担当教員が実習校に学生の受入れを依頼し、実習受入れ担当教員の推薦を受けることとする。また、実習生が教壇実習を行う際には、可能な限り課程主任または実習科目担当教員が巡回指導に赴く。

（10）成績評価体制および単位認定方法

毎日の実習内容の記録（報告）および実習先担当教員からの評価コメント、実習終了後の所定の期間内に提出された最終レポートおよび報告会での報告内容に基づき、課程主任または実習科目担当教員が成績評価し、「フィールドワーク 6（日本語教育実習）」の単位を認定する。

⑨ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学における学外実習は、一覧（【資料 7】）のとおりに計画する。このうち、総合文化学部 総合文化学科で授業科目として実施される学外実習（教員が引率し、特定の实習施設を定めなないものを除く）について、以下に説明する。

1. 国内における実習

「インターンシップ」

総合文化学部で基幹教育科目として開講する「インターンシップ」は2～4年次を対象として配置されている。この実習は全学的に配置されており、学外の組織での就業経験を積むことで、社会人として体験するリアリティショックを軽減したり、組織社会化をスムーズに実現したりするための準備として位置付けられ、企業への就労だけでなく、公務員や教職等の進路とも具体的に比較して将来を検討するための科目である。また「インターンシップ」は、同じく基幹教育科目の必修である「キャリア・デザインⅠ」の履修を前提にしており、また「キャリア・デザインⅡ」や「キャリア・デザインⅢ」と並行して履修することが想定されている。

ア 実習先の確保の状況

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
一般社団法人東京中小企業家同友会	東京都千代田区岩本町 3-9-13 岩本町寿共同ビル 3 階	5～10 名程度	5 日間
特定非営利法人日本情報技術取引所	東京都品川区西五反田 2-12-3 第一誠実ビル 6 階	5～10 名程度	5 日間

イ 実習先との連携体制

実習先とは年間を通じて担当者間で随時連絡を取り、定期的に打ち合わせることで、学生に適切なインターンシップを実施するための検討を継続的に行なう。一般社団法人東京中小企業家同友会は、共同求人委員会が担当窓口となり、委員長と事務局担当職員を中心に委員会に所属する各企業の担当者と協議している。特定非営利法人日本情報技術取引所は、事務局職員とインターンシップ実施企業の担当者と協議している。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は実習への参加と活動報告、またインターンシップ受入れ企業からの評価に基づいて行う。

エ その他特記事項

本科目は一般社団法人東京中小企業家同友会と特定非営利法人情報技術取引所の参加企業に広く協力を募ることで、特定の企業に偏ることなく複数の企業への就労経験を積む機会を実現している。また、特定の企業の受入れに頼る場合、企業の業績や事業の状態によって受入れの可否の不確実性が否めないが、企業団体と本学との関係性で成り立っているため継続的な教育機会を担保することができる。

2. 海外における実習

総合文化学部の学科専門科目のうち、海外での研修体験を通して、外国語を利用したコミュニケーション活動の実践、異文化と自らの文化および多様性の理解、それらの体験的学習を促すことを目標とした科目として「短期研修1(英語圏)」、「短期研修2(スペイン語圏)」、「短期研修5(韓国)」を設置し、学外での実習を単位認定する。なお、これらの科目は選択科目とし、任意での参加を促す。

(1)「短期研修1(英語圏)」

ア 実習先の確保の状況

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
アルバータ大学(前期)、 オーストラリア・カトリック大学(後期)	カナダ・エドモントン(前期)、 オーストラリア・メルボルン(後期)	受入人数の制限なし	3～4週間

イ 実習先との連携体制

実習先とは担当者間で直接メール連絡をとる他、旅行実施を請け負う旅行代理店を通じて状況報告やトラブル対応をおこなったり、要望を伝えたりする。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、5回の事前オリエンテーションと現地研修への参加、受入れ校での成績、本学で課す課題の成績を基にしておこなう。(2単位)

エ その他特記事項

本科目はいずれも令和6年度まで文学部英語英文学科によって10年以上実施された実績がある。本研修の目的は、英語圏での授業と生活を通じて英語の知識と運用能力を向上させると同時に、考え方や行動様式を含めた文化に触れてそれを柔軟に受け入れられるようにすることである。またそのような学習を通じて、自らの文化を客観的に見られるようになる

ことも期待される。この目的のため、原則として他国からの学生と共に学ぶオープンクラスへの受入れを依頼し、またホームステイや現地学生との交流の機会を設けている。

（２）「短期研修２（スペイン語圏）」

ア 実習先の確保の状況

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
メネンデス・ペラヨ国際大学	スペイン・サンタンデル	最大 25 名	3～4 週間

イ 実習先との連携体制

コロナ禍前までは教員が引率しており、実習先の大学のプログラム担当者との連携がとれている。新学部の基幹教員はプログラム担当者で随時連絡をとっており、プログラムの改善策などを検討する体制が整っている。また、スペイン専門の旅行代理店が企画し、飛行機の予約や現地でのサポートを行う。また事前の説明会も開催する。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

修了試験を受け、講座の修了証を受け取ることが必須。修了証をもって単位の認定をする。
(2 単位)

エ その他特記事項

スペイン語圏の大学や語学学校等で短期の語学研修に参加する。スペイン語圏でのスペイン語学習及び生活体験を通じて、スペイン語力の向上と異文化理解の促進を目的としている。現地到着後、学校主催のレベルチェック試験を受け、レベル別にクラス分けが行われる。スペイン語学習が中心となり、積極的なコミュニケーションをとることが求められる。さまざまな国や地域の学生との交流を通じて、異文化理解のみならず、日本の文化についても見つめなおす機会が得られる。これまではスペイン、サンタンデルのメネンデス・ペラヨ国際大学のサマーコースで研修を実施している。

（３）「短期研修５（韓国）」

ア 実習先の確保の状況

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
梨花女子大学	韓国・ソウル	受入人数の制限なし	2 週間

イ 実習先との連携体制

梨花女子大学のサマーカレッジの担当者とは直接メールのやり取りをし、プログラム内容などについて要望や質問を出すことができる。また、担当者が来校して説明会を実施するなど、学生が直接に相談にできる態勢が整っている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

修了証をもって単位の認定をする。(2 単位)

エ その他特記事項

協定校でもある韓国・ソウルにある梨花女子大学で夏に開催される 2 週間のサマープログラムに参加する。レベルごとの韓国語の授業の他、韓国音楽、韓国料理などの韓国文化にふれる特別講義もプログラムに含まれている。授業だけでなく、フィールド・トリップやアクティビティをとおして、梨花女子大学の学生だけでなく世界中から来た留学生との交流が期待できる。

⑩ 取得可能な資格

総合文化学部 総合文化学科では、①教員免許（高等学校教諭一種免許状^{※1}、中学校教諭一種免許状^{※2}）、②司書教諭、③学芸員の資格が取得可能である。いずれも、卒業要件単位に含まれる科目のほか、追加して科目を履修し単位を修得する必要がある。

また、日本語教員^{※3}についても、地球市民学部の科目を履修し単位を修得することにより、取得する道が開かれている。

※1 国語、外国語（英語）、外国語（スペイン語）、地理歴史、公民、宗教

※2 国語、外国語（英語）、外国語（スペイン語）、社会、宗教

※3 登録日本語教員という国家資格が創設され、本学の日本語教員課程を修了し、実習を終えた場合は、国家資格取得のための経過措置の対象になる（令和 11 年 3 月 31 日まで）。

⑪ 入学者選抜の概要

総合文化学部 総合文化学科のアドミッション・ポリシーは、「① 設置の趣旨及び必要性」に記したとおりである。以下に再掲する。

AP1【知識・技能】

総合文化学部の学修に必要な国語、英語、地理歴史を中心とした教科・科目で、高等学校等で習得すべき基礎的な学力が身についている。

AP2【思考力・判断力・表現力】

物事を筋道立てて捉え、自分の考えをまとめ、それを伝えるための基礎的な力を有している。

AP3【主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度】

総合文化学部の学修内容・分野（言語・文学・歴史・美術・哲学・宗教など）に興味・関心を持ち、課題に対し主体性を持って粘り強く取り組む姿勢、および他者と協調して学修しようという意欲・態度を有している。

上記のアドミッション・ポリシーを踏まえ、総合文化学部 総合文化学科の選抜体制を、以下の通りに計画する。

1. 募集人員

総合文化学科の選抜体制は、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜」の3区分とし、募集人員は入学定員230名中、学校推薦型選抜60名（26.1%）、総合型選抜78名（33.9%）、一般選抜92名（40.0%）に振り分ける。

2. 主たる選抜

総合文化学科の主たる選抜は、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜」の3区分とする。それぞれの入学試験において、アドミッション・ポリシーに示す能力、資質等を多面的・総合的に評価することとし、入学者選抜の目的や、求める受験生の能力、資質等を、選抜区分ごとに以下に示す。

（1）学校推薦型選抜

本学を第一志望としていることが前提の入試であり、本学の教育目標・内容を十分理解し、高等学校で履修する教科に真摯に取り組んでいる者を受け入れることを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の3要素のうち、特に知識・技能

および意欲・態度を重視し、出願資格、提出書類（読書レポートを含む）および口頭試問により、総合文化学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

（学校推薦型選抜と AP との対応関係）

	AP1 知識・技能	AP2 思考力・判断力・表現力	AP3 主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度
提出書類 （調査書）	○ 評定値を基準に判断		○ 学校生活での取組から判断
提出書類 （読書レポート）		○ レポートを通じて表現力等を判断	
口頭試問	○ 知識を問う質問等から判断		○ 回答内容から意欲・態度を判断

（２）総合型選抜

本学の教育目標・内容、総合文化学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを通じて総合文化学科の学びを十分理解し、様々な場で意欲的に活躍することが期待できる多様な能力を持った学生を、多面的・総合的に評価し、受け入れることを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の３要素のうち、特に知識・技能および思考力・判断力・表現力を重視し、提出書類、小論文または基礎学力試験、口頭試問等により、総合文化学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

（総合型選抜と AP との対応関係）

	AP1 知識・技能	AP2 思考力・判断力・表現力	AP3 主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度
提出書類 （志望理由書）		○ 志望理由書から表現力等を判断	
筆記試験 （小論文、基礎学力試験）	○ 基礎学力試験から判断	○ 小論文を通じて表現力等を判断	
口頭試問	○ 知識を問う質問等から判断		○ 回答内容から意欲・態度を判断

（３）一般選抜

一般選抜においては、英語、国語、地理歴史といった文系教科を中心に、共通テスト利用入試では、それらの教科だけでなく、数学、理科などの理系教科についても幅広く学んできた者の中から、学業に優れ、高い勉学意欲を持つ者を選抜することを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の３要素のうち、特に知識・技能

を重視し、提出書類、学力試験、英語検定換算点またはレポート作成等により、総合文化学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

(一般選抜と AP との対応関係)

	AP1 知識・技能	AP2 思考力・判断力・表現力	AP3 主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度
提出書類 (調査書、主体性評価シート)			○ 調査書、主体性評価シートにより、意欲・態度を判断
筆記試験 (学力試験)	○ 学力試験から判断		
英語検定換算点	○ 英語外部検定試験のスコアから判断		
筆記試験 (レポート作成)		○ レポートを通じて表現力等を判断	

3. その他の選抜

社会人、帰国子女及び外国人留学生についても独自の選抜を行い、受入れを行っているが、特に定員を定めていない。以下に、それぞれの選抜の概要を記す。

(1) 社会人入試

本学では、社会的に豊かな経験を有し、勉学意欲旺盛な社会人を対象として、社会人入試を実施している。社会人入試では、社会人を「入学時に満25歳以上で、中等教育学校又は高等学校卒業と同等の資格のある者」と定義している。

試験は秋季と春季の2回行われ、書類審査および口頭試問（個人面接）によりAP1～AP3に係る能力を総合的に評価している。書類審査には小論文を含み、口頭試問では、志望動機や勉学以外の諸活動に関する質問とともに、基礎的学力を測る質問も行っている。

1年次入学者のうち、本学入学前に大学、短期大学、専修学校の専門課程で修得した単位があり、教育上有益と認められる場合は、本学の基幹教育科目及び専門科目として単位を認定することができる。また、入学前に修得した単位が一般教養など、専門科目ではない科目として修得した単位であっても、内容が本学の専門科目に相当すると判断した場合は、専門科目の単位として認定することができる。

(2) 帰国子女入試

日本の国籍を有する海外帰国子女と外国学校出身者を対象とする帰国子女入試を実施し、小論文および口頭試問（個人面接）によりAP1～AP3に係る能力を総合的に評価している。

出願資格を有するのは、外国において、外国の教育課程に基づく学校教育を受け、日本の高等学校に編入学した者、高等学校卒業程度認定試験に合格した者、外国において、外国の

教育課程に基づく高等学校で最終学年を含めて2学年以上継続して学校教育を受け、学校教育12年の課程を卒業（修了）した者等である。

（３）外国人入試、外国人留学生指定校推薦入試

外国人対象入学試験では、小論文および口頭試問（個人面接）により AP1～AP3 に係る能力を総合的に評価している。日本語能力の評価としては、日本留学試験の「日本語（聴解・聴読解および読解）」で 240 点以上、または、日本語能力試験の N2 以上を、外国人留学生指定校推薦入試では日本留学試験の「日本語」の「聴解・聴読解：140 点以上、読解：140 点以上、かつ記述：35 点以上」、または、日本語能力試験の N1 以上を要件としている。また、本学入学から卒業までの学費・生活費を確認するため経費支弁書を経費支弁者と本人との親族関係を証明する書類、預金残高証明書とともに提出させる。

在籍管理方法については「⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の「5. 留学生の受入れ」の項目で述べたとおりである。

4. 正規の学生以外の者の受入れ

上記の選抜で受け入れる学生以外に、科目等履修生、聴講生、交換留学生を受け入れている。

（１）科目等履修生・聴講生の受入れ

科目等履修生・聴講生については、受入れ人数は特に定めず、教育研究上支障のない範囲で受講を認める。前期・後期の年 2 回学生募集を行い、受講希望者は各学期開始前に事前相談を受け履修科目が確定した段階で出願し、教授会での議を経て受入れを決定する。

（２）海外協定校からの交換留学生の受入れ

交換留学生のうち、本学において日本語での授業を履修する留学生の場合、日本語能力試験 N2 レベル相当以上の証明書を提出させる。また、留学生の経費支弁能力の確認については、在留資格「留学」申請者には経費支弁書により留学中の経費負担者を報告させるとともに、別途提出させる預金残高証明書等根拠資料とともに確認する。

在籍管理方法については「⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の「5. 留学生の受入れ」の項目で述べたとおりである。

⑫ 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

教育研究実施組織等の編制の考え方

総合文化学部 総合文化学科は、既設の文学部日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、総合文化学部 総合文化学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「人文科学」としていることから、教員組織の編成においては、「人文科学」を専門とする基幹教員を中心とした教員組織とするとともに、教育上主要と認める授業科目を中心として、当該専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 18 人及び准教授 8 人、講師 1 人を配置する計画としている。

また、学科の主要授業科目である「日本文化入門演習」「国際文化入門演習」「文化史入門演習」「総合文化データサイエンス」及び各「基礎演習」「演習」「研究法演習」の授業については、基幹教員である教授、准教授、講師が担当することとしている。

本学では学科科目の教授のため担当すべき授業時間数は、原則として 1 週 10 時間と定めており、必要がある場合には最大で 1 週 16 時間までの担当を認めているが、担当時間数が多い教員についてはティーチングアシスタント (TA) またはラーニングサポーター (LS) を配置し、教員の負担や学生への指導に不具合が生じないように配慮している。

教員組織の年齢構成

完成年度における教員組織の年齢構成については、30 歳台 1 人、40 歳台 1 人、50 歳台 12 人、60～64 歳 4 人、65～70 歳 9 人から構成することとしており、50 歳以上の比率が高めではあるものの、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

基幹教員の定年年齢は、就業規則（【資料 8】）第 14 条第 1 項により、教授が 70 歳、准教授及び講師は 65 歳と定められている。65～70 歳の 9 名については全員が教授であるため、基幹教員の配置計画における支障はないと考えている。

また、新たに基幹教員を公募により採用する際には、研究分野だけではなく、職階、年齢などのバランスについても配慮した上で採用するようにしており、65～70 歳の教員 9 名についても、同分野の採用計画を策定し、スムーズなバトンタッチを行い、学部運営に支障をきたさないよう準備がなされている。

なお、本学部では、基幹教員以外の教員 2 名に令和 10 年度のみ定年延長を適用する。これは、定年延長に関する内規（【資料 9】）第 2 条及び非常勤講師に関する規程（【資料 10】）第 8 条第 2 項に基づく措置である。

完成年度以後の教員組織構想

完成年度以後の教員組織構想については、開設後 4 年間の中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた職位の昇格や新規採用などの教員組織に関する中期的な人事計画を策定することとしている。また、定年延長教員の退職に伴う教員採用については、他の大学等の現役教員や現在、大学院の修士課程や博士課程に在学し、文学分野を専攻している者を対象として広く候補者を募ることとし、本学の教員選考規程等で定める審査基準に基づいて、厳格なる審査を経て採用することとしており、学部の教育研究等目的の達成に支障はない。

教職協働の体制

教育研究活動等の運営及び厚生補導等については、教学組織に対して事務組織を適切に配置し、各種委員会等についても教員だけでなく職員も委員に加えており、教職協働により組織的かつ効果的に行われるよう組織を編成している。

⑬ 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、教員の教育研究活動を支援するため、以下に述べるような措置・支援を講じることにより、教育研究活動の促進を図っている。新学部設置後も、ひきつづき同様の取組を行っていく計画である。

研究の実施体制・環境整備

基幹教員は全て個室の研究室が提供されており、週当たり 3 日間または 4 日間設定される授業以外の日は自らの研究時間に充てることができる。学内の一定職務を担当する基幹教員に対しては、最低担当授業時間数を減免する制度が適用される。

さらに、特別研究員に採用された教員は、一切の授業及び校務を免除され、特別の研究に従事することができる。基幹教員には個人研究費として一人当たり年間 30 万円を支給するとともに、海外研究及び国内研究のための研究旅費の支給を行っている。さらに、非常勤講師を含む教員 3 名以上による共同研究に対する助成や、教員の出版に対する助成も実施している。

授業支援に関する措置としては、教育研究の充実・向上と高い教育効果を得ること、かつ、本学の大学院学生に教育指導に関する実務の機会を与えることを目的として、ティーチングアシスタント（TA）またはラーニングサポーター（LS）を配置し、授業支援のための人的体制を整備している。

3つの附属研究所とその活動

本学では、人文科学研究所、キリスト教文化研究所及び言語教育研究所の 3 つの附属研究所を設置し、基幹教員は任意でいずれかの研究所の所員となる形をとっている。後述の学術誌の発行や講座・講話会等の開催を通じ、非常勤を含めた教員の研究活動の活性化に貢献している。建学の精神の発展的継承、研究と教育の連動、研究成果の社会への公表と還元、学内の教職員や卒業生との懇親など、多様な目的に沿った活動を行っている。

人文科学研究所は、人間に関わる全ての現象を既存の学問分野の枠に縛られず包括的・総合的に研究することを目的とする。活動内容は、年に 10 回程度の研究懇話会の開催、学術誌『人文科学研究所紀要』（年刊）の編集発行、品川区との共催である無料公開講座「土曜自由大学」（前期）の企画・開催等である。この他、大学の総合誌『清泉文苑』（年刊）を編集・発行している。

キリスト教文化研究所は、キリスト教文化の学問的研究及び活性化を目的とする。『キリスト教文化研究所年報』（年刊）の編集発行の他、「土曜自由大学」（後期）の企画・開催を行っている。

言語教育研究所は、言語教育について総合的に研究し、言語教育の成果を挙げることを目的とする。フォーラムの隔年開催、学術誌『言語教育研究』（年刊）を編集発行している。

⑭ 施設、設備の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学キャンパスは、JR 線、都営地下鉄線のいずれの駅から徒歩十数分の場所に位置し、第一種低層住居専用地域に囲まれた緑豊かな丘陵地に位置している。本キャンパスは、江戸時代には伊達藩下屋敷として、戦前までは島津公爵邸として使われており、本学は昭和 37 年 4 月以降、60 年以上にわたり、この地で教育研究活動を展開している。

構内の重要文化財旧島津家本邸本館および事務所は、保存管理計画が策定され、保存のための様々な取組がおこなわれており、教室や事務スペースとして日々活用している。ゆえに本学学生は日常的に重要文化財に触れながら学ぶことができる。この結果、建物内外に残る精緻な装飾やデザイン、建築部材等について関心を寄せる学生も多く、建物全体が学びのきっかけや、身近な教材となっている。

本学は品川区東五反田に所在、ワンキャンパス体制をとっており、校地として 29,765 m²の面積を有している。校地の南半分は緑地帯となっており、北半分には校舎が建てられている。緑地帯には芝が敷き詰められた屋外運動スペース (2,841 m²) があり、周辺には江戸時代から伝わる植栽や灯籠などが点在している。芝生の南側には島津侯爵邸時代から引き継がれたつつじ苑が広がり、その奥には、藤棚や石造りのベンチが設けられた広場がある。本学はこの敷地の南半分を占める緑地帯に対し、警備員による巡回、安全柵の設置や定期的な高木剪定をおこない、学生の憩いの場として安全に過ごせるよう、整備を続けている。

校地の東面、南面、西面は斜面になっている。地質調査の結果、いずれの斜面も表層の崩落防止工事の必要性が確認されたことから、順次工事を実施した。現在では崩落の危険がある斜面全ての工事が完了し、安全性が保たれている。

学生の憩いの場としては、先に挙げた緑地帯のほかに中庭、ラファエラホール（食堂）、清泉カフェがある。中庭は低層の校舎に囲まれ日当たりも良く、いずれの校舎に行くのにも便利な場所にある。地面にはカラーブロックが敷設され、樹木が日陰をつくっており、気候の良い時期の中庭ベンチには談笑する学生が多くみられる。食堂は創立 40 周年を記念して建てられたラファエラホール内にあり、座席は 292 席設けられている。授業期間中は 11 時から 13 時 30 分まで営業されているが、利用者がピークとなる時間帯であっても座席に余裕がある。営業終了後の食堂は課外活動の場として利用されている。清泉カフェは、1 号館地下にあり平日は 16 時まで営業しており、管理栄養士の資格をもつ卒業生を中心としたグループが運営、調理、販売している。

体育系の課外活動団体の多くは講堂フロアで活動している。フロアの面積は 403 m²あり、冷暖房完備の館内では、授業期間外であっても多くの団体が使用している。

なお、総合文化学部及び地球市民学部の設置に伴う校地の新たな整備計画は予定していない。

2. 校舎等施設の整備計画

構内の北半分には重要文化財指定の2棟を含め、9棟の校舎が建っている。このうち7棟の校舎が回廊や連絡通路で結ばれ、雨天時であっても校舎間の行き来が便利である。

耐震対策が必要な校舎については、補強工事が全て完了している。また講堂フロアの天井は、平成28年に躯体と一体化する工事が完了しており、天井落下の危険性は極めて低い。講堂は自然災害発生時に、一時避難場所として使用される。

校舎は本館1,790 m²（重要文化財。教室4室・会議室・事務室・聖堂等）、1号館4,981 m²（教室19室・事務所・清泉カフェ・教員個人研究室）、2号館2,174 m²（教室12室・学生ホール・事務室・教員研究室）、3号館501 m²（重要文化財。事務室・教員研究室）、4号館1,948 m²（教室6室・コモンスペース・教員研究室）、5号館558 m²（ウエルネスセンター・教員研究室）、講堂1,711 m²（教室2室・多目的ホール）、図書館2,383 m²、ラファエラホール1,610 m²（学生活動用ホール、食堂、スタジオ等）の9棟からなる。

教室は、5つの建物に合計43室が設けられている。これらの教室を収容人数で分けると、①収容人数20人以下の教室は9教室（20.9%）、②収容人数21～50人の教室は21教室（48.8%）、③収容人数51～70人の教室は6教室（14%）、④収容人数71～100人の教室は5教室（11.6%）、⑤101人以上収容可能な教室は2教室（4.7%）であり、全43教室のうち、収容人数50人以下の教室が全体の7割を占めている。これは可能な限り人数を絞って、双方向の授業を展開しようとする本学の姿勢を反映している。なお、令和10年度教室時間割（【資料11】）に示すとおり、総合文化学部、地球市民学部ならびに大学院の開講科目すべてを既存の教室に配置することができる（大学院科目の一部は教員個人研究室で実施）ため、授業運営に関わる設備利用に支障は生じない。

教室内の机は、2つの大教室を除き可動式が採用されている。可動式の机を導入した理由は、授業中にグループ討議や活動を行う際、容易に机を移動させることを可能にするためである。また双方向の授業を支援するために、床電源を設け、教室の3面にキットパスビューボード¹⁾を設置した教室を2部屋設けた。

教員個人研究室は50室設けられ、基幹教員、特別任用教員、任期の有無にかかわらず、全教員に供与する。非常勤講師室は1,2号館、講堂に1部屋ずつ設けている。

本学のラーニングコモンズは、4号館3階のコモンスペースと2階のグループ学習室からなる。かつて4号館3階は、学科ごとの独立した学科研究室が設けられていたが、平成24年度に改修工事をおこない、書架で区切られた学科研究室が、中央に設けられたコモンスペースを取り囲む形に改修された。コモンスペースは学科学年に関係なく利用することができ、所属の異なる学生同士による学修活動や、教員によるレクチャーなどがおこなわれ、本学の学修活動を支える場となっている。

1) 1枚でスクリーン、ホワイトボード、内壁の役割を果たすマルチボード

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書の整備状況と整備計画

本学図書館は、「清泉女子大学附属図書館収書基本方針」に基づき、大学図書館として基礎となる資料を収集し、教育・研究・学修の支援をしている。大学院、文学部の各学科・課程等のカリキュラム並びに学生の成長と自主的な学修活動を推進するための資料に配慮し、体系的な蔵書構築を目指し、図書、雑誌、新聞、視聴覚資料を収集し、近年は、電子ジャーナル、学術データベース、電子書籍などの電子情報資料の収集にも力を入れている。

令和5年4月1日現在、和書 367,274 冊（うち洋書 128,231 冊）、電子書籍 241,739 冊（うち洋書 240,774 冊）、雑誌 3,126 種（うち洋雑誌 1,611 種）を所蔵している。

冊子体の雑誌は、基幹教員に定期的に確認を依頼し、和雑誌は令和3年度、洋雑誌は令和4年度に確認を終え、現在所蔵しているものは全て教育や研究に必要と判断されたものである。総合文化学科で利用する主な学術雑誌は、以下のとおりである。

「國語國文」「國語と国文学」「国文学言語と文芸」「日本文学」「文学・語学」「日本近代文学」「日本語学」「日本民俗学」「解釈：国語・国文」「異文化コミュニケーション」「英語教育」「Hispanica」「スペイン学」「カトリック教育研究」「カトリック研究」「カトリック生活」「史學雑誌」「思想」「宗教研究」「史林」「歴史評論」「歴史学研究」「日本史研究」「日本歴史」「東洋史研究」「西洋史学」「西洋中世研究」「西洋美術研究」「Language Learning」「Modern Language Journal」「Applied Linguistics」「Lingüística Española Actual」「Second Language Research」「Revista de Filología Española」「Revista de Literatura」「Studies in Latin American Popular Culture」「Archivo Español de Arte」「Art History」「Goya: Revista de Arte」「Religious Education」「Religious Studies Review」「Catholic Historical Review」「Religion and the Arts」「Teaching Theology & Religion」「Augustinian Studies」

これまで各学科で収集した図書および雑誌は十分な数を揃えている。総合文化学科は既存の学科を再編するものであるため、学修・研究に支障ない蔵書数を有していると言える。

図書館では年間 3,000 冊程度の図書（和書 2,500 冊、洋書 500 冊）を購入しており、新学部完成までに同程度の冊数を購入し、更に蔵書の充実を図る。

(2) デジタルデータベース、電子ジャーナルの整備計画

「JapanKnowledge」「ブリタニカオンライン」といった辞書事典データベース、朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞の記事索引データベースなど、全学生が利用する基本的なものは既に契約済みである。その他、総合文化学科で利用する、「和歌・連歌・俳諧ライブラリー」、文学・言語学・民族学関連の論文や会議録を収録した「MLA International

Bibliography」、ラテンアメリカの新聞 60 誌を収録した「Latin American Newsstream」、ロシアおよびスラブ系諸国のマスメディアを収録した「Integrum」など、従来の学科で必要としたデータベースはこれまで通り契約を継続する。令和 6 年 4 月からは、新たに英語のコーパス「Wordbanks Online」を契約することが決定している。

電子ジャーナルは、和雑誌「MIT テクノロジーレビュー」、洋雑誌は Elsevier 社「Science Direct」6 誌、「JSTOR」Art & Sciences の 5 つのコレクションを契約し、659 種（うち洋雑誌 658 種）にアクセスすることができる。

データベースおよび電子ジャーナルは、今後、授業や研究で必要なものがあれば、新たに追加する予定である。

（３）図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法など

図書館の閲覧室は、地上 2 階、地下 2 階の 4 フロア、別館の洋書庫に 2 フロアある。閲覧席 237 席、グループ学習室 2 室、貴重書や閉架資料などの禁帯出資料を授業で閲覧するための特別閲覧室、ライティングアドバイザーデスクを設けている。

本学で所蔵する資料は、学科研究室所蔵資料なども含め、全てオンライン蔵書目録検索システム（OPAC）に登録している。館内には OPAC 検索専用端末 9 台があるが、無線 LAN が整備されているので、利用者は持参した PC やタブレット、スマートフォンからも検索することができる。OPAC、データベース、電子ジャーナル、電子書籍は学外からもアクセス可能なため、学外でも学内同様の学修・教育環境を保つことができる。

大学紀要や各研究所で発行した紀要・研究誌など、本学において生産された研究成果は、「清泉女子大学オープンアクセス方針」に則り、機関リポジトリで学内外へ広く公開し、教育・研究・社会活動の発展に寄与している。

学生支援として、平日 12～19 時までライティングアドバイザーが館内の専用スペースに常駐し、レポートや論文を書く際の悩みや疑問に答え、文章へのアドバイス、プレゼンテーションのサポートなどを行っている。相談は、対面だけでなく、メールや Zoom でも受け付け、各自の都合に合わせて相談方法を選択できるシステムになっている。図書館入口カウンターには司書資格を有するスタッフがおり、所蔵調査、事項調査といったレファレンス相談に対応している。

情報リテラシー教育の一環として、大学生として図書館を有効に活用するために必要な、OPAC の使い方、新聞記事索引の検索方法、論文や統計資料の探し方、電子書籍の利用方法などの動画を作成し、学内者限定のポータルサイトに公開している。

（４）他大学図書館との協力

国立情報学研究所（NII）の NACSIS-ILL の相互貸借サービスに参加し、文献複写および現物貸借サービスを提供している。また、日本カトリック大学連盟加盟校、東京外国語大学、立正大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部とは、図書館相互利用協定を締結し、本

学発行の学生証または教職員証を持参すれば、紹介状なしで資料の閲覧・複写のサービスを受けることができる。

⑮ 管理運営

1. 教授会

教授会の形態

本学の教授会は、いわゆる「全学教授会」の形態をとり、本学が設置するすべての学部、大学院の教育研究に関する事項を審議する機関として位置付けている。これは、教授会を全学的な共通意識を醸成する場として機能させること、本学の規模および成り立ちから伝統的に全学的な運営がなされてきたことなどを背景としている。

教授会の構成

教授会は、専任の教授、准教授、講師、助教および学長が必要と認めた特別任用教員を構成員として組織され、学長を議長として、夏期休暇期間中を除き、原則として毎月1回開催される。

教授会の役割

教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるとされている（清泉女子大学学則第9条第3項）。

- 1 学生の入学及び卒業に関すること。
- 2 学位の授与に関すること。
- 3 教育課程に関すること。
- 4 教員の選考、昇任に関すること。
- 5 学生の懲戒に関すること。
- 6 前5号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

また、学長がつかさどる以下の教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができるとされている（清泉女子大学学則第9条第4項、教授会規程第2条）。

- 1 学生の休学、復学、退学及び留学に関すること。
- 2 学生の単位認定に関すること。
- 3 学生の褒賞に関すること。
- 4 給与奨学生に関すること。
- 5 学生の厚生・補導に関すること。
- 6 教育条件及び研究条件に関すること。
- 7 学則に関すること。

8 その他学長が求めること。

以上のように、本学の教授会は、学部教育研究において適切な役割を果たすことができるような仕組みのもとで運営されている。新学部設置後も、ひきつづき同様の運営を行っていく計画である。

2. 教授会以外の会議・委員会

(1) 全学教学会議

全学教学会議は、学長、副学長、学長補佐、学部長、基幹教育機構長、大学院研究科長、教学部門の部門長（職員）、その他学長が必要と認める者を構成員として組織される。全学教学会議は、学長を議長として、長期休暇期間中を除き原則として毎週開催される。全学教学会議は、教育課程の編成及び運営に関する方針の策定をはじめとする、教学上の重要な諸事項について検討・合議する機関であり、学長が適正な判断・決定を行うために、学長を補佐することを目的とする。

全学教学会議の審議事項は、以下の通りである。1) 学部及び大学院における教育課程の編成等に関する方針の策定、2) 学事、学生生活及び入試に関する重要事項、3) 教員人事に関する重要事項、4) 諸規程の制定及び改廃に関する重要事項、5) 学外機関との連携・協定に関する重要事項、6) IR 情報等を活用した、教育の検証及び改善に関する事項、7) 教授会及び教員役職者会議の議案・報告事項、8) その他学長又は本会議が必要と認める事項。

本会議の下には、全学教学会議が審議事項とする内容について課題を共有・分析し、全学的な見地に立った具体的な提案を行うために以下の 3 つの委員会を設置する。第 1 に、副学長（教学担当）を委員長とし、各学部および基幹教育機構の学務委員、教学部門内の学務担当責任者等によって構成される学務委員会であり、長期休暇期間中を除き原則として毎月開催される。第 2 に、副学長（学生生活担当）を委員長とし、各学部および基幹教育機構の学生生活委員、教学部門内の学生生活担当責任者等によって構成される学生生活委員会であり、長期休暇期間中を除き原則として毎月開催される。第 3 に、副学長（入試担当）を委員長とし、各学部および基幹教育機構の入試委員、教学部門内の入試担当責任者（職員）等によって構成される入試委員会であり、長期休暇期間中を除き原則として毎月開催される。

(2) 学部運営会議

学部運営会議は、当該学部の学部長、学部長補佐、専任の教授、准教授、講師、助教および学長が必要と認めた特別任用教員を構成員として組織される。学部運営会議は、学部長を

議長として、夏期休暇期間中を除き原則として毎月開催される。

学部運営会議では、全学教学会議が立案した教育方針を基に、教育課程の編成及び運営を円滑かつ実効的に進めるための検討・調整を行う。

（３）基幹教育機構運営会議

基幹教育機構運営会議は、基幹教育機構長、基幹教育に関わる専任の教授、准教授、講師、助教および学長が必要と認めた特別任用教員を構成員として組織される。基幹教育機構運営会議は、基幹教育機構長を議長として、夏期休暇期間中を除き原則として毎月開催される。

基幹教育機構運営会議では、全学教学会議が立案した教育方針を基に、全学的に展開する基幹教育の編成及び運営を円滑かつ実効的に進めるための検討・調整を行う。

⑩ 自己点検・評価

実施体制及び点検・評価方法

自己点検・評価については、学則第 81 条に、「本学は第 1 条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。」と規定し、点検項目及び実施体制については、「清泉女子大学内部質保証に関する規程」を定め、本規程に基づき、全学的に内部質保証を推進する組織として「内部質保証委員会」を設置している。

本学の事業計画は、大学基準協会が大学評価において採用している 10 の大学基準に準じて、または包含する形で項目を設定しているが、平成 30 年度より、事業計画・事業報告を中心とする既存の PDCA サイクルに、質保証のための PDCA サイクルを統合する形に変更した。

各部局が実施した点検・評価の結果を受け、内部質保証委員会が計画の進捗・達成状況を確認する仕組みをとっている。

令和元年度からは、従来、事業計画の項目全てを内部質保証委員会の点検・評価範囲としていたものを、中期計画に紐づく事業計画を対象を絞ることにより、重点的かつ効率的に点検・評価を行い、年度ごとの達成状況を踏まえながら中期計画の進捗状況も確認できる体制とした。

さらに、大学基準協会が定める 10 の大学基準における点検・評価項目のうち、本学の中期計画に紐づく事業計画に含まれない項目から重要と思われるものを選び、これらについても内部質保証委員会における点検・評価対象に含めることとした。

以上の変更を経て、現在、内部質保証委員会は、①中期計画とこれに紐づく年度ごとの事業計画の PDCA サイクル、②大学基準に基づく認証評価の PDCA サイクルの両方を連動させる形で、PDCA サイクルを回している。

内部質保証委員会では、当委員会の活動方針に基づき、年度初めに点検・評価手順及び方法を策定のうえ、①及び②の各計画の PDCA サイクルを自律的に回す実施主体にこれを提示し、全学的な観点から点検・評価を行っている。

また、期末の点検・評価の結果を踏まえ、全学的な対応が必要な事項を要望書としてまとめ、理事長・学長に提出し、理事長・学長はこれを受けて各部局長に改善措置を通知する。

改善措置が必要とされた項目については、内部質保証委員会において点検・評価を行うことにより、各部局の改善状況をフォローアップする仕組みとしている。

以上のような手続き・仕組みにより、本学では教学や大学管理・運営分野における質の向上・改善に取り組んでおり、新学部設置後も、ひきつづき同様の取組を行っていく計画である。

認証評価

本学がこれまで実施してきた自己点検・評価に関する報告書の公表実績は次のとおりで

ある。

平成 16 年度 財団法人大学基準協会 相互評価（認証評価）

平成 23 年度 財団法人大学基準協会 大学評価（認証評価）

平成 30 年度 財団法人大学基準協会 大学評価（認証評価）

平成 30 年度の大学評価の評価結果は、「適合」判定で、提言として長所 3 点、改善課題 1 点が付され、是正勧告はなかった。

長所として評価されたのは、個別の学生の事情に考慮した、多様な不安に対する相談や支援ができる体制を整え、健康で安全な学生生活を支援している点、学生が自主的に学習に取り組む環境を整備している点、地域に根ざした高等教育機関として学術的知見の地域還元に積極的に取り組んでいる点である。

一方、改善課題としては、収容定員に対する在籍学生数比率が高い学科があり、学部の定員管理を徹底することが求められた。

⑪ 情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動の基本情報について、本学公式 Web サイト上の「情報の公開」に取りまとめ、公表するとともに、それぞれ必要な情報についても公開している。

以下に、現在の公開状況をまとめる。新学部設置後も、ひきつづき同様の内容・方法での公開を行っていく計画である。

大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

大学の教育研究上の目的は、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞大学の教育研究上の目的に関すること（第 1 項第 1 号関係）＞教育研究上の目的 に掲載されている。

また、3 つのポリシーについては、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞入学者に関する受入方針／入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（第 1 項第 1 号及び第 4 号関係）＞入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞教育課程の編成及び実施に関する方針／授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること（第 1 項第 1 号及び第 5 号関係）＞教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞教卒業又は修了の認定に関する方針／学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（第 1 項第 1 号及び第 6 号関係）＞卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） にそれぞれ掲載されている。

教育研究上の基本組織に関すること

教育研究上の基本組織は、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞教育研究上の基本組織に関すること（第 1 項第 2 号関係） に、大学組織構成及び大学運営組織図が掲載されている。

教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績は、情報の公開＞教育情報の公表＞学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）＞教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること（第 1 項第 3 号関係） に、教員数、専任・非常勤比率、男女別教員数・専任教員一人あたりの学生数、専任教員年齢構成、教員の実績、教員組織が掲載されている。

入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>入学者に関する受入方針／入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（第 1 項第 1 号及び第 4 号関係） に、収容定員・在学生数・入学者数・編入学者数、卒業または修了者数・就職者数・進学者数、就職等の状況が掲載されている。

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>教育課程の編成及び実施に関する方針／授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること（第 1 項第 1 号及び第 5 号関係） に、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画（シラバス）が掲載されている。

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>卒業又は修了の認定に関する方針／学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（第 1 項第 1 号及び第 6 号関係） に、卒業又は修了の認定に当たっての基準・学修の成果に係る評価および必修科目、選択科目及び自由科目別の必要修得単位数が掲載されている。

校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（第 1 項第 7 号関係） に、校地、校舎等の施設及び設備、交通アクセス、校舎等の耐震化の状況等が掲載されている。

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること（第 1 項第 8 号関係） に、学生納付金（授業料、入学料、施設費、学納金以外の経費）が掲載されている。

大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する支援に関すること

大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する支援は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する支援に関すること（第 1 項第 9 号関係） に、学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する支援、奨学金による支援等が掲載されている。

学位論文に係る評価に当たっての基準

学位論文に係る評価に当たっての基準は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>学位論文に係る評価に当たっての基準（第 3 項関係） に、大学院修士課程及び博士課程における学位論文に係る評価に当たっての基準が掲載されている。

その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は、情報の公開>教育情報の公表>学校教育法施行規則に基づく公表（第 172 条の 2）>学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（第 4 項関係） に、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、教育課程の体系性（カリキュラム・マップ、アセスメント・ポリシー等）が掲載されている。

学則は、情報の公開>教育情報の公表>学則 に、清泉女子大学学則、清泉女子大学大学院学則が掲載されている。

その他、ガバナンス・コード、寄附行為、役員及び評議員名簿、役員報酬支給規程、中期計画、事業計画、事業報告、予算及び決算の概要、計算書類等、認証評価及び自己点検・評価の結果、教学 I R 情報（卒業年次生アンケート、卒業生アンケート、就職先アンケート）についても公表している。

⑱ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教育内容等の改善を図るため、教員については主にFD活動を、職員に関してはSD活動を通じて、以下のような様々な取組を展開している。新学部設置後も、ひきつづき同様の活動を実施していく計画である。

(1) FD活動

本学では、教育・研究内容及び教育方法の改善を図ることを目的として、FD委員会を設置しており、教員の研修計画の立案及び実施、教育研究活動改善のための立案、FD活動に関する情報収集と提供等の諸活動を通じて、教員の教育・研究活動の質的向上と能力開発に資する組織的な取組を行っている。主な取組は以下の通りである。

学生による授業評価アンケートの実施（優秀授業実践賞選出）

平成27年度より全科目を対象に実施している、学生による授業評価アンケートでは、年度ごとに定めた設問項目で集計し特に優れた授業を、優秀授業実践賞として選出している。選出された教員には、授業運営上の工夫を公開授業や研修会、寄稿等を通じて、学内へフィードバックを依頼し、全学的な授業改善に役立てている。

FD研修会の開催

授業の内容及び方法の改善を図るため、FD委員会にて毎年度、研修の計画を立て、前期・後期各1回、原則として全専任教員を対象に研修会を実施している。前期は主に、前述の授業評価アンケートで優秀授業実践賞に選出された科目の担当教員による、具体的に行った授業内での工夫等の共有、後期は、学外研究者を招き、本学教員の教育力向上を目的とした講演会を実施している。

『FDニューズレター』の発行

優秀授業実践賞受賞者による授業運営上の工夫についての寄稿や、年間を通して全学的に取り組んだ授業改善のための研修の報告、授業に役立つ小さなFDツール使用法の紹介等を掲載し、非常勤講師を含めた全教員に共有している。

教育・学修支援センター・FD委員会共催 授業準備研修会の開催

本学には、教学マネジメントの運営支援や教育・学修に関するLMSの活用支援、学習支援に係る学内の連携等を担当する部署「教育・学修支援センター」が設置されており、前期および後期授業開始前に、当センター主催・FD委員会共催で、本学での授業開始に向けての準備を主とした研修を実施している。二部構成として、第一部は主に本学で初めて授業を行う教員向けの教室機材の使い方等の情報提供を目的とし、第二部は教員から多く寄せられた

質問等を共有した、より詳細な授業運営上の設備利用の注意点および前学期の授業振り返り等を共有する内容となっている。

初年次科目担当者研修会

本学では、全学共通の初年次科目を、一部を除き原則全専任教員が担当しており、コーディネーターの担当教員が、FD委員会共催で担当者会議を複数回開催し、学生に関する情報や授業の工夫・ノウハウの共有をおこなっている。

(2) SD 活動

教職員教育研修方針

本学の教育研究活動向上のため、教員はそれぞれの専門分野で研究業績を挙げ、その成果を教育に反映させること、また職員は業務遂行能力を高め、円滑な組織運営の能力を高めることにより、組織に貢献し、成果を生み出すことが求められている。

これらの能力を養うため、本学はSDを推進し、教職協働を展開するとともに、職務を通じてキリスト教ヒューマニズムに拠る建学の精神を体現する教職員の育成に取り組んでいる。

教職員教育研修計画

本学では、毎年度『教職員教育研修方針・計画』を作成し、研修の目的、計画、プログラム、及び開催予定の研修等を教職員に提示している。

研修プログラム

教育研修は等級別研修、目的別研修及び自己啓発研修に区分されている。

等級別研修は、ステップアップ研修とスキルアップ研修の2種類により行われている。ステップアップ研修は、職員が上位の等級に上がるために受講し、スキルアップ研修は各等級又は職位に見合った大学運営能力を養うことを目的に職員が受講する研修としている。

目的別研修は教職員全員を対象とし、原則として学内で行う研修である。

本学が最も重要と位置づける「建学の精神にかかわる研修」は、全専任教職員を対象とし、毎年9月の教授会後に実施している。講義形式であったり講演とグループ討議の組み合わせであったり、研修形式はテーマや講師等により変わるが、対面での研修の後、欠席者には動画を配信するため、全員が受講できるよう便宜を図っている。

学内で実施する研修のほか、日本私立大学連盟をはじめとする学外の研修にも、必要性や受講希望に応じて、大学が費用を負担し教職員を派遣している。

自己啓発研修は、職員の自己研修、自己研鑽等を本学が支援するものとし、学外の学会、研究会等への参加、語学やIT関連の講習やセミナーへの参加、大学、大学院等の科目履修

生としての講座受講、大学その他教育機関の通信教育の受講等に要した費用を、年間一人当たり 3 万円を限度に支給している。

指導補助者

ティーチングアシスタント（TA）及びラーニングサポーター（LS）については、令和 4 年度大学設置基準等の改正にともない、教育・学修支援センターが必要な法令や高等教育に関する歴史や現状等を研修動画にまとめ、学内サイトから受講できるように整えた。令和 5 年度採用の TA 及び LS は、全員この動画を視聴し、研修を完了している。

⑱ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

教育課程内の取組

社会的・職業的自立に関する教育課程内の取組は、段階的に構成されている。まず1年次必修の「清泉スタンダード」科目である「キャリア・デザインⅠ」を通じ、女性としてのキャリア（進路や人生設計）の概念を理解し、卒業後、社会的・経済的に自立するために、本学での学びをどう生かすかを理解する。2年次は「キャリア・デザインⅡ」により、インターンシップ等の社会的な活動を通じて、自らを取り巻く社会の現状について理解を深めていく。3年次は「キャリア・デザインⅢ」において、卒業後の進路を具体的に検討し、多様な選択肢から自らの将来を主体的かつ適切に選び取るための知識と技術を涵養する。より具体的に働くことについて理解を深めたい学生には「インターンシップ」の受講を促していく。また、社会人として組織の一員として役割を果たすことに興味のある学生は、2年次以降に「キャリアの組織論」で、学校とは異なる組織における個人のキャリアや、組織の構成員との関係性について考えていくことができる。さらに「労働者と法律」により、適切に自らの役割を果たしていくために必要な法律についての知識を学ぶことができる。

教育課程外の取組

社会的・職業的自立に関する教育課程外の取組は、主に全学的なキャリア形成並びに就労支援の担当部署であるキャリアサポート課によるキャリアガイダンスの実施や、就職活動に必要な具体的な知識やスキルを学ぶセミナー、就職に関する試験対策、関連する資格の取得支援等を行う。また、キャリアサポート課には専門のキャリアカウンセラーを配置し、一人ひとりの状況に応じた支援ができるように個別相談を随時行う。

適切な体制の整備

学生生活・国際交流担当副学長のもと、学内が連携し、学生の社会的・職業的自立の支援を行う体制の整備に努める。担当副学長は学生生活に関する事項を扱う学生生活委員会を通じて、教育・学習活動とキャリアサポート課による支援を全学的に連携させていく。

設置の趣旨等を記載した書類

資料 目次

資料 1	カリキュラムマップ
資料 2	3 つのポリシー対応表
資料 3	卒業要件
資料 4-1	履修モデル①（日本文化）
資料 4-2	履修モデル②（国際文化：スペイン語専攻）
資料 4-3	履修モデル③（文化史）
資料 4-4	履修モデル④（国際文化：英語専攻）
資料 5	多様なメディアを高度に利用した授業の実施ガイドライン
資料 6-1	教育実習受入承諾書（清泉女学院中学高等学校）
資料 6-2	教育実習実施承諾書（東京都公立学校）
資料 7	企業実習（インターンシップ含む）、海外語学研修等一覧
資料 8	就業規則
資料 9	定年延長に関する内規
資料 10	非常勤講師に関する規程
資料 11	令和 10 年度教室時間割

【資料1】カリキュラムマップ

						DP1	DP2	DP3	DP5	DP6	DP4
科目区分		科目名	開講期	単位数	必・選	専門知識	リテラシー	論理的思考力 批判的思考力	協働力	問題解決力	主体的に学ぶ力
基幹教育科目	清泉スタンダード	スタートアップ・ゼミナール	1前	1	必		○				↓ 全科目で対応
基幹教育科目	清泉スタンダード	初年次ゼミナール	1前	2	必		○		○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	初年次ゼミナール	1後	2	必		○				
基幹教育科目	清泉スタンダード	キャリア・デザインⅠ	1後	2	必		○		○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	スペイン語の世界	2後	2	必		○		○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	人間論	1前	2	必			○	○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	キリスト教学Ⅰ	2前	2	必			○	○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	キリスト教学Ⅱ	2後	2	必			○	○		
基幹教育科目	清泉スタンダード	健康・安全管理	1後	2	必		○				
基幹教育科目	清泉スタンダード	情報環境の構築	1前	1	必		○				
基幹教育科目	清泉スタンダード	情報環境の構築	1休	1	必		○				
基幹教育科目	清泉スタンダード	データリテラシー基礎	1後	1	必		○				
基幹教育科目	清泉スタンダード	情報社会の安全と倫理	1前	1	必		○				
基幹教育科目	必修外国語	First-year English: Integrated Skills	1前・後	2	選必		○		○		
基幹教育科目	必修外国語	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後	2	選必		○		○		
基幹教育科目	必修外国語	First-year English: Basic English HC a	1前	2	選必		○		○		
基幹教育科目	必修外国語	First-year English: Basic English HC b	1後	2	選必		○		○		
基幹教育科目	必修外国語	Second-year English: English Seminar	2前	2	必		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) a	1・2・3・4前	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) b	1・2・3・4後	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a	1・2・3・4前	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b	1・2・3・4後	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Academic Listening)	1・2・3・4後	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)	1・2・3・4後	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	English Skills Workshop (Academic Writing)	1・2・3・4前	2	選		○		○		
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Pre-intermediate a	1・2・3・4前	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Pre-intermediate b	1・2・3・4後	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Intermediate a	1・2・3・4前	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Intermediate b	1・2・3・4後	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Advanced a	1・2・3・4前	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	TOEIC対策講座 Advanced b	1・2・3・4後	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	留学準備TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	留学準備TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	留学準備TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4後	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	留学準備IELTS対策講座 a	1・2・3・4前	2	選		○				
基幹教育科目	選択外国語	留学準備IELTS対策講座 b	1・2・3・4後	2	選		○				

基幹教育科目	選択外国語	英検対策講座 a	1・2・3・4前	2	選		○			
基幹教育科目	選択外国語	英検対策講座 b	1・2・3・4後	2	選		○			
基幹教育科目	選択外国語	Business Communication	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	Current Issues: SDGs a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	Current Issues: SDGs b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	フランス語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	フランス語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ドイツ語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ドイツ語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	中国語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	中国語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	朝鮮・韓国語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	朝鮮・韓国語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	イタリア語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	イタリア語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ギリシア語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ギリシア語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ラテン語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ラテン語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ロシア語入門	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	ロシア語初級	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級文法a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級文法b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級読解a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級読解b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級会話a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級会話b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級総合a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語上級総合b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅰa	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅰb	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅱ a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅱ b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅲ a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅲ b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅳ a	1・2・3・4前	2	選		○		○	
基幹教育科目	選択外国語	日本語中級Ⅳ b	1・2・3・4後	2	選		○		○	
基幹教育科目	教養科目	考える技法	1・2・3・4前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	書く技法（基礎）	1・2・3後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	書く技法（一般）	1・2・3前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	書く技法（発展）	2・3・4前・後	2	選		○			

基幹教育科目	教養科目	読む技法	1・2・3・4後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	対話の技法	1・2・3・4後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	文理融合基礎	1・2・3・4後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	キャリア・デザインⅡ	2前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	キャリア・デザインⅢ	3前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	キャリアの組織論	2・3・4後	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	インターンシップ	2・3・4通	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	ジェンダー学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代社会とジェンダー	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	教育とジェンダー	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	表象文化とジェンダー	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	英語で学ぶ平和	1・2・3・4前	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	英語で学ぶ対話	1・2・3・4後	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	平和学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	SDGs概論	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代社会とボランティア	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	地域協力演習	1・2・3・4通	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	暮らしの法律	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代社会と法律	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	労働者と法律	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代の国際経済	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代の日本政治	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代の国際政治	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代社会とメディア	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	現代社会と倫理	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの倫理学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	心理学 1	1・2・3・4前	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	心理学 2	1・2・3・4後	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	暮らしの科学 (実験講座 キッチンサイエンス)	1・2・3・4前	2	選			○	○	
基幹教育科目	教養科目	科学史・科学哲学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	言語学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	応用言語学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	社会言語学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	認知言語学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	日本語音声学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	日本語教育文法	1・2・3・4休	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	法学（日本国憲法）	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	経済学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの経済学	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの社会学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	哲学 1	1・2・3・4後	2	選			○		

基幹教育科目	教養科目	哲学 2	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	表象文化論	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	音楽	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教の祈り	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教のことば	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教の思想	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教と現代社会	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教と美術	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教と音楽	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	キリスト教と文学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの科学 (実験講座 健康と環境)	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの科学 (栄養学)	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの科学 (病気の予防)	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	暮らしの科学 (健康増進)	1・2・3・4後	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	心身の医学	1・2・3・4前	2	選			○		
基幹教育科目	教養科目	体育実技・理論	1・2・3・4前・後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	体育実技・理論	1・2・3・4休	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	数量リテラシー	1後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	情報科学1	2・3・4前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	情報科学2	2・3・4前	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	情報科学3	2・3・4後	2	選		○			
基幹教育科目	教養科目	情報科学4	2・3・4後	2	選		○			
専門科目	専門コア科目	総合文化スタディーズ1	1前	2	選必				○	
専門科目	専門コア科目	総合文化スタディーズ2	1前	2	選必				○	
専門科目	専門コア科目	総合文化スタディーズ3	1前	2	選必				○	
専門科目	専門コア科目	日本文化入門演習	1後	2	選必		○		○	
専門科目	専門コア科目	国際文化入門演習	1後	2	選必		○		○	
専門科目	専門コア科目	文化史入門演習	1後	2	選必		○		○	
専門科目	専門コア科目	総合文化データサイエンス	2前	2	必		○		○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習1a (日本文化)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習2a (日本文化)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習3a (日本文化)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習4a (日本文化)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習5a (日本文化)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習6a (国際文化・英)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習7a (国際文化・英)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習8a (国際文化・英)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習9a (国際文化・英)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習10a (国際文化・西)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習11a (国際文化・西)	2前	2	選必			○	○	
専門科目	専門コア科目	基礎演習12a (国際文化・西)	2前	2	選必			○	○	

専門科目	専門コア科目	演習10a（国際文化・西）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習11a（国際文化・西）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習12a（国際文化・西）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習13a（国際文化・西）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習14a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習15a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習16a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習17a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習18a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習19a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習20a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習21a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習22a（文化史）	3前	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習1b（日本文化）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習2b（日本文化）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習3b（日本文化）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習4b（日本文化）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習5b（日本文化）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習6b（国際文化・英）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習7b（国際文化・英）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習8b（国際文化・英）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習9b（国際文化・英）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習10b（国際文化・西）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習11b（国際文化・西）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習12b（国際文化・西）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習13b（国際文化・西）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習14b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習15b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習16b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習17b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習18b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習19b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習20b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習21b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	演習22b（文化史）	3後	2	選必				○	○
専門科目	専門コア科目	研究法演習a	4前	2	必				○	○
専門科目	専門コア科目	研究法演習b	4後	2	必				○	○
専門科目	専門コア科目	卒業論文・卒業プレゼンテーション	4通	4	必					○
専門科目	専門基礎科目	初級くずし字ワークショップ	1前・後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	漢字文化論	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	日本語データ分析入門	1前・後	2	選必	○	○			

専門科目	専門基礎科目	日本文学読解トレーニング	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	パフォーマンスa	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	パフォーマンスb	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	英語アカデミック・ベーシックスa	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	英語アカデミック・ベーシックスb	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅰ-1（文法）	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅰ-2（文法）	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅰ-1（会話）	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅰ-2（会話）	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅱ-1（文法）	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅱ-2（文法）	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅱ-1（会話）	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	スペイン語Ⅱ-2（会話）	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Gramática y lectura I-1	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Gramática y lectura I-2	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Comunicación oral I-1	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Comunicación oral I-2	1前	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Gramática y lectura II-1	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Gramática y lectura II-2	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Comunicación oral II-1	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	Comunicación oral II-2	1後	1	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	文化史学序説	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	日本史概説a	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	日本史概説b	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	東洋史概説a	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	東洋史概説b	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	西洋史概説a	1前	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	西洋史概説b	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	史学概論	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	美術史概論	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	哲学概論	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	宗教学概論	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門基礎科目	聖書学概論	1後	2	選必	○	○			
専門科目	専門探究科目	文理融合特論	3・4後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	死生学	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	怪異学1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	怪異学2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	ファンタジー学1	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	ファンタジー学2	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	異文化コミュニケーション1	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	異文化コミュニケーション2	2・3後	2	選	○		○		

専門科目	専門探究科目	源氏物語の世界1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	源氏物語の世界2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本語学の世界1	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本語学の世界2	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本語学の世界3	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本古典文学の世界1	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本古典文学の世界2	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本古典文学の世界3	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学の世界1	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本近代文学の世界2	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本近代文学の世界3	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	漢文学の世界	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	英語文学の世界1	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	英語文学の世界2	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	英語学の世界	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	英語音声学の世界	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	異文化コミュニケーションの世界	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	児童文学の世界	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	メディアスペイン語の世界	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋美術史の世界	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本美術史の世界	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	東洋美術史の世界	1・2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	歴史ミュージカルの世界	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本語の歴史と文化	2・3休	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	イギリスの歴史と文化	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	アメリカの歴史と文化	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペインの歴史と文化	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	ラテンアメリカの歴史と文化	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本の歴史と文化1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本の歴史と文化2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	中国の歴史と文化	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	イスラームの歴史と文化	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	朝鮮・韓国の歴史と文化	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	中欧・東欧の歴史と文化	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	パフォーミング・アーツa（英語）	2前	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	パフォーミング・アーツb（英語）	2後	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	パフォーミング・アーツ（スペイン語）	2・3後	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	対照言語学1（日英）	3・4後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	対照言語学2（日西）	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	対照言語学3（日中）	3・4前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	対照言語学4（日韓）	2・3後	2	選	○		○		

専門科目	専門探究科目	短期研修1（英語圏）	2・3休	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	短期研修2（スペイン語圏）	2・3休	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	短期研修3（文化史・国外）	1・2・3・4休	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	短期研修4（文化史・国内）	1・2・3・4休	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	短期研修5（韓国）	1・2・3・4休	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	日本語学概論1	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本語学概論2	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本古典文学概論1	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本古典文学概論2	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学概論 1	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学概論 2	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	現代の日本語	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学とジェンダー	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学と社会	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本語学探究	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本古典文学探究	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近代文学探究	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	比較文学研究	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本芸能文化1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本芸能文化2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	現代日本サブカルチャー分析	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	中級くずし字ワークショップ	2・3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	上級くずし字ワークショップ	2・3後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	創作ワークショップ1（俳句）	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	創作ワークショップ2（短歌）	2・3休	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	創作ワークショップ3（小説）	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	創作ワークショップ4（朗読）	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本文学踏査	1・2後	2	選	○			○	
専門科目	専門探究科目	書道1	2・3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	書道2	2・3後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本語表現法1	2・3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	日本語表現法2	2・3後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	漢文学1	2・3休	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	漢文学2	2・3休	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	プレゼンテーションa	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	プレゼンテーションb	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	対話表現文法a	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	対話表現文法b	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語アカデミック・アドバンスト	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	コミュニケーション・スキルズⅠa	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	コミュニケーション・スキルズⅠb	2後	2	選	○		○		

専門科目	専門探究科目	コミュニケーション・スキルズⅡa	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	コミュニケーション・スキルズⅡb	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	時事英語自主学修	2・3前・後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	発音クリニック	1・2休	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	留学準備スタートアップ講座	1後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	英語通訳演習	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語翻訳演習1a	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語翻訳演習1b	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語翻訳演習2a	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語翻訳演習2b	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	児童文学演習	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	談話分析演習	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	談話分析	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語史	2前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語圏文学	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	英語圏比較文化	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	国際文化交流	1・2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	国際文化交流演習	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅲ（文法）	2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅲ（会話）	2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅲ（作文）	2前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	Gramática y lectura Ⅲ-1	2前	1	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	Gramática y lectura Ⅲ-2	2前	1	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	Comunicación oral Ⅲ-1	2前	1	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	Comunicación oral Ⅲ-2	2前	1	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅳ（文法）	2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅳ（会話）	2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅳ（読解演習）	2後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語圏の文化と社会	2後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅴ（総合）	3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅴ（読解演習）	3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語Ⅵ（総合）	3後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語検定対策講座	2・3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	スペイン語音声学	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語学	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語圏の世界遺産	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン文学史	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	ラテンアメリカ文学史	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン美術	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語圏の音楽文化	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン文学を楽しむ	2・3前	2	選	○		○		

専門科目	専門探究科目	ラテンアメリカ文学を楽しむ	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語圏の社会と女性	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語史	3・4後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン・ラテンアメリカ文学	3・4後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語翻訳演習	3・4後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	スペイン語通訳演習	3・4前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	ビジネススペイン語	3・4後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	グローバルヒストリー	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋思想史	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	現代社会と宗教	2・3休	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	キリスト教の源流	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本古代史特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本中世史特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近世史特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本近現代史特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本思想史	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	古文書学1	2・3前	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	古文書学2	2・3後	2	選	○	○			
専門科目	専門探究科目	東洋史特論1	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	東洋史特論2	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	東洋思想史	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋史特論1	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋史特論2	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	歴史ミュージカル特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋美術史特論1	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋美術史特論2	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	近現代美術史特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本美術史特論1	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本美術史特論2	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	東洋美術史特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	工芸史	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	人間とは何かについての哲学特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	どう生きるかについての哲学特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	宗教学特論	3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	宗教史特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	キリスト教の展開	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	聖書学特論	3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋キリスト教史1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	西洋キリスト教史2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本キリスト教史1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本キリスト教史2	2・3後	2	選	○		○		

専門科目	専門探究科目	日本宗教史1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	日本宗教史2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	仏教史	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	美学	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	考古学	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	民俗学	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	政治学1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	政治学2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	社会学1	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	社会学2	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	人文・自然地理学	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	地誌	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	帝国の歴史	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	神話と伝承	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	女性史	2・3前	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	ジェンダー史	2・3後	2	選	○		○		
専門科目	専門探究科目	文化史学発展研究1	3後	2	選	○				○
専門科目	専門探究科目	文化史学発展研究2	3前	2	選	○				○

【資料2】3つのポリシー対応表

CP（一部抜粋）												
CP1【基本構成】 本学部のカリキュラムは、学生が学部の枠を越えて履修する基幹教育科目と学科の専門科目によって構成される。												
CP2【領域】 本学科には3つの領域（日本文化領域、国際文化領域、文化史領域）があり、学生は入学時に選択した領域（自領域）の学問分野をベースとして学修を進める。3つの領域は相互に関連しているので、自領域以外の領域（他領域）の科目が履修できるようにカリキュラムを編成し、学生には領域を横断する科目履修を推奨する。												
基幹教育科目					専門科目							
CP3【基幹教育科目】 様々な場面で活用できる汎用的スキルをはじめ、人間観・人生観を広め深める力、言語によるコミュニケーション力、そして領域をこえて専門知を活用する力を身につけるために基幹教育科目を設置する。					CP4【専門科目】 言語・文学・歴史を軸とする人文科学の広範な知識を修得するとともに、社会に通用する汎用的能力を身につけるために専門科目を設置する。							
CP3-1【清泉スタンダード】 基礎的汎用的なスキルを身につけ、キリスト教の人間観を学ぶとともに自らの人生観を考える。	CP3-2【必修外国語】 実践的な英語の発信力を育成する。	CP3-3【選択外国語】 多様な英語科目と、異なる価値観に触れ、新たな視野を広くむ諸外国語科目から構成される。	CP3-4【教養科目】 専門領域をこえた幅広い知識や、多角的にものごとをとらえる力を身につける。		CP4-2【専門基礎科目】 各領域の学問分野に必要な基礎知識と基本的な学習方法を修得する。	CP4-3【専門探究科目】 人文科学の知識を幅広く修得する。	CP4-1【専門コア科目】 思考力・分析力・表現力等の汎用的能力を養成する。					
AP1【知識・技能】 総合文化学部の学修に必要な国語、英語、地理歴史を中心とした教科・科目で、高等学校等で習得すべき基礎的な学力が身についている。					高校卒業時の学力をベースに専門分野の基礎知識を学ぶ 〈全科目〉 日本文学読解トレーニング 英語アカデミック・ベーシックス スペイン語Ⅰ 文化史学序説 ほか	各自の興味関心に応じて専門知識を幅広く修得する 〈全科目〉 死生学 ファンタジー学 異文化コミュニケーション 女性史 ほか			専門知識と汎用的能力を統合して四年間の学修成果を可視化する 卒業論文・卒業プレゼンテーション	DP1【専門知識】 古代から現代に至る人間の営みを、言語・文学・歴史のいずれかを軸として学び、人文科学の専門知識を修得している。		
	高校卒業時の学力をベースに基礎的スキルを高める 〈全科目〉 スタートアップゼミナール 初年次ゼミナール データリテラシー基礎 ほか	高校卒業時の学力をベースに英語力を高める 〈全科目〉 First-year English Second-yeat English	英語や諸外国語の学習を通して言語運用能力を向上させる 〈全科目〉 English Skills Workshop フランス語入門 ドイツ語入門 ほか	さまざまな場面で必要となる汎用的スキルを向上させる 考える技法 書く技法 読む技法 対話の技法 ほか	専門分野の学修に必要な基礎的なスキルを修得する 〈全科目〉 日本文学読解トレーニング 英語アカデミック・ベーシックス スペイン語Ⅰ 文化史学序説 ほか	専門的なスキルを身につけ言語運用能力を高める 中級くずし学ワークショップ 発音クリニック スペイン語通訳演習 古文書学 ほか	対象を正確に把握するスキルを身につける 日本文化入門演習 国際文化入門演習 文化史入門演習 総合文化データサイエンス	DP2【リテラシー】 ことばを体系的に理解し、運用できるとともに、文献や資料を正確に解釈することができる。				
AP2【思考力・判断力・表現力】 物事を筋道立てて捉え、自分の考えをまとめ、それを伝えるための基礎的な力を有している。	《建学の精神》 キリスト教ヒューマニズムに基づき生き方考える 人間論 キリスト教学Ⅰ キリスト教学Ⅱ			さまざまな学問に触れ多角的な物事の見方を学ぶ ジェンダー学 暮らしの法律 科学史・科学哲学 キリスト教と音楽 ほか		時代や地域で異なる文化を知り想像力を磨く 日本近代文学とジェンダー 国際文化交流演習 スペイン語圏の文化と社会 グローバルヒストリー ほか	さまざまな思考方法を学び自分で考える力を向上させる 基礎演習1～22a,b		卒業論文・卒業プレゼンテーション	DP3【論理的思考力、批判的思考力】 人間心理の普遍性や世界の多様性を学ぶことによって、自分とは異なる立場を想像し、客観的な思考をすることができる。		
						アカデミックな世界を知り問題解決力を向上させる 文化史学発展研究	自分で答えを見つけ他者に伝えるスキルを身につける 演習1～22a,b 研究法演習a,b				DP6【問題解決力】 自ら問いを見つけ、解法を考え、自分なりの答えを導くなかで、その過程と結果を他者に効果的に伝えることができる。	
AP3【主体性を持って多くの人と協働して学ぶ意欲・態度】 総合文化学部の学修内容・分野（言語・文学・歴史・美術・哲学・宗教など）に興味・関心を持ち、課題に対し主体性を持って粘り強く取り組む姿勢、および他者と協働して学修しようという意欲・態度を有している。	さまざまな学問に触れ学ぶことの楽しさを知る 〈全科目〉				人文科学のおもしろさを知り学びつづける姿勢を身につける 〈全科目〉				卒業論文・卒業プレゼンテーション	DP4【主体的に学ぶ力】 自らの興味関心の方向性を知り、学問を探究し、自己の生き方に結びつけることができる。		
	学生相互の意見交換を通して他者と協働する楽しさを知る 初年次ゼミナール キャリア・デザインⅠ スペイン語の世界 ほか	外国語学習を通してコミュニケーション力を高める 〈全科目〉 First-year English Second-yeat English	外国語学習を通してコミュニケーション力を高める Business Communication 朝鮮・韓国語入門 イタリア語入門 ほか	他者とともに課題に取り組み協調性を育む インターンシップ 地域協力演習 暮らしの科学（実験講座） ほか			学生相互の意見交換を通して他者と協働する楽しさを知る 〈全科目〉 総合文化スタディーズ ほか				DP5【協働力】 ともに学ぶ過程で互いの見解を理解し、自身の役割を見つけ、他者と協働することができる。	

※塗りつぶしの濃い箇所は、当該科目群の主たる目的に該当する

【資料3】卒業要件

科目区分		配当年次	科目名	単位数	最低必要 単位数
基幹 教育 科目	清泉スタン ダード	1	スタートアップ・ゼミナール	1	18
			初年次ゼミナール	2	
			キャリア・デザインⅠ	2	
			人間論	2	
			健康・安全管理	2	
			情報環境の構築	1	
			データリテラシー基礎	1	
			情報社会の安全と倫理	1	
		2	スペイン語の世界	2	
			キリスト教学Ⅰ	2	
			キリスト教学Ⅱ	2	
	必修外国語	1	First-year English: Integrated Skills	2	6
			First-year English: Seisen Studies in English	2	
		2	Second-year English: English Seminar	2	
	選択外国語	1～4	(「日本語」を除く1科目)	2	2
	教養科目	1～4		14	14
基幹教育科目計				40	
専 門 科 目	専門コア科目	1	総合文化スタディーズ	2	22
			日本文化／国際文化／文化史入門演習	2	
		2	総合文化データサイエンス	2	
			基礎演習a	2	
			基礎演習b	2	
		3	演習a	2	
			演習b	2	
		4	研究法演習a	2	
			研究法演習b	2	
			卒業論文・卒業プレゼンテーション	4	
	専門基礎科目	1	(自領域4科目*)	8	8
	専門探究科目	1～4		32	32
専門科目計				62	
自由選択（他学部科目、資格課程科目を含む）				22	
卒業に必要な単位数				124	

*スペイン語科目（1単位）のみ8科目

【資料4-1】履修モデル① 選択領域：日本文化

科目区分		必修 単位	卒業 要件	1年		単位		2年		単位			3年		単位		4年		単位			履修単位	
						前期	後期		前期	後期	集中		前期	後期		前期	後期	通年	小計	合計			
基 幹 教 育 科 目	清泉スタン ダード	18	40単位	スタートアップ・ゼミナール	1	スペイン語の世界			2	2											18	40	
				初年次ゼミナール	2	キリスト教学Ⅰ			2														
				キャリア・デザインⅠ		2	キリスト教学Ⅱ			2													
				人間論	2																		
				健康・安全管理		2																	
				情報環境の構築	1																		
				データリテラシー基礎		1																	
	情報社会の安全と倫理	1																					
	必修外国語	6		First-year English: Integrated Skills	2	Second-year English: English Seminar			2													6	
				First-year English: Seisen Studies in English		2																	
選択外国語	2																			2			
		表象文化とジェンダー		2	キャリア・デザインⅡ	2				朝鮮・韓国語入門	2												
		言語学	2		応用言語学	2				キャリア・デザインⅢ	2												
教養科目	14	キリスト教のことば		2	社会学		2														14		
		総合文化スタディーズ3	2	総合文化データサイエンス			2			演習5a（日本文化）	2		研究法演習a	2						22	62		
		日本文化入門演習		2	基礎演習5a（日本文化）			2			演習5b（日本文化）	2		研究法演習b		2							
			基礎演習5b（日本文化）			2					卒業論文・卒業プレゼンテーション			4									
専門基礎科目	8	初級くずし字ワークショップ	2																			8	
		漢字文化論	2																				
		日本語データ分析入門		2																			
		日本文学読解トレーニング		2																			
専門探究科目	32	日本語学の世界1	2		日本語学概論1	2			対照言語学1（日英）		2	創作ワークショップ1（俳句）		2								32	
		日本語学の世界2		2	日本語学概論2		2		対照言語学4（日韓）		2	創作ワークショップ4（朗読）			2								
		異文化コミュニケーションの世界	2		日本語の歴史と文化		2		現代の日本語		2												
					日本語学の世界3		2		日本語学探究		2												
					日本近代文学概論2		2		現代日本サブカルチャー分析		2												
									神話と伝承		2												
					日本語音声学			2		朝鮮・韓国語初級		2											
自 由 選 択	すべて ＊他学部科 目・資格課程 科目を含む	22 22単位 以上				基礎演習4a（日本文化）		2		ラテン語入門		2									26	26	
						基礎演習4b（日本文化）		2		演習4a（日本文化）		2											
						中級くずし字ワークショップ		2		演習4b（日本文化）		2											
						上級くずし字ワークショップ		2		英語学の世界		2											
						源氏物語の世界1		2		メディアスペイン語の世界		2											
										グローバル・スタディーズ2*		2											
計		124単位以上		21	19		20	20	2		16	18			4	4	4		128				

※ブロック体の科目＝必修もしくは選択必修科目

※「*」の付いた科目＝地球市民学部科目

【資料4-2】履修モデル② 選択領域：国際文化（スペイン語専攻）

科目区分		必修 単位	卒業 要件	1年	単位		2年	単位		3年	単位			4年	単位			履修単位		
					前期	後期		前期	後期		前期	後期	休業期間		前期	後期	通年	小計	合計	
基 幹 教 育 科 目	清泉スタン ダード	18	40単位	スタートアップ・ゼミナール	1		スペイン語の世界		2								18	40		
				初年次ゼミナール	2		キリスト教学Ⅰ		2											
				キャリア・デザインⅠ		2	キリスト教学Ⅱ			2										
				人間論	2															
				健康・安全管理		2														
				情報環境の構築	1															
				データリテラシー基礎		1														
				情報社会の安全と倫理	1															
	必修外国語	6		First-year English: Integrated Skills	2		Second-year English: English Seminar		2										6	
				First-year English: Selsen Studies in English		2														
	選択外国語	2							ラテン語入門		2								2	
				言語学	2		キャリア・デザインⅡ		2	キャリア・デザインⅢ		2								
	教養科目	14		書く技法（基礎）		2	応用言語学		2											14
				社会言語学		2														
キリスト教と文学			2																	
専 門 科 目	専門コア科目	22	62単位	総合文化スタディーズ2	2		総合文化データサイエンス	2		演習11a（国際文化・西）		2		研究法演習a		2	22			
				国際文化入門演習		2	基礎演習11a（国際文化・西）		2		演習11b（国際文化・西）		2		研究法演習b			2		
							基礎演習11b（国際文化・西）		2				卒業論文・卒業プレゼンテーション			4				
	専門基礎科目	8		スペイン語Ⅰ-1・Ⅰ-2（文法）	2													8		
				スペイン語Ⅰ-1・Ⅰ-2（会話）	2															
				スペイン語Ⅱ-1・Ⅱ-2（文法）		2														
				スペイン語Ⅱ-1・Ⅱ-2（会話）		2														
	専門探究科目	32					スペイン語Ⅲ（文法）		2	スペイン語Ⅴ（総合）		2			スペイン語通訳演習		2		32	
							スペイン語Ⅲ（会話）		2	スペイン語Ⅴ（読解演習）		2								
							スペイン語Ⅲ（作文）		2	スペイン語Ⅵ（総合）			2							
							スペイン語Ⅳ（文法）		2	スペイン語音声学		2								
							スペイン語Ⅳ（会話）		2	スペイン語学		2								
							スペイン語Ⅳ（読解演習）		2	メディアスペイン語の世界		2								
							スペイン語圏の文化と社会		2	スペイン語翻訳演習			2							
										異文化コミュニケーション2			2							
	自 由 選 択	すべて ＊他学部科 目・資格課程 科目を含む		22	22単位 以上				スペインの歴史と文化		2	ラテン語初級		2		スペイン・ラテンアメリカ文学		2	26	
							スペイン語圏の世界遺産		2	教育とジェンダー		2		ビジネススペイン語		2				
							スペイン美術		2	ラテンアメリカの歴史と文化		2								
							対照言語学2（日西）		2	スペイン語検定対策講座		2								
										スペイン語史			2							
										パフォーマンス・アーツ（スペイン語）			2							
										短期研修2（スペイン語圏）				2						
計				124単位以上	19	17		22	18		20	16	2		4	6	4	128		

※ブロック体の科目＝必修もしくは選択必修科目

【資料4-3】履修モデル③ 選択領域：文化史

科目区分		必修 単位	卒業 要件	1年		単位		2年		単位		3年			単位			4年			単位			履修単位	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	休業期間	前期	後期	過年／休業	小計	合計										
基 幹 教 育 科 目	清泉スタン ダード	18	40単位	スタートアップ・ゼミナール	1		スペイン語の世界		2												18	40			
				初年次ゼミナール	2		キリスト教学Ⅰ		2																
				キャリア・デザインⅠ		2	キリスト教学Ⅱ			2															
				人間論	2																				
				健康・安全管理		2																			
				情報環境の構築	1																				
				データリテラシー基礎		1																			
	情報社会の安全と倫理	1																							
	必修外国語	6		First-year English: Integrated Skills	2		Second-year English: English Seminar		2															6	
				First-year English: Seisen Studies in English		2																			
選択外国語	2									2											2				
教養科目	14	平和学	2		キャリア・デザインⅡ		2					2													
		書く技法（基礎）		2	哲学2		2																		
		キリスト教と美術	2		ジェンダー学		2																		
専 門 科 目	専門コア科目	22	62単位	総合文化スタディーズ1	2		総合文化データサイエンス		2		演習14a（文化史）		2			研究法演習a		2				22			
				文化史入門演習		2	基礎演習14a（文化史）		2			2			研究法演習b			2							
							基礎演習14b（文化史）		2					卒業論文・卒業プレゼンテーション				4							
	専門基礎科目	8		文化史学序説	2																		8		
				日本史概説a	2																				
				日本史概説b		2																			
				史学概論		2																			
	専門探究科目	32					日本の歴史と文化1		2		中欧・東欧の歴史と文化		2			日本近世史特論		2					32		
							中国の歴史と文化		2		神話と伝承		2			日本近現代史特論			2						
							イスラームの歴史と文化		2		日本古代史特論		2												
							イギリスの歴史と文化		2		日本中世史特論			2											
							帝国の歴史		2		東洋史特論2			2											
							グローバルヒストリー		2		西洋史特論2			2											
							ジェンダー史		2		歴史ミュージカル特論			2											
自 由 選 択	すべて ＊他学部科 目・資格課程 科目を含む	22	22単位 以上	科学史・科学哲学		2	文理融合基礎		2		ドイツ語初級			2		日本芸能文化2		2			24				
				日本美術史の世界	2		源氏物語の世界1		2		怪異学2		2		短期研修3（文化史・国外）			2							
							日本宗教史1		2		日本美術史特論1		2												
										ラテンアメリカの歴史と文化		2													
計		124単位以上		21	17			22	18			16	14	2			6	4	6		126				

※ブロック体の科目＝必修もしくは選択必修科目

【資料4-4】履修モデル④ 選択領域：国際文化（英語専攻）

科目区分		必修 単位	卒業 要件	1年			単位			2年			単位			3年			単位			4年			単位			履修単位	
				前期	後期	休業期間	前期	後期	集中／休業	前期	後期	休業期間	前期	後期	休業期間	前期	後期	通年	小計	合計									
基 幹 教 育 科 目	清泉スタン ダード	18	40単位	スタートアップ・ゼミナール	1			スペイン語の世界		2														18	40				
				初年次ゼミナール	2			キリスト教学Ⅰ	2																				
				キャリア・デザインⅠ		2		キリスト教学Ⅱ		2																			
				人間論	2																								
				健康・安全管理		2																							
				情報環境の構築	1																								
				データリテラシー基礎		1																							
情報社会の安全と倫理	1																												
必修外国語	6	40単位	First-year English: Integrated Skills	2			Second-year English: English Seminar	2															6	40					
			First-year English: Seisen Studies in English		2																								
選択外国語	2																				2	14							
教養科目	14	対話の技法		2		キャリアデザインⅡ	2			キャリア・デザインⅢ	2																		
		英語で学ぶ対話		2						表象文化とジェンダー		2																	
		キリスト教と音楽		2						現代社会とメディア	2																		
専 門 科 目	専門コア科目	22	62単位	総合文化スタディーズ3	2			総合文化データサイエンス	2			演習8a（国際文化・英）	2			研究法演習a	2					22	62						
				国際文化入門演習		2		基礎演習8a（国際文化・英）	2			演習8b（国際文化・英）		2		研究法演習b		2											
								基礎演習8b（国際文化・英）		2				卒業論文・卒業プレゼンテーション		4													
				専 門 科 目	専門基礎科目	8	62単位	パフォーマンスa	2																			8	62
								パフォーマンスb		2																			
英語アカデミック・ベーシックスa	2																												
英語アカデミック・ベーシックスb		2																											
専 門 科 目	専門探究科目	32	62単位					異文化コミュニケーションの世界	2			国際文化交流演習		2		日本美術史の世界	2									32	62		
				国際文化交流	2			日本語の歴史と文化		2		対照言語学Ⅰ（日英）		2															
								源氏物語の世界Ⅰ	2			英語通訳演習	2																
								比較文学研究		2		現代日本サブカルチャー分析		2															
								異文化コミュニケーションⅠ		2		日本芸能文化2		2															
								コミュニケーションスキルズⅠa	2			コミュニケーションスキルズⅠa	2																
								コミュニケーションスキルズⅠb		2		コミュニケーションスキルズⅠb		2															
				自 由 選 択	すべて *他学部科 目・資格課程 科目を含む	22	22単位 以上	日本史概説a	2			基礎演習9a（国際文化・英）	2			TOEIC対策講座Intermediate a	2			TOEIC対策講座Advanced a	2							26	26
								日本史概説b		2		基礎演習9b（国際文化・英）		2		TOEIC対策講座Intermediate b		2		TOEIC対策講座Advanced b		2							
短期研修1（英語圏）		2						対話表現文法a	2			短期研修4（文化史・国内）		2															
								対話表現文法b		2																			
計		124単位以上			21	21	2		18	18	4		14	16	2		4	4	4		128								

※ブロック体の科目＝必修もしくは選択必修科目

※「*」の付いた科目＝地球市民学部科目

多様なメディアを高度に利用した授業の実施ガイドライン

この文書では、清泉女子大学学則(令和7年4月1日改訂・施行)第12条3項および同条4項に規定する「多様なメディアを高度に利用して」行われる授業について、その実施に必要とされる条件と方法を具体的に定める。

0.用語

この文書では、以下の用語を用いる。

対面授業

従来より行われている、時間割に定められた時間に授業を行い、かつ、担当教員と履修出席者とは空間的に近接した状態(通常は同一教室内)で実施される授業。

遠隔授業

遠隔授業は、以下で定義されるオンライン授業とオンデマンド授業の何れかである。

オンライン授業

当該授業科目について、次の各項を全てを満たす場合に、その特定回の授業時間を「オンライン授業である」と言う。

- 原則として、時間割に定められた時間に授業を行う。この時間割は当該授業科目の全ての履修者に対して共通の設定である。
- 授業時間における教授学習活動の多くが、その担当教員とその履修出席者とは空間的に離れた状態で実施される。
- 授業時間内に、担当教員とその履修出席者が、音声または画像または文字またはそれらの組み合わせを表記手段とした(多様なメディアを高度に利用した)メッセージを、同時かつ双方向に送りながら教授学習活動を進める。
- 授業期間を通じて、履修者の学修状態と学修成果を担当教員が授業運営に必要とされる範囲で確認できる状態にする。

オンデマンド授業

当該授業科目について、次の各項を全てを満たす場合に、その特定回の授業時間を「オンデマンド授業である」と言う。

- 原則として、時間割に授業時間を定めずに、授業期間内の任意の105分間を1回の授業時間とする(履修者が授業時間を自由に選択する)。
- 授業時間内での教授学習活動の多くを、その担当教員とその履修出席者とは空間的に離れた状態で実施する。
- 担当教員が予め記録しておいた音声または画像またはそれらの組み合わせを表記手段としたメッセージを、履修出席者が通信回線を経由して再生操作しながら学習を行う。
- 担当教員とその履修出席者は、音声または画像または文字またはそれらの組み合わせを表記手段とした(多様なメディアを高度に利用して)、補足的メッセージを授業時間外に相互に送りながら教授学習活動を進める。
- 授業期間を通じて、履修者の学修状態と学修成果を担当教員が授業運営に必要とされる範囲で確認できる状態にする。

遠隔授業科目

授業科目について、次の各項の全てを満たす場合に、「遠隔授業科目である」と言う。

- 授業の総回数に占める、遠隔授業の授業回数が過半数である。

対面授業科目

遠隔授業科目ではない授業科目。

1.制度根拠

遠隔授業は、この文書に定める内容と合わせて、「大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)」第 25 条、「大学設置基準等の一部を改正する省令の施行等について(平成 10 年 3 月 31 日通知)」、「平成 13 年文部科学省告示第 51 号(大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等)」に示される諸項目を全て満たすことで実施が認められる。

2.遠隔授業を実施できる対面授業科目の範囲

本学の全ての対面授業科目について、遠隔授業科目とせずに、また、事前の審査・登録等の手続きを採らずに、遠隔授業を実施することができる。ただし、当該授業科目を運営する組織が、このガイドライン文書の内容とは別に、遠隔授業を実施する条件を制限することがある。

遠隔授業を実施することが予め想定される対面授業科目については、原則として、当該授業科目を履修登録する期間に、その授業において遠隔授業を実施する予定である旨を、シラバス等を通して潜在的履修登録者に周知することが求められる。

3.遠隔授業科目を実施できる授業科目の範囲

当該授業科目を運営する組織が認め、かつ、学務委員会が認めた場合に限り、遠隔授業科目を開講(実施)できる。

原則として、当該授業科目を履修登録する期間に、いずれの科目が遠隔授業科目であるかを、シラバス等を通して潜在的履修登録者に周知することが求められる。

4.遠隔授業を実施する目的

対面授業は実施が困難だが遠隔授業であれば実施が可能な授業や、対面授業によって得られる学修成果と同等もしくはそれに勝る学修成果が、遠隔授業によって得られると想定される場合に、遠隔授業を実施できる。

例えば以下のような状況において遠隔授業を実施することが適切と考えられる。

1. 既に遠隔地にいる者(教員)に新たに授業を担当させたい場合で、かつ、当該者が登校することが困難であるか当該者が登校するためのコスト(交通費、時間等)を大学が節約したい場合。
2. 担当教員または履修者が遠隔地の状況・設備を参照して・活かして授業を行いたい場合。
3. 既に遠隔地にいる潜在履修者に授業を履修させるべき事情がある場合や、予期しない事情により遠隔地に移動した潜在履修者に授業を履修させるべき事情がある場合。
4. 既に遠隔地にいる担当教員が体調不良等の事情により登校困難である場合。
5. 既に遠隔地にいる担当教員または多数の履修者が、一時的に登校困難になった場合(天候悪化、交通機関停止、災害など)、または、一時的に登校困難になると予想される場合(天候悪化予報、交通機関停止予告など)。
6. 遠隔地で行われる他大学の授業と共同して授業を実施したい場合。
7. 履修者間で授業に関連する事前の知識・技能の差が大きいために、対面授業では学習効率が低下する問題が予見され、かつ、その問題がオンデマンド授業を実施することで軽減されると見込まれる場合。
8. 補講授業を対面授業で行おうとすると、通常週例授業期間とは異なる曜日時間に設定されるために担当教員が登校することが困難であるなどの問題が予見され、かつ、その問題が遠隔授業を実施することで軽減されると見込まれる場合。

9. 補講授業を対面授業で行おうとすると、他の授業科目の補講授業等と時間重複するために、履修者が出席することが困難であるなどの問題が予見され、かつ、その問題が遠隔授業を実施することで軽減されると見込まれる場合。

5.遠隔授業を実施する際の留意事項

大学側、すなわち、当該授業科目を担当する教員と当該科目を運営する組織は、遠隔授業を実施する際に、以下の事項に留意しなければならない。

1. **教材の可用性を担保する件：**画面では文字や画像が見づらい場合に備えて、学生に対してプリント教材等を提供するなどの工夫しなければならない。
2. **クラスあたりの履修者数を適切に制限する件：**一度に多くの学生を対象にして授業を行うことが可能となるが、履修者数が過度に多くならないようにしなければならない。
3. **特別支援の必要性和内容が変わる可能性がある件：**履修者に対する特別支援の必要性や対応すべき内容が、対面授業と遠隔授業とでは異なる場合があることに注意しなければならない。具体的な支援内容については必要に応じて専門家の意見を聴取して対応することが期待される。
4. **履修者間のコミュニケーションを担保する件：**授業内容に関する意見を学生が交換する機会を確保しなければならない。
5. **履修者から教員へのアクセス手段を担保する件：**学生から教員に対する授業についての質問や相談の機会を確保しなければならない。
6. **履修者の集中力維持を支援する件：**オンデマンド授業では、履修者に対して録音・録画教材を105分間連続して視聴するように求めるのは困難な場合が多いことに注意しなければならない。105分間の中に履修者による能動的な問題解決活動を組み込むとか、録音・録画教材を分割して視聴できるようにするなど、履修者が集中して録音・録画教材に取り組めるよう工夫する必要がある。
7. **オンデマンド授業における授業時間外指導を担保する件：**オンデマンド授業では、当該授業終了後すみやかに、インターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行う手段と機会を確保しなければならない。
8. **遠隔授業を受講する環境を担保する件：**履修者が受講する場所は、学内でも自宅等学外でも構わないが、履修者の求めに応じて大学内で適切に受講できる場所と時間を提供しなければならない。
9. **受講する環境の不具合に備える件：**特定履修者が、利用する機器や通信回線等の不具合によって、遠隔授業を十分に受講できない・受講できなかった場合に備え、担当教員は、過剰な負担を負わない範囲で、授業内容を、配布資料や録音・録画などの方法を用いて、履修者が授業時間後に参照できるようにすることが期待される。
10. **履修者の個人情報・プライバシーを保護する件：**授業時の履修者に関する情報(相貌、音声、氏名等個人情報)を、履修者以外が参照しにくい・参照できないように処置しなければならない。例えば、オンライン授業の録音・録画記録に履修者に関する情報が含まれる場合には、その録音・録画記録を参照する際に大学が定める利用者認証を必須とするなどの処置が求められる。また、履修者に対して、履修者以外がそれを参照しやすくする処置をしてはならない旨を、説明し要請することが求められる。
11. **授業コンテンツの著作権と個人情報を保護する件：**授業内容の著作権は、当該授業の担当教員が保持している。また、そこに担当教員以外による活動(第三者による授業内講演、第三者が著作権をもつ教材の利用、履修者による発言や学修成果物の参照など)が含まれる場合には、その活動の主体が共同著作権を保持している。さらに、そこに個人情報が含まれる場合には、その個人情報が保護される必要がある。オンデマンド授業やオンライン授業の録音・録画記録が利用される場合には、それら権利が守られなければならない。
12. **遠隔授業実施に必要とされる知識・技能を研修する件：**遠隔授業を実施する・実施する予定の授業科目を担当しているか否かに関わらず、教員は、必要な状況で遠隔授業を実施できる

よう、関連する知識・技能を高めるよう、通常から取り組むことが求められる。一方、大学は、そのための学習リソース(研修会開催、利用ガイド提供、ヘルプデスク運用など)を随時提供することが求められる。

6.個別履修者の事情による授業方法の変更

当該授業科目の個別履修者の事情、とりわけ、その履修者の責に帰する事情によって、特定の履修者に対してのみオンデマンド授業またはオンライン授業に相当する教授学習活動を実施する場合(他の履修者には対面授業を実施する場合)には、原則として、当該履修者はその授業時間に欠席した扱いとする。

ただし、このことは、特定の履修者に対してのみオンデマンド授業またはオンライン授業に相当する教授学習活動を実施することを妨げるものではない。特定の履修者が対面授業に欠席する・欠席した場合には、対面授業に臨む授業担当教員は、過剰な負担を負わない範囲で、また、対面授業へ出席する・出席した履修者に不利益を生じさせない範囲で、授業内容を、オンライン中継したり、配布資料や録音・録画などの方法を用いて、欠席者に通知したりすることが期待される。

7.実施に必要とされる機器と環境を整備する責任主体

履修者が遠隔授業を受講するために必要とする、履修者の手元に置く端末システム(パソコンやスマートフォン等、それらに接続される周辺機器、担当教員と履修者をオンライン接続するためのソフトウェア)を購入・整備し、それを接続するインターネット等広域ネットワークの利用権を確保することは、個々の履修者の責任とする。ただし、大学内で遠隔授業を受講する場合には、履修者の手元におく端末システムを接続するインターネットの利用権を大学が提供することとする。

教員が遠隔授業を実施するために必要とする、教員の手元に置く端末システムを購入・整備し、それを接続するインターネット等広域ネットワークの利用権を確保することは、個々の教員の責任とする。ただし、大学内でオンライン授業を実施したりオンデマンド授業の教材を記録したりする場合には、教員の手元におく端末システムとそれを接続するインターネットの利用権を大学が提供することとする。

端末システムとそれを接続するインターネット等広域ネットワークの汎用的な設定については、それぞれを所持したりその利用権をもつ者の責任で確認したり作業したりすることとする。ただし、本学独自の設定については、大学側が十分事前に教員と履修者にその設定内容と設定操作手順を周知することとする。

8.例外的処置

政府により緊急事態宣言が発出されるなどして、通常とは異なる社会事情が発生し、この文書で扱う問題に影響が及ぶと思われる場合には、大学は、この文書で定める内容に関わらず、必要とされる処置を速やかに定め、それを関係者に周知した実施することとする。

9.定期的改訂

この文書で扱う問題は、関連する技術の進歩と普及、社会からの要請と期待、利用者が習得している知識と技能、などに影響されるが、それらの要素は極めて変化が激しいものである。したがって、この文書の内容に関して特段の問題を生じていなくても、概ね1年ごとにその内容を検討することが求められる。

承 諾 書

清泉女子大学からの教育実習生を受け入れることを承諾します。

1999年6月23日

神奈川県鎌倉市城廻200番地

清泉女学院中学高等学校

校長 坂 本 淑 子 印



教育実習校について

学校名	清泉女学院中学高等学校 (神奈川県鎌倉市城廻200番地)			中 学 校	学級数: 12	生徒数: 550
				高等学校	学級数: 12	生徒数: 522
教員数	中 学 校	27人	内訳	教諭 27 人・助教諭 0 人・講師(専任) 0 人		
				養護教諭 0 人・養護助教諭 0 人		
	高等学校	24人	内訳	教諭 23 人・助教諭 0 人・講師(専任) 0 人		
				養護教諭 1 人・養護助教諭 0 人		

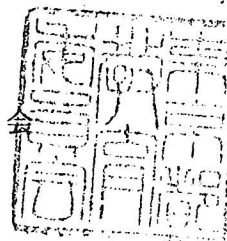


10教人第 330 号
平成 11 年 3 月 29 日

清泉女子大学

学長 中 尾 セ ツ 子 様

東 京 都 教 育 委 員 会



東京都公立学校教育実習実施承認書

このことについて、東京都公立学校での教育実習の実施について、東京都公立学校教育実習取扱要綱第6条第3項の規定に基づき下記のとおり承認します。

記

1 承認する課程の名称、免許状の種類及び免許教科

清泉女子大学	文学部	日本語日本文学科		
			中学校教諭 1種免許状	国語
	文学部	英語英文学科	高等学校教諭 1種免許状	国語
			中学校教諭 1種免許状	外国語（英語）
	文学部	スペイン語スペイン文学科	高等学校教諭 1種免許状	外国語（英語）
			中学校教諭 1種免許状	外国語（イスパニア語）
	文学部	文化史学科	高等学校教諭 1種免許状	外国語（イスパニア語）
			中学校教諭 1種免許状	社会
			中学校教諭 1種免許状	宗教
			高等学校教諭 1種免許状	地理歴史
			高等学校教諭 1種免許状	公民
			高等学校教諭 1種免許状	宗教

2 承認開始時期 平成12年4月1日

3 承認番号 第35号

以上

(別記第2号様式)

東京都公立学校教育実習実施調書

大学名	清 泉 女 子 大 学				設置者	学校法人 清泉女子大学			
所在地	本 部	東京都品川区東五反田 3-16-21							
	学部・学科	東京都品川区東五反田 3-16-21						最寄駅	五反田駅
担 当 教 員	職名	教職課程主任教授			事 務 担当者	(電 話) 03-5991-8183			
	氏名	小林順子				(ファクス) 03-3447-5493			
学部・ 学科等 の組織 及び承 認を受 けよう とする 免許状 の種類	学部	学科等	設置 年度	入学 定員	教職課程 履修予定 人員	教職課程 履修人員	承認を受けようとする 免許状の種類	現在承認を受けている 免許状の種類	
	文	日本語日本文学科	昭和 25年	90名	40名	31名	中学校1種 国語 高等学校1種 国語	中学校1種 国語 高等学校1種 国語	
	文	英語英文学科	昭和 25年	100名	60名	54名	中学校1種 英語 高等学校1種 英語	中学校1種 英語 高等学校1種 英語	
	文	スペイン語スペイン文学科	昭和 36年	70名	15名	11名	中学校1種 イスパニッシュ語 高等学校1種 イスパニッシュ語	中学校1種 イスパニッシュ語 高等学校1種 イスパニッシュ語	
	文	文化史学科	平成 5年	70名	45名	40名	中学校1種 社会 中学校1種 宗教 高等学校1種 地理歴史 高等学校1種 宗教 高等学校1種 公民	中学校1種 社会 中学校1種 宗教 高等学校1種 地理歴史 高等学校1種 宗教	
	教 職 課 程 履 修 予 定 人 員 合 計				160名	教職課程履修予定人員合計内訳			
						附属学校等による実施人員		都内公立学校実施人員	
						80名		80名	
都内公立学校 において教育 実習を 実施す る理由	本学では、教育の需要が減少しているのにも関わらず、真摯に教員を志望する学生がむしろ増加傾向にある。 本学としては、教職準備教育の更なる充実の一環として、教育実習校への訪問指導も強化する方針である。したがって、教育実習訪問指導のために本学の所在地である東京都の公立学校が引き続き教育実習生を受け入れていただくことを希望している。								
備 考	教職課程履修人員の人数は、平成10年度1年次生の履修者数。								

【資料7】企業実習（インターンシップ含む）、海外語学研修等一覧

学部	実習の種類	授業科目名	実習先の確保の状況					実習先との連携体制	成績評価体制及び単位認定方法	認定単位数	その他特記事項
			実習施設名	実習施設所在地	実習先最大受け入れ数	研修日数	必修または選択科目				
総合文化	国内における実習	インターンシップ	一般社団法人東京中小企業家同友会／特定非営利法人日本情報技術取引所	東京都千代田区／東京都品川区	5～10名程度	5日間	選択科目	実習先とは年間を通じて担当者間で随時連絡を取り、定期的に打ち合わせることで、学生に適切なインターンシップを実施するための検討を継続的に行なう。	成績評価は実習への参加と活動報告、またインターンシップ受け入れ企業からの評価に基づいて行う。	2	
総合文化	国内における実習	短期研修4(文化史・国内)	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	20～30名程度	3日程度	選択科目	—	研修旅行への参加、および事前学習、事後学習への参加姿勢と成果等	2	専任教員が引率する国内での学外研修旅行(行先は年度により異なる) 現行の文化史学科で実績あり。
総合文化	海外における実習	短期研修1(英語圏)	アルバータ大学(前期)・オーストラリア・カトリック大学(後期)	カナダ・エドモントン/オーストラリア・メルボルン	受入人数の制限なし	3～4週間	選択科目	直接担当者とメールで連絡する他、旅行代理店を通じて常時報告を受け、要望を伝える。	研修旅行への参加、および事前学習、事後学習への参加姿勢と成果等	2	前期と後期に行き先を変えて開講予定
総合文化	海外における実習	短期研修2(スペイン語圏)	メネンデス・ペラヨ国際大学	スペイン・サンタンデール	最大25名	28日間	選択科目	本学専任教員はプログラム担当者と随時連絡を取っており、プログラムの改善策などを検討する体制が整っている。	修了証をもって単位の認定をする。	2	
総合文化	海外における実習	短期研修3(文化史・国外)	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	20～30名程度	10日～2週間程度	選択科目	—	研修旅行への参加、および事前学習、事後学習への参加姿勢と成果等	2	専任教員が引率するヨーロッパ・アジア等への海外研修旅行(行先は年度により異なる) 現行の文化史学科で実績あり。
総合文化	海外における実習	短期研修5(韓国)	梨花女子大学	韓国・ソウル	受入人数の制限なし	2週間	選択科目	サマーカレッジの担当者とは随時メールのやり取りをし、プログラム内容などについて要望や質問を出すことができる。また、プログラム担当者が来日し、学生に直接説明会を実施する機会を設けている。	修了証をもって単位の認定をする。	2	
地球市民	国内における実習	インターンシップ	一般社団法人東京中小企業家同友会／特定非営利法人日本情報技術取引所	東京都千代田区／東京都品川区	5～10名程度	5日間	選択科目	実習先とは年間を通じて担当者間で随時連絡を取り、定期的に打ち合わせることで、学生に適切なインターンシップを実施するための検討を継続的に行なう。	成績評価は実習への参加と活動報告、またインターンシップ受け入れ企業からの評価に基づいて行う。	2	
地球市民	国内における実習	情報系インターン講座	IT情報系企業(株式会社エスケイワード)	東京都千代田区	1～2名	5日程度	選択科目	IT情報系企業、株式会社エスケイワード(WEB制作会社、TOKYO BRANCH東京都千代田区)の担当者と連携しながら体制を整備する。	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	1	
地球市民	国内における実習	地域共生インターン講座	鹿児島県いちき串木野市	鹿児島県いちき串木野市	3名程度	1～3ヶ月程度	選択科目	本学はこれまでいちき串木野市との連携協定に基づき、教育・文化の振興や教育研究のほか、観光やまちづくりの政策、学生のフィールドワーク等による研修・交流等の実績がある。専任教員といちき串木野市の担当者は、随時連絡を取り、情報共有と改善提案を行っている。	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	1	地方自治体やNPOでのインターンを通した実践的学習。 いちき串木野市と清泉女子大学の連携・協力に関する協定に基づき、地球市民学部学生を一定数、インターンとして受け入れる枠を提供している。
地球市民	国内における実習	フィールドワーク2	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	15名程度	10日程度	選択科目	—	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	4	専任教員が引率する国内での現地調査を中心とした体験学習(行先は年度・担当教員・履修学生により異なる) 現行の地球市民学科で実績あり。
地球市民	海外における実習	フィールドワーク1	ペナンでプロジェクトを実施する特定非営利活動法人PARCICが決定する実習施設にて実施。	マレーシア・ペナン	15名	10日程度	選択科目	ペナンでプロジェクトを実施する特定非営利活動法人PARCIC担当者が現地体験学習を連携サポート。専任教員とPARCIC担当者がプログラムについて検討を継続的に行う。	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	2	
地球市民	海外における実習	フィールドワーク3	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	15名程度	2週間程度	選択科目	—	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	4	専任教員が引率する海外での現地調査・ホームステイ・異文化交流を通した体験学習(行先は年度・担当教員・履修学生により異なる) 現行の地球市民学科で実績あり。
地球市民	海外における実習	フィールドワーク4	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	13名程度	2週間程度	選択科目	—	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	6	専任教員が引率する海外での現地調査・ホームステイ・異文化交流を通した体験学習(行先は年度・担当教員・履修学生により異なる) 現行の地球市民学科で実績あり。
地球市民	海外における実習	フィールドワーク5	特定の実習施設・受け入れ施設なし	—	15名程度	2週間程度	選択科目	—	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	4	専任教員が引率する海外での現地調査・ホームステイ・異文化交流を通した体験学習(行先は年度・担当教員・履修学生により異なる) 現行の地球市民学科で実績あり。
地球市民	海外における実習	GCSインターンシップ	JICAマラウイ事務所	マラウイ・ンコマ地区	3名程度	2ヶ月程度	選択科目	JICAと海外協力隊連携派遣の覚書に基づき、適切な学生を海外協力隊候補生として推薦し、派遣期間中の知的サポートをする。授業担当教員とJICA担当職員が情報共有をし、プログラムの改善のための検討を行う。	体験学習への参加、および事前・事後学習への参加姿勢と成果等	2	海外の社会課題に取り組む公共団体やNGO等でのインターンを通した実践学習。 国際協力機構(JICA)と清泉女子大学の覚書に基づく。

就業規則

聖心侍女修道会（Ancillae Sacratissimi Cordis Jesu）を設立母体とする学校法人清泉女子大学（以下「本法人」という。）の設置する清泉女子大学（以下「本学」という。）は、キリスト教の理念に基づく教育を行うことを建学の精神とするカトリック系女子大学である。

したがって、本学の教職員は建学の精神に則り、本学の秩序を守り、職責を全うし、教育目的の達成に努めるものとする。

第1章 総則

（目的）

第1条 この就業規則は、前文に掲げる本学の目的達成のため、本学に勤務する教職員の就業に関し、関係法令に基づいて基本的事項を定めるものである。

（教職員）

第2条 この就業規則において教職員とは、所定の手続により採用された専任の教員並びに職員とし、教員は教授、准教授、講師、助教、助手に、また職員は事務職員、技術職員、用務職員、医療職員及び専門職員に分ける。

（適用範囲）

第3条 この就業規則は、専任の教職員に適用する。

② 非常勤講師その他の専任の教職員以外の者の就業については、別に定める。

第2章 人事

第1節 任免

（任免権者）

第4条 教職員の人事に関する事項は、次に掲げる事項を除き学長がこれを行う。なお、教員の採用及び昇格人事については、教授会の審議を経るものとし、職員の人事については、所属長の意見を徴するものとする。

- 1 副学長、学長補佐及び事務局長の任免
- 2 教職員の採用並びに解職及び懲戒による解雇

第2節 採用

（選考）

第5条 教職員は、選考のうえ採用する。

② 選考要領については、別に定める。

（提出書類）

第6条 教職員として採用された者は、次の書類を提出しなければならない。

- 1 履歴書（最近の写真貼付） 1通
- 2 家族調書 1通
- 3 住民票記載事項証明書 1通
- 4 健康診断書 1通
- 5 必要な場合、最終卒業学校の卒業証明書及び学業成績証明書 各1通
- 6 誓約書 1通

② 前項の書類のうち、本学が必要としないものは省略させることがあり、また前項の書類以外のもので本学が必要とするものは、提出させることがある。

③ 前2項の書類の記載内容に変更が生じたときは、速やかに届け出なければならない。

（試採用期間）

第7条 新たに採用された職員については、原則として6か月以内の試採用期間を置く。

② 試採用期間経過後、勤務継続に支障がないと認めた場合に正式採用する。

③ 前項の試採用期間を経て正式採用されるに至ったときは、試採用の当初採用されたものとする。

第3節 休職

（休職事由）

第8条 教職員が次の各号の一に該当するときは、期間を定めて休職とする。

- 1 業務によらない疾病、負傷のため欠勤期間が引続き3か月を超えたとき。（私傷病欠勤休職）
- 2 本人の願い出を承認したとき。（本人願い出休職）

- (1) 教員の場合、専攻の研究に裨益すると認められるとき。(研究休職)
- (2) 外国人教職員が本国に一時帰省する事情が認められるとき。(外国人帰省休職)
- (3) 特別の事情により、本人の願い出が認められるとき。(その他本人願い出休職)
- 3 理事長が承認した一定の在外特別研究期間又は海外研究出張期間を超えたとき。(在外特別研究期間超休職又は海外研究出張期間超休職)
- 4 刑事事件に関し起訴されたため、就業が不適当と認められたとき。(刑事事件関連休職)
- 5 前各号のほか、特別の事情により、休職させることが適当と認めたとき。(その他の事由による休職)
- ② 前項第1号の事由により連続して欠勤した者が出勤し、再び同一又は類似の事由により欠勤した場合、その出勤が1か月に達しないときは、前後の欠勤は連続するものとみなす。
(休職期間)

第9条 前条の休職の場合の休職期間は、次による。なお、休職期間の起算日は本学が命じた日とする。

- 1 第1号の場合(私傷病欠勤休職)
 - (1) 勤続2年未満の者 2か年以内
 - (2) 勤続2年以上5年未満の者 2年3か月以内
 - (3) 勤続5年以上の者 2年9か月以内
- 2 第2号の場合(本人願い出休職) 1か年以内
- 3 第3号の場合(在外特別研究期間超休職又は海外研究出張期間超休職) 理事長が認める期間
- 4 第4号の場合(刑事事件関連休職) 事件が裁判所に係属中
- 5 第5号の場合(その他の事由による休職) 理事長が認める期間
- ② 前項第1号の場合の休職期間満了前に出勤し、再び同一又は類似の事由により欠勤した場合は、前条第2項に準じて取り扱う。
(身分)

第10条 休職中の教職員は、教職員としての身分を保有する。

(勤続年数)

第11条 休職期間は、勤続年数に加算する。

(給与)

第12条 休職期間中の給与は、教員賃金規程及び職員賃金規程の定めるところによる。

(復職)

第13条 休職中の教職員が休職事由の消滅したときは、届出により復職させる。ただし、疾病、負傷による休職者の復職は、本法人の認めた医師の診断の結果により認める。

第4節 定年

(定年)

第14条 教員は、教授満70歳、准教授、講師、助教、助手満65歳に達した学年末をもって定年退職するものとする。

- ② 職員は、満65歳に達した学年末をもって定年退職するものとする。
- ③ 第1項の定めにかかわらず、本法人又は本学が必要と認めた場合は、理事会の議決により、定年を延長することができる。なお、定年の延長については、別に定める。
- ④ 第1項及び第2項の定めにかかわらず、定年退職する年齢を自由に自ら選択した場合は、この限りでない。なお、選択定年制度については、別に定める。

第5節 退職及び解職

(退職)

第15条 教職員が次の各号の一に該当するときは、退職とする。

- 1 定年に達したとき。
- 2 休職期間満了の際、休職事由が消滅しないとき。
- 3 期間の定めある雇用の期間が満了したとき。
- 4 死亡したとき。
- 5 退職を願い出たとき。ただし、原則として教員にあっては6か月以前に、職員にあっては3か月以前に退職願を提出するものとする。なお、緊急やむを得ない事情がある場合に限り、予告期間を教員にあっては3か月、職員にあっては2か月とすることができる。

(解職)

第16条 教職員が次の各号の一に該当するときは、解職する。

- 1 この規則の前文に示される本学の教育方針を否定し、その教育目的の実現を不可能にする積極的言動があると認められるとき。
 - 2 正当な事由なく、1か月以上無断欠勤したとき。
 - 3 私事により3か月以上欠勤したとき。
 - 4 勤務成績が著しく悪く、向上の見込みなきとき。
 - 5 本法人の存続上、機構縮小、組織変更のやむなき事態に至り、それにより余剰人員を生じたとき。
 - 6 試採用期間中の者であって、正式に採用されないとき。
 - 7 心身に障害が生じ、その回復の見込みがなく、職務の遂行が不可能と認められるとき。
- ② 前項の処置を行う場合、少なくとも30日以前に予告するか、又は30日以上平均賃金を支給するものとする。

第3章 勤務

第1節 勤務時間・休憩時間・休日

(勤務時間)

第17条 職員の勤務時間は、休憩時間を除き、1週38時間20分とし、各日の勤務時間は、次のとおりとする。

曜日	始業	休憩	終業	勤務時間
月曜日～金曜日	午前9時	午前11時20分～午後0時20分	午後5時	7時間
土曜日	午前9時	午前11時20分～正午	午後1時	3時間20分

- ② 前項に定める始業及び終業の時刻並びに休憩の時刻は、業務上の都合により変更することができる。
- ③ 教員の勤務時間、及び職員にして職務の性質上前2項の定めによりがたい場合は、別に定めるところによる。

(休日)

第18条 教職員の休日は、次のとおりとする。

- 1 日曜日
 - 2 国民の祝日に関する法律に規定する国民の祝日
 - 3 特別休日
クリスマス（12月25日）
- ② 前項第2号の祝日が日曜日に当たるときは、その翌日を休日とする。

(振替休日)

第19条 業務のため、前条の休日を原則として4週間以内の他の日に振り替えることがある。休日を振り替える場合は、原則としてその1週間前までに振り替える休日を指定して職員に通知する。

(代休)

第20条 休日勤務をした場合は、本人の請求により、その翌日から4週間以内に代休を与える。ただし、請求された日が業務上支障ある場合は、他の日に変更することができる。

(時間外勤務・休日勤務)

第21条 教職員に業務の都合又は臨時の必要により、所定の始業及び終業時刻を超え（時間外勤務）又は休日に勤務させることができる。

- ② 時間外勤務又は休日勤務した場合の時間外勤務手当については、別に定める。

(勤務関係規程)

第22条 教職員の勤務については、別に定める次の諸規程による。

- 1 教員勤務規程
- 2 職員勤務規程

第2節 服務規律

(職務専念)

第23条 教職員は、その職務遂行に当たり、諸規程を守り、職場の秩序を保持し、上長の指示に従い、相互協力して職務に専念しなければならない。

② 職務専念の特例については、次条以下の定めるところによる。

(届出事項)

第24条 教職員は、次の場合には所定の手続により学長に届け出なければならない。

- 1 傷病その他やむを得ない事由により出勤しがたい場合。なお、傷病のため欠勤が引続き7日以上に及ぶときは、医師の診断書を提出しなければならない。
- 2 国外及び長期にわたる旅行をしようとする場合
- 3 選挙権その他公民としての権利を行使のため、勤務時間中に職務に専念することができない場合
- 4 証人、鑑定人、参考人及び公述人として官公署に出頭するため、勤務時間中に職務に専念することができない場合
- 5 感染症予防のため、就業を禁止された場合
- 6 災害、交通事故、交通遮断その他教職員の責に帰すことのできない事由によって出勤できない場合

(承認事項)

第25条 職員は、遅刻、早退及び勤務時間中に私用外出しようとするときは、所定の手続により上長の承認を得なければならない。

(許可事項)

第26条 教職員は、本学以外の職務を兼ねようとするときは、あらかじめ文書により許可を受けなければならない。

(禁止事項)

第27条 教職員は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 1 地位を利用し、自己の利益をはかること。
- 2 職権を濫用し、又は専断的行為をすること。
- 3 職務上知り得た秘密を他にもらすこと。
- 4 相手方の意に反した性的言動により、他の教職員又は学生に不利益を与えたり、就業環境又は就学環境を害すると判断される行為をすること。

(非常時対策)

第28条 職員並びに教員の職制に関する規程第2条第1号乃至第7号の役職者である教員は、大学又はその近隣に出火その他非常の災害が発生したときは、速やかに登校して災害対策に当たらなければならない。

第4章 休暇

第1節 年次有給休暇

(年次有給休暇)

第29条 職員は、前年度1か年を通じて出勤率8割以上の場合は、年間20日間の年次有給休暇が与えられる。ただし、新採用者の年次有給休暇は、3日間以上20日間を超えない範囲内で学長がこれを定める。

- ② 前項の休暇を受けようとする者は、書面をもってその所属上長に届け出て、その承認を受けなければならない。ただし、業務に支障のある場合には、その時期を変更させることがある。
- ③ 欠勤は、本人から申出のあった場合には、残存有給休暇の日数の限度において年次有給休暇に振り替えることができる。
- ④ 年次有給休暇は、当該休暇年度内にその全日数を受けることを本旨とするが、やむを得ない事由によりその全部又は一部を受けることができなかったときは、その年次有給休暇の残余日数は、1年に限り翌年度に繰り越すことができる。
- ⑤ 前項に定める有効期間内に取得できなかったために失効した年次有給休暇の日数については、積立有給休暇として別途積み立てることができる。

第2節 特別有給休暇

(種類・日数)

第30条 特別有給休暇は、次の各号の定めるところによる。

- 1 慶弔休暇

- (1) 慶事
 - イ 本人の結婚 10日以内
 - ロ 子女の結婚 3日以内
 - ハ 妻の出産 3日以内
 - ニ 兄弟姉妹の結婚 1日
- (2) 弔事
 - イ 父母（扶養又は同居している配偶者の父母を含む）、配偶者、子女の死亡 10日以内
 - ロ 祖父母の死亡 5日以内
 - ハ 兄弟姉妹、配偶者の父母の死亡 5日以内
 - ニ その他3親等の親族の死亡 1日
 - ホ 法要を営むとき 1日

ただし、配偶者及び1親等の親族並びに2親等の血族まで。慶弔休暇中に休日があるときは、その日は当該有給休暇に含めず計算する。
- 2 女子特別休暇
 - (1) 産前産後
 - 産前 6週間以内。
 - 多胎妊娠の場合は、14週間以内
 - 産後 8週間以内。ただし、6週間を経過して、医師の診断書を提出して就業を申し出た場合は、就業させる。
 - (2) 生理日の就業が著しく困難な場合、請求により必要日数を与える。
 - ただし、1周期につき有給は2日以内とする。
 - 女子特別休暇中に休日があるときは、その日は当該有給休暇に含めて計算する。
- 3 年末年始休暇
 - (1) 年末休暇 12月26日～12月31日
 - (2) 年始休暇 1月2日～1月6日
- 4 夏期特別勤務期間中の休暇 別に定める。
- 5 週休2日制による土曜休暇 別に定める。
- 6 公務休暇
 - (1) 選挙権その他公民としての権利を行使する場合 必要と認められる日数及び時間
 - (2) 裁判員（補充裁判員及び裁判員候補者を含む）、証人、鑑定人、参考人等の公の職務を遂行する場合 必要と認められる日数及び時間
- 7 ゴールデンウィーク休暇 4月30日～5月2日

第3節 育児休業等・介護休業等

（育児休業）

第31条 教職員のうち必要のある者は、大学に申出て育児休業をし、又は勤務時間の短縮等の措置を受けることができる。

② 育児休業、勤務時間の短縮等の取扱いについては、別に定める。

（介護休業）

第31条の2 教職員のうち必要のある者は、大学に申出て介護休業をし、又は勤務時間の短縮の措置を受けることができる。

② 介護休業、勤務時間の短縮の取扱いについては、別に定める。

第5章 賃金

（給与）（賃金）

第32条 賃金については、別に定める教員賃金規程又は職員賃金による。

（旅費）

第33条 旅費については、別に定める次の規程による。

- 1 国内旅費
 - (1) 国内出張旅費規程
 - (2) 国内研究出張規程
- 2 海外旅費
 - 海外出張旅費規程

(退職金)

第34条 退職金については、別に定める退職金支給規程による。

第6章 安全及び衛生

(安全・衛生)

第35条 教職員は、学校施設の保全、職場の整理に努め、災害予防に協力するとともに、衛生管理者の指示に従って保健、衛生に努めなければならない。

(健康診断)

第36条 教職員は、少なくとも年1回健康診断を受けなければならない。

(感染症)

第37条 教職員は、同一家屋内又は近隣に感染症が発生若しくはその疑いのあるときは、直ちにその旨を届け出なければならない。

(就業禁止)

第38条 教職員が前条の感染症又は精神疾患により、就業を不相当と認められたときは、就業してはならない。

第7章 研修及び福利厚生

第1節 研修

(研修)

第39条 教職員に、必要に応じ研修を受ける機会を与える。

- ② 教職員が職務上必要な調査研究のため国内出張する場合は、国内研究出張規程による。
- ③ 教職員が海外の学会、研修会に参加する場合は、海外出張旅費規程による。
- ④ 教職員が職務上必要な調査研究のため海外に派遣される場合は、海外出張旅費規程による。
- ⑤ 教員が特別の研究を推進するため、特別研究期間制度を置く。特別研究期間については、特別研究期間に関する規程による。
- ⑥ 特別の研究助成については、教育研究助成基金規程による。

第2節 福利厚生

(融資)

第40条 教職員が住宅、医療、災害、冠婚葬祭等のため必要を生じたときは、本人の願い出により、別に定める教職員融資規程により融資を行う。

(祝金・弔慰金)

第41条 教職員の結婚又は教職員及びその家族の死亡に対しては、祝金又は弔慰金を支給する。

(共済事業団)

第42条 教職員は、すべて日本私立学校振興・共済事業団に加入しなければならない。

第8章 災害補償

(災害補償)

第43条 教職員が業務上負傷し、又は疾病にかかったときは、労働基準法の規定に従って療養補償、休業補償、障害補償を行う。教職員が業務上負傷し、又は疾病にかかり死亡したときは、労働基準法の規定に従って遺族補償及び葬祭料を支給する。

- ② 前項により補償を受けるべき者が、同一の事由について、労働者災害補償保険法に基づいて前項の災害補償に相当する給付が行われるべき場合においては、前項の規定を適用しない。
- ③ 教職員が業務外の疾病にかかったときは、日本私立学校振興・共済事業団の規定により扶助を受けるものとする。

第9章 表彰及び懲戒

(表彰)

第44条 教職員が次の各号の一に該当するときは、選考のうえ、これを表彰する。

- 1 永年勤続したとき。
- 2 本学のため特に功績のあったとき。
- 3 学術研究に特に功績のあったとき。
- 4 災害を未然に防止し、又は災害の際、特に功労のあったとき。
- 5 その他表彰に値すると認められるとき。

(表彰方法)

第45条 表彰は、賞状、賞品、賞金若しくは奨励金の授与又は昇給その他適当と認めた措置によって

行う。
(懲戒)

第46条 教職員が次の各号の一に該当するときは、これを懲戒する。

- 1 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 2 本学の名誉を著しく毀損し、又ははなはだしく道義にもとる行為があったとき。
- 3 服務の規律に違反し、又は勤務成績が著しく不良のとき。
- 4 故意又は過失によって、本学に重大な損害を与えたとき。

(懲戒方法)

第47条 懲戒は、前条に該当する行為があったときは、次の各号により行うものとし、情状によりその1種又は2種を適用する。ただし、違反行為が軽微又は反省の念が明らかな場合等、特に情状酌量の余地があるときは、懲戒を免じて口頭による訓戒にとどめることがある。

- 1 譴責
始末書を提出させ、文書をもって戒める。
 - 2 減給
始末書を提出させ、1回の額が平均賃金の1日分の半額以内、総額が1賃金支払期における賃金の10分の1以内を減ずる。
 - 3 昇給及び昇格停止
始末書を提出させ、次期の定期昇給及び昇格を停止する。
 - 4 出勤停止
始末書を提出させ、3か月以内の期間を定めて出勤を停止し、その期間の給与を支給しない。
 - 5 降格
始末書を提出させ、俸給表における等級を1等級下位に格づける。
 - 6 降職
始末書を提出させ、役職を直近下位に格付ける。
 - 7 諭旨解雇
退職を勧告し、応じない場合は懲戒解雇する。退職金はその一部を減額することがある。
 - 8 懲戒解雇
行政官庁の認定を受けて即時解雇するか、又は行政官庁の認定を受けないで30日前に解雇予告するか、若しくは平均賃金の30日分の解雇予告手当を支払って即時解雇する。退職金は支給しない。万一支払済みの退職金がある場合には、これを返還させる。
- ② 懲戒の効力は、懲戒処分書を当該教職員に交付したときに発生する。
- ③ 第1項第4号の期間の計算は暦日計算によるものとし、起算に当たっては処分の効力発生日を算入せず、その翌日から起算するものとする。

第10章 人事委員会

(審議事項)

第48条 人事委員会は、次の事項を取り扱う。

- 1 第46条による懲戒
- 2 第16条による解職
- 3 第8条第1項第4号に係る休職

(構成・運営)

第49条 人事委員会は、理事長又はその委任を受けた者を議長とし、本法人代表及び教職員代表の同数をもって随時これを構成する。

② 人事委員会の運営及び委員の選任については、別にこれを定める。

(手続)

第50条 第48条に定めた事項を行うときは、人事委員会で審議し、学長がこれを行う。ただし、第46条による懲戒による解雇及び第16条による解職は理事会がこれを行う。なお、教員に関しては、学長が教授会に報告するものとする。

② 前項の実施に当たっては、理事会はその事由を文書に作成し、これを当該教職員に交付するものとし、当該教職員は人事委員会において弁明の機会が与えられるものとする。

第11章 教職員連絡協議会等

(就業規則の変更)

第51条 この規則並びにこの規則に別に定めるとした規程等についての変更は、教職員の過半数を代表する者の意見を徴してこれを行う。

(教職員連絡協議会)

第52条 教職員の勤務に関する事項の徹底を図り、この規則の運用を円滑にするため教職員連絡協議会を置く。

② 教職員連絡協議会の構成員の選任及び運営については、別に定める。

③ 前条のこの規則変更についての教職員代表の意見聴取は、教職員連絡協議会の教職員代表を経由して行うものとする。

附 則 1

この規則は、昭和45年4月1日より施行する。

附 則 2

この規則の改正は、昭和59年4月1日より施行する。

附 則 3

この規則の改正は、昭和60年12月1日より施行する。

附 則 4

この規則の改正は、昭和61年4月1日より施行する。

附 則 5

この規則の改正は、昭和63年4月1日より施行する。

附 則 6

この規則の改正は、平成元年4月1日より施行する。

附 則 7

この規則の改正は、平成2年4月1日より施行する。

附 則 8

この規則の改正は、平成4年4月1日より施行する。

附 則 9

この規則の改正は、平成9年4月1日より施行する。

附 則 10

この規則の改正は、平成10年4月1日より施行する。

附 則 11

この規則の改正は、平成11年4月1日より施行する。

附 則 12

この規則の改正は、平成13年4月1日より施行する。

附 則 13

この規則の改正は、平成17年4月1日より施行する。

附 則 14

この規則の改正は、平成19年4月1日より施行する。

附 則 15

この規則の改正は、平成21年4月1日より施行する。

附 則 16

この規則の改正は、平成22年8月1日より施行する。

附 則 17

この規則の改正は、平成23年4月1日より施行する。

附 則 18

この規則の改正は、平成24年4月1日より施行する。

附 則 19

この規則の改正は、平成26年4月1日より施行する。

附 則 20

この規則の改正は、平成27年4月1日より施行する。

【資料 9】

定年延長に関する内規

第1条 この内規は、就業規則の定めに基づき、定年の延長に関する事項を定める。

第2条 教員の定年は、新しい学部、学科等（大学院研究科、専攻及び課程を含む。）設置のため、当該学部、学科等が必要とする教員について、必要とする期間に限りこれを延長することができる。

第3条 定年延長に関する理事会の議決は、当該教員の定年の到来する年度内にこれを行わなければならない。

附 則 1

この内規は、平成4年4月1日より施行する。

附 則 2

この内規の改正は、平成7年5月26日より施行する。

非常勤講師に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人清泉女子大学（以下「本法人」という。）が設置する清泉女子大学（以下「本学」という。）において勤務する非常勤講師について、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において非常勤講師とは、1年以内の期間を限って雇用する本学の開講授業科目を担当する講師であって、原則として校務に携わらず常時勤務することを要しない者で、専任教職員の就業規則の適用を受けないものをいう。

(資格)

第3条 非常勤講師の資格は、教員選考基準による。

(選考)

第4条 非常勤講師の選考は、教員選考規程による。

② 選考に当たっての提出書類は、次の各号とする。

- 1 履歴書（写真貼付）
- 2 研究業績書
- 3 教育実績書（教育実績がない場合には担当予定科目のシラバス案）
- 4 その他必要と認めるもの

(雇用条件)

第5条 雇用条件は、雇入れのときに非常勤講師雇用契約書（別記様式）により本法人と非常勤講師本人が署名、捺印するものとする。

② 担当する授業科目は、当該授業科目の開講期間（通年・前期・後期・集中講義等）により、個々の非常勤講師ごとに定め、待遇その他の雇用条件とともに前項の非常勤講師雇用契約書に記載する。

③ 担当する授業科目に関わる職務には、シラバス作成、学内試験、成績評価（成績確認を含む。）その他授業に付随する業務を含むものとする。

(雇用期間)

第6条 雇用期間は、雇入れの日（雇用期間初日）から当該年度末（最初に到来する3月31日）までの1年以内とする。

(雇用契約の更新)

第7条 雇用契約の更新については、本学・各学科等（大学院研究科、専攻及び課程を含む。）における教育方針・カリキュラム、担当授業科目の開講の必要性、本学・本法人の経営・要員の状況、本人の科目担当能力、勤務態度、健康状態等に鑑み、都度本学において判断するものとし、契約更新する場合は新たに期間を1年以内とする雇用契約を締結する。

② 前項に基づき雇用契約を更新する場合であっても、前項に掲げた諸事情により、非常勤講師の担当授業科目、担当授業時間（コマ）数、開講期間、開講曜日・時間等を変更することがある。

(雇用の期限・契約の解約等)

第8条 雇用契約は、非常勤講師雇用契約書に記載の雇用期間満了によって当然に終了する。

② 非常勤講師の雇用の期限は、前条の定めにより反復更新した場合であっても、満70才に達した日の当該年度末日までを上限とする。ただし、新しい学部、学科等設置のため、当該学部、学科等が必要とする教員については、この限りでない。

③ 非常勤講師は、その雇用期間内であっても自己の都合により退職を願い出て、学長の承認を得た場合は退職することができる。

④ 本法人は、以下の各号の一に該当する場合は、雇用期間内であっても雇用契約を解約するこ

とができる。

- 1 勤務状況又は勤務態度が著しく悪く、改善の見込みがないとき、又は健康上の理由で非常勤講師としての職務を果たすことができないと認められる場合
 - 2 本学の教育方針、担当する授業科目を運営する学科等のカリキュラム計画及び学科等が求める授業内容に合致する授業ができない場合
 - 3 第12条に定める科目不成立により担当する授業科目がなくなった場合
 - 4 担当する授業科目を専任教員が担当することになった場合
 - 5 本学のカリキュラム又は開講科目・クラス数の変更、改正等により、担当する授業科目が廃止される場合
 - 6 経営状況の悪化等により、やむを得ず非常勤講師の減員が必要になった場合
 - 7 ハラスメント等の規律違反に当たる行為等が認められる場合
 - 8 その他前各号に準ずるやむを得ない事情がある場合
- ⑤ 前項による契約の解約については、労働基準法第20条の定めにより解雇（予告）の意思表示を行うものとする。ただし、前項第3号の場合は履修登録確定日の翌日をもって当然に解約の効力が生じるものとする。

（無期雇用契約への転換）

第9条 雇用契約が更新されて通算雇用期間が5年を超える非常勤講師は、本人の申込みにより、現に雇用されている雇用契約満了日の翌日から、期間の定めのない雇用契約（無期雇用契約）に転換することができるものとする。

- ② 前項に定める5年の通算雇用期間は、平成25年4月1日以降に開始した有期雇用契約の雇用期間の初日から通算するものとする。ただし、雇用契約が締結されていない期間（空白期間）が6か月以上（空白期間前に満了した有期雇用契約の雇用期間（2つ以上の雇用期間が継続している場合は通算雇用期間）が1年未満の場合は、空白期間前に満了した有期雇用契約の雇用期間の1/2（1か月未満の端数は1か月に切上げ）以上）ある場合は、その空白期間前に満了した有期雇用契約の雇用期間は通算雇用期間に算入しないものとする。
- ③ 無期雇用契約への転換申込みは、本学所定用紙により、原則として現に雇用されている雇用契約満了日の30日前までに行うものとする。
- ④ 無期雇用契約に転換した非常勤講師については、無期雇用契約転換後も毎年度の雇用内容の確認のため、第5条に定める雇用条件を記載した非常勤講師雇用契約書を締結するものとする。
- ⑤ 無期雇用契約に転換した非常勤講師については、満70歳に達した日の当該年度末日をもって定年退職とする。
- ⑥ 無期雇用契約に転換した非常勤講師の待遇その他の雇用条件については、原則として無期雇用契約に転換する直前の雇用契約と同一とする。ただし、本学は本学・各学科等における教育方針・カリキュラム、担当授業科目の開講の必要性、本学・本法人の経営・要員の状況、本人の科目担当能力、勤務態度、健康状態等に鑑み、無期雇用契約に転換した非常勤講師の担当授業科目、担当授業時間（コマ）数、開講期間、開講曜日・時間等を変更することができるものとし、当該変更にあわせて待遇その他の雇用条件も変更されるものとする。
- ⑦ 無期雇用契約に転換した非常勤講師については、第6条、第7条並びに第8条第1項乃至第3項を除き、無期雇用契約転換後も本規程を適用する。ただし、第8条第4項第3号の場合は、当該規定の適用はせず、当該年度における担当授業科目は開講中止とするが、雇用契約は継続するものとする。また、無期雇用契約に転換した非常勤講師については、学長に対し30日前に願い出ることによって、自己の都合により退職することができるものとする。

（出講・補講）

第10条 非常勤講師が担当する授業科目に出講した際は、所定の手続により学務課において出講を確認するものとする。

- ② 非常勤講師が担当する授業科目を休講した場合は、当該授業科目の開講期間内（前期又は後

期)に補講又はレポート・課題の提出等それに代わるものを行わなければならない。

(待遇)

第11条 非常勤講師の給与及び交通費等については、学長が定める。

1 給与

授業時間(コマ)当たりの月額給与単価を定め、担当授業時間(コマ)数に応じて、通年開講科目は4月から翌年3月までの12か月、前期開講科目は4月から9月までの6か月、後期開講科目は10月から翌年3月までの6か月、毎月支給する。なお、授業時間(コマ)当たりの月額給与単価については、各月の授業、及び授業に付随する業務(シラバス作成、学内試験、成績評価・成績確認等を含む)に対する対価として定められるものとする。集中講義科目については、別に定める。

2 交通費

本学までの最短経路の実費を支給する。なお、支給限度額を設ける。

3 諸手当

その他諸手当を支給することがある。

4 賞与及び退職金

支給しない。

② 給与及び交通費は、非常勤講師本人の指定する銀行口座に振り込む方法により毎月25日(金融機関が休日の場合は前日)に支給する。

(担当科目不成立の場合の取扱い)

第12条 非常勤講師の担当科目不成立の場合の要件に関しては、次の各号のとおりとする。

1 文学部の授業科目

履修登録をする学生数が2名以下の場合、その科目は不成立とする。ただし、必修科目、卒業要件科目及び資格取得要件科目については、履修登録をする学生がいらない場合に不成立とする。

2 大学院の授業科目

履修登録をする学生がいらない場合、その科目は不成立とする。

② 前項の科目不成立の場合、当該科目に係る給与は2か月分を支給する。

(出張)

第13条 非常勤講師が国内又は海外出張を命ぜられた場合は、国内出張旅費規程又は海外出張旅費規程により、旅費を支給する。

(賞罰)

第14条 非常勤講師の表彰及び懲戒については、専任教職員の就業規則を準用する。

附 則 1

この規程は、平成8年4月1日より施行する。

附 則 2

この規程の改正は、平成9年4月1日より施行する。

附 則 3

① この規程の改正は、平成29年4月1日より施行する。

② この規程の改正施行により、非常勤講師の担当科目不成立の場合の取扱いに関する内規は廃止する。

附 則 4

① この規程の改正は、令和2年4月1日より施行する。

② この規程の改正施行により、教員の任期に関する規程は廃止する。

附 則 5

この規程の改正は、令和4年4月1日より施行する。

附 則 6

この規程の改正は、令和6年4月1日より施行する。

非常勤講師雇用契約書

学校法人清泉女子大学（以下「甲」という。）と_____（以下「乙」という。）は、次のとおり非常勤講師としての雇用契約（以下「本契約」という。）を締結する。なお、乙は甲の設置する清泉女子大学（以下「丙」という。）が定める学則（学生要覧に記されている諸規程、出講・休講等に関する大学の方針などを含む。）及び非常勤講師に関する規程に従って勤務する。

甲（雇 用 者）： 学校法人清泉女子大学 理事長

乙（被雇用者）： _____

第1条 甲は、乙を丙が開講する授業科目担当の非常勤講師として雇用する。雇用期間は、令和 年 月 日から令和 年 月 日までとする。

（無期転換に関する事項：本契約書第4条参照）

- ② 乙の非常勤講師としての担当授業科目は、別途交付した「_____（令和 ）年度担当科目表」（以下「担当科目表」という。）記載のとおりとする。（変更の範囲：担当授業科目）
- ③ 乙は、「担当科目表」記載の担当授業科目に関して授業を行うほか、シラバス作成、学内試験、成績評価（成績確認を含む。）その他授業に付随する業務に従事する。従事にあたっては、本学が指定する学習システム等を使用するものとする。（変更の範囲：授業及び授業に付随する業務）
- ④ 乙の就業場所は丙（東京都品川区東五反田3-16-21）とし、授業の実施方法は甲の方針により対面による授業とするが、甲が依頼又は許可した場合は、対面によらない遠隔授業とすることができる。（変更の範囲：本項（左記）に定める範囲内）
- ⑤ 所定労働日・所定休日、担当授業科目の授業時刻（始業・終業時刻）及び休憩に関しては、別途交付した「担当科目表」及び時間割表記載のとおりとする。

第2条 本契約は、前条に定める雇用期間満了によって当然に終了するものとする。

- ② 本契約の更新については、丙・丙の各学科等（大学院研究科、専攻及び課程を含む。）における教育方針・カリキュラム、担当授業科目の開講の必要性、甲及び丙の経営・要員の状況、乙の科目担当能力、勤務態度、健康状態等に鑑み、都度甲において判断するものとし、契約更新する場合は甲・乙間において新たに期間を1年以内とする雇用契約を締結する。ただし、本契約を更新する場合であっても、上述の諸事情により、更新後における乙の担当授業科目、担当授業時間（コマ）数、開講期間、開講曜日・時間等については改めて甲において決定のうえ新たな「担当科目表」により指定するものとし、当該指定にあわせて待遇その他の雇用条件も変更されるものとする。
- ③ 乙の雇用の期限は、前項の定めにより反復更新した場合であっても、乙が満70歳に達した日の当該年度末日までを上限とする。

第3条 乙は、雇用期間内であっても自己の都合により退職を願い出て、丙学長の承認を得た場合は退職することができる。

- ② 甲は、非常勤講師に関する規程第8条第4項各号（第3号を除く）の一に該当する場合は、雇用期間内であっても本契約を解約することができる。解約の手続については非常勤講師に関する規程第8条第5項本文の定めるところによる。

第4条 乙について平成25年4月1日以降に開始した有期雇用契約の雇用期間の初日から起算した通算雇用期間が5年を超えた場合、労働契約法第18条の定めに基づき、乙が甲に対し申し込むことで期間の定めのない雇用契約（無期雇用契約）に転換することができるものとする。無期雇用契約への転換に関する詳細は非常勤講師に関する規程第9条の定めるところによる。

第5条 乙の給与は、月額_____円（税込）を乙の指定する銀行口座に振込む方法により毎月25日（金融機関が休日の場合は前日）に支給する。上記月額給与については、担当授業科目に関する各月の授業、及び第1条第2項所定の授業に付随する業務の対価として支払うものとする。なお、雇用

期間中の昇給は行わない。

- ② 乙の交通費は、丙までの最短経路の実費を支給する。なお、月額 55,000 円を支給限度とする。
- ③ 乙が卒業論文指導を行う場合には、別途卒論指導手当を支給する。
- ④ 乙が国内出張又は海外出張を命ぜられた場合には、丙の国内出張旅費規程又は海外出張旅費規程により、旅費を支給する。
- ⑤ 乙に対する賞与・退職金の支給は行わない。

第6条 前条までの規定にかかわらず、丙の文学部の科目について履修登録をする学生数が2名以下の場合、その科目は不成立（開講中止）とする。ただし、必修科目、卒業要件科目及び資格取得要件科目については、履修登録をする学生がいらない場合に不成立（開講中止）とする。大学院の科目については、履修登録をする学生がいらない場合、その科目は不成立（開講中止）とする。

- ② 前項の科目不成立（開講中止）の場合、当該科目に係る給与は2か月分を支給する。なお、科目不成立（開講中止）により担当する科目がなくなった場合は、本契約は当然に終了する。

第7条 乙に対する表彰及び懲戒については、非常勤講師に関する規程第14条の定めによる。

第8条 雇用管理の改善等に関する事項に係る相談窓口は以下のとおりとする。

部署名：事務局人事課 担当者職名：人事課長 （連絡先：03(3447)5551 内線 210)

第9条 本契約に関する訴訟については、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属管轄裁判所とする。

本書は2通を作成し、甲及び乙が署名（記名）と捺印の上、各1通を保持する。

令和（ ）年 月 日

甲（雇 用 者）： 学校法人清泉女子大学 理事長

⑨

乙（被雇用者）：

⑨

非常勤講師雇用契約書（無期転換・令和（ ）年度）

学校法人清泉女子大学（以下「甲」という。）と_____（以下「乙」という。）は、甲・乙間の非常勤講師としての期間の定めのない雇用契約（無期雇用契約への転換日：平成／令和（ ）年（ ）月（ ）日）における令和（ ）年度の契約内容を確認するため、本契約を締結する。なお、乙は甲の設置する清泉女子大学（以下「丙」という。）が定める学則（学生要覧に記されている諸規程、出講・休講等に関する大学の方針などを含む。）及び非常勤講師に関する規程に従って勤務する。

甲（雇 用 者）： 学校法人清泉女子大学 理事長

乙（被雇用者）： _____

第1条 乙の令和（ ）年度における非常勤講師としての担当授業科目は、別途交付した「（令和（ ）年度担当科目表」（以下「担当科目表」という。）記載のとおりとする。（変更の範囲：担当授業科目）

- ② 乙は、「担当科目表」記載の担当授業科目に関して授業を行うほか、シラバス作成、学内試験、成績評価（成績確認を含む。）その他授業に付随する業務に従事する。従事にあたっては、本学が指定する学習システム等を使用するものとする。（変更の範囲：授業及び授業に付随する業務）
- ③ 乙の就業場所は丙（東京都品川区東五反田3-16-21）とし、授業の実施方法は甲の方針により対面による授業とするが、甲が依頼又は許可した場合は、対面によらない遠隔授業とすることができる。（変更の範囲：本項（左記）に定める範囲内）
- ④ 令和（ ）年度における所定労働日・所定休日、担当授業科目の授業時刻（始業・終業時刻）及び休憩に関しては、別途交付した「担当科目表」及び時間割表記載のとおりとする。
- ⑤ 次年度以降の乙の担当授業科目、担当授業時間（コマ）数、開講期間、開講曜日・時間等については、丙・丙の各学科等（大学院研究科、専攻及び課程を含む。）における教育方針・カリキュラム、担当授業科目の開講の必要性、甲及び丙の経営・要員の状況、乙の科目担当能力、勤務態度、健康状態等に鑑み、都度甲において決定のうえ新たな「担当科目表」により指定するものとし、当該指定にあわせて待遇その他の雇用条件も変更されるものとする。

第2条 乙は、丙学長に対し30日前に願い出ることによって、自己の都合により退職することができるものとする。

- ② 甲は、非常勤講師に関する規程第8条第4項各号（第3号を除く。）の一に該当する場合は本契約を解約することができる。解約の手続については非常勤講師に関する規程第8条第5項本文の定めるところによる。

- ③ 乙の定年は満70歳に達した日の属する年度末日とし、同日をもって本契約は終了とする。

第3条 乙の令和（ ）年度における給与は、月額_____円（税込）を乙の指定する銀行口座に振込む方法により毎月25日（金融機関が休日の場合は前日）に支給する。上記月額給与については、担当授業科目に関する各月の授業、及び第1条第2項所定の授業に付随する業務の対価として支払うものとする。なお、次年度以降における給与については本契約書第1条第5項の定めに従うほか、授業時間（コマ）あたりの月額給与単価について昇給することがある。

- ② 乙の交通費は、丙までの最短経路の実費を支給する。なお、月額55,000円を支給限度とする。
- ③ 乙が卒業論文指導を行う場合には、別途卒論指導手当を支給する。
- ④ 乙が国内出張又は海外出張を命ぜられた場合には、丙の国内出張旅費規程又は海外出張旅費規程により、旅費を支給する。
- ⑤ 乙に対する賞与・退職金の支給は行わない。

第4条 前条までの規定にかかわらず、丙の文学部の科目について履修登録をする学生数が2名以下の場合、その科目は不成立（開講中止）とする。ただし、必修科目、卒業要件科目及び資格取得要件科目については、履修登録をする学生がいない場合に不成立（開講中止）とする。大学院の科目については、履修登録をする学生がいない場合、その科目は不成立（開講中止）とする。

② 前項の科目不成立（開講中止）の場合、当該科目に係る給与は2か月分を支給する。

第5条 乙に対する表彰及び懲戒については、非常勤講師に関する規程第14条の定めによる。

第6条 雇用管理の改善等に関する事項に係る相談窓口は以下のとおりとする。

部署名：事務局人事課 担当者職名：人事課長 （連絡先：03(3447)5551 内線 210)

第7条 本契約に関する訴訟については、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属管轄裁判所とする。

本書は2通を作成し、甲及び乙が署名（記名）と捺印の上、各1通を保持する。

令和（ ）年 月 日

甲（雇 用 者）： 学校法人清泉女子大学 理事長 ⑩

乙（被雇用者）： _____ ⑩

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:45	2 10:55-12:40	3 13:40-15:25	4 15:35-17:20	5 17:30-19:15
020	21	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (1) (Edwards)	Global Citizen and Law(岡田)	演習22a (文化史) (坂田)		
		後期			演習22b (文化史) (坂田)		
021	20	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (2) (杉田)	Global Citizen and Religion(Brandao)	演習14a (文化史) (中野渡)	研究法演習a(中野渡)	
		後期			演習14b (文化史) (中野渡)	研究法演習b(中野渡)	
022	16	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (3) (Ford)		English Skills Workshop (Extensive Reading) a(新井)		
		後期			English Skills Workshop (Extensive Reading) b(新井)		
023	21	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (4) (大井(洋))	演習15a (文化史) (福留)	留学準備IELTS対策講座 a(山下)	演習17a (文化史) (石野)	
		後期		演習15b (文化史) (福留)	留学準備IELTS対策講座 b(山下)	演習17b (文化史) (石野)	
120	34	前期	FYE: English for Global Citizens 1a (1) (Edwards)		国語科教育法III(喜岡)		
		後期		FYE: English for Global Citizens 1b (1) (Edwards)	国語科教育法IV(喜岡)		
121	34	前期	英語科教育法III(高田)	スペイン語Ⅴ (総合) (1) (Burgos)	スペイン語Ⅴ (総合) (2) (Roberto)	研究法演習a(田和)	
		後期	英語科教育法IV(高田)	スペイン語Ⅵ (総合) (1) (Burgos)	スペイン語Ⅵ (総合) (2) (Villoria)	研究法演習b(田和)	
122	34	前期		FYE: English for Global Citizens 1a (2) (Falkus)		学習科学(福田)	
		後期		FYE: English for Global Citizens 1b (2) (Falkus)			
123	14	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (5) (角田)		日本語学特殊研究1a(田和)		
		後期			日本語学特殊研究1b(田和)		
124	14	前期	SYE: English for Global Citizens 2 (6) (壽田)		応用言語学特殊研究II/第二言語教育特殊研究1-1a(阿川)	第二言語教育演習1a(阿川)	
		後期			応用言語学特殊研究II/第二言語教育特殊研究1-1b(阿川)	第二言語教育演習1b(阿川)	
125	16	前期					
		後期			留学準備TOEFL S&W対策講座(Edwards)		
130	34	前期		FYE: English for Global Citizens 1a (3) (Ford)	ドイツ語入門(佐藤(修))		
		後期		FYE: English for Global Citizens 1b (3) (Ford)	ドイツ語初級(佐藤(修))		
131	81	前期	スペイン語Ⅲ (会話) (1) (Castillo)	スペイン語Ⅲ (会話) (2) (Fiszelew)			
		後期	スペイン語Ⅳ (会話) (1) (Castillo)	スペイン語Ⅳ (会話) (2) (Fiszelew)		教育方法論 (ICT活用を含む)(新居)	
132	52	前期		東洋史特論1(石野)	対照言語学3 (日中) (王) (隔年)	日本語教授法論1(松本(隆))	グローバル・スタディーズ2(稲田)
		後期		東洋史特論2(石野)	対照言語学4 (日韓) (西村) (隔年)	日本語教授法論2(松本(隆))	キリスト教思想特殊研究1b(坂田)
133	52	前期	日本古代史特論(中野渡)	日本近世史特論(福留)	朝鮮・韓国語入門 (1) (全)	朝鮮・韓国語入門 (2) (全)	
		後期	日本中世史特論(阿部)	日本近現代史特論(野田)	朝鮮・韓国語入門 (3) (全)	朝鮮・韓国語初級(全)	
134	38	前期	古文書学1(遠藤(珠))		中国語入門 (2) (何)	中国語入門 (1) (王)	コミュニケーション・スキルズⅠa (2) (Bayne)
		後期	古文書学2(遠藤(珠))		中国語初級(何)	中国語入門 (3) (綾部)	コミュニケーション・スキルズⅠb (2) (Bayne)
135	33	前期		宗教学特論(井上(ま))			
		後期	キリスト教の源流(竹田)	宗教史特論(井上(ま))	Global Citizen and Culture(岡田)		
136	39	前期		FYE: English for Global Citizens 1a (4) (Kischuck)		TOEIC対策講座Intermediate a (1) (葛)	
		後期	スペイン語史(木村)	FYE: English for Global Citizens 1b (4) (Kischuck)		TOEIC対策講座Intermediate b (1) (葛)	
140	174	前期			ソーシャルデザイン概論(安斎・安藤・兼清・山本(達))	心身の医学(墨岡)	
		後期	グローバルヒストリー(桃井)				
141	34	前期					
		後期				TOEIC対策講座Pre-intermediate b (4) (杉田)	TOEIC対策講座Intermediate b (4) (Ford)
142	41	前期	日本美術史特論1(水野)	FYE: English for Global Citizens 1a (5) (新井)	日本美術史の世界(佐々木(守))		
		後期		FYE: English for Global Citizens 1b (5) (新井)	日本美術史特論2(佐々木(守))		
143	64	前期	西洋史特論1(井上(秀))	西洋美術史特論1(木川)	TOEIC対策講座Pre-intermediate a (3) (Falkus)	TOEIC対策講座Intermediate a (2) (山下)	TOEIC対策講座Intermediate a (3) (杉田)
		後期	西洋史特論2(大西)	西洋美術史特論2(貫井)	TOEIC対策講座Pre-intermediate b (3) (Falkus)	TOEIC対策講座Intermediate b (2) (Falkus)	TOEIC対策講座Intermediate b (3) (杉田)
化学	54	前期					
		後期					
145	40	前期		FYE: English for Global Citizens 1a (6) (杉田)		スペイン文学史(竹村)	
		後期	教育と法律(井上(健))	FYE: English for Global Citizens 1b (6) (杉田)		ラテンアメリカ文学史(竹村)	
210	39	前期		FYE: Basic English GC 1a(西野)	プレゼンテーションa (1) (Brandao)	プレゼンテーションa (2) (Gould)	
		後期		FYE: Basic English GC 1b(西野)	プレゼンテーションb (1) (Brandao)	プレゼンテーションb (2) (Gould)	
211	39	前期	西洋キリスト教史1(猪刈)			研究法演習a(今野)	
		後期	西洋キリスト教史2(猪刈)			研究法演習b(今野)	
220	39	前期	人間とは何かについての哲学特論(金澤)		イタリア語入門(Bucci)	コミュニケーション・スキルズⅠa (1) (Kischuck)	
		後期	どう生きるかについての哲学特論(金澤)		イタリア語初級(Bucci)	コミュニケーション・スキルズⅠb (1) (Kischuck)	
221	39	前期			フランス語入門(谷口)		
		後期			フランス語初級(山邑)		
222	64	前期					
		後期					教職入門 (1) (吉岡・本城・新居)
223	16	前期				Global Citizen and Peace(Edwards)	
		後期				Global Citizen and Human Resource(Edwards)	Global Citizen and Technology(Falkus)
224	16	前期		日本語上級読解a(古賀)	日本語上級総合a(古賀)		日本美術史学特殊研究a(佐々木(守))
		後期		日本語上級読解b(古賀)	日本語上級総合b(古賀)		日本美術史学特殊研究b(佐々木(守))
225	78	前期	怪異学1(佐伯)	ファンタジー学2(那須田)			
		後期	怪異学2(木川・佐々木(守))	ファンタジー学1(笹田)			教職入門 (2) (吉岡・本城・新居)
226	78	前期				日本宗教史1(井上(智))	
		後期	日本古典文学の世界2(金田)	日本古典文学の世界3(佐伯)	日本近代文学の世界1(鈴木(啓))	日本宗教史2(井上(智))	
230	50	前期	スペイン語Ⅲ (作文) (1) (Burgos)		スペイン語Ⅲ (作文) (2) (Fiszelew)		
		後期	スペイン語Ⅳ (読解演習) (1) (松本(有))		スペイン語Ⅳ (読解演習) (2) (長野)		
231	90	前期			日本キリスト教史1(米谷)		道德教育の理論と方法(吉岡)
		後期			日本キリスト教史2(米谷)		
232	34	前期	近現代美術史特論(向後)	東洋美術史特論(袋井)	歴史ミュージカルの世界(大井(知))	神話と伝承(平藤)	
		後期	東洋思想史(大場)	歴史ミュージカル特論(大井(知))			
240	309	前期			音楽(近藤)	キリスト教学Ⅰ (1) (竹田)	
		後期			キリスト教と音楽(近藤)	キリスト教学Ⅱ (1) (竹田)	
241	35	前期	工芸史(砂澤)	文化史学発展研究2(関(智))	キリスト教の展開(村上(寛))	女性史(五味)	
		後期	聖書学特論(坂田)				
410	73	前期			イスラームの歴史と文化(加藤(瑞))		
		後期		暮らしの経済学(吉田)	文理融合特論(福田・田和)		
411	20	前期		日本文化史学研究Ⅰ(中野渡)	TOEIC対策講座Pre-intermediate a (1) (杉田)		TOEIC対策講座Pre-intermediate a (2) (葛)
		後期		日本文化史学研究Ⅰ(中野渡)	TOEIC対策講座Pre-intermediate b (1) (Ford)		TOEIC対策講座Pre-intermediate b (2) (葛)
412	40	前期	情報環境の構築(1) (2) (福田)	情報環境の構築(3) (福田)	日本近代文学演習Ⅰa(鈴木(直子))		
		後期	データリテラシー基礎(1) (2) (福田)	データリテラシー基礎(3) (福田)	日本近代文学演習Ⅰb(鈴木(直子))		
421	56	前期	美学(坂田)	情報環境の構築(4) (桑田)			
		後期	仏教史(矢野)	データリテラシー基礎(4) (桑田)			
423	30	前期		日本語学研究Ⅱ(田和)	英語通訳演習(関(貴))		基礎演習14a (文化史) (中野渡)
		後期		日本語学研究Ⅱ(田和)			基礎演習14b (文化史) (中野渡)
個人	0	前期		キリスト教思想演習Ⅰa(坂田)	日本語学演習a(今野)	日本文学研究Ⅴ(鈴木(直子))	
		後期		キリスト教思想演習Ⅰb(坂田)	日本語学演習b(今野)	日本文学研究Ⅴ(鈴木(直子))	
閲覧	12	前期					
		後期				情報処理特殊研究(福田)	
講堂	0	前期			プレゼンテーションa (3) (Horne)		
		後期			プレゼンテーションb (3) (Horne)		
Bumb	0	前期					
		後期					
エス	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:10-14:40	4 14:50-16:20	5 16:30-18:00
020	21	前期				研究法演習a(木川)	研究法演習a(齋藤)
		後期				研究法演習b(木川)	研究法演習b(齋藤)
021	20	前期		演習2a(日本文化)(姫野)		研究法演習a(鈴木卓)	
		後期		演習2b(日本文化)(姫野)		研究法演習b(鈴木卓)	
022	16	前期				演習16a(文化史)(佐々木)	研究法演習a(大井(知))
		後期				演習16b(文化史)(佐々木)	研究法演習b(大井(知))
023	21	前期				Gramática y lectura I-2(Romero)	研究法演習a(石野)
		後期				Gramática y lectura II-2(Sanchez)	研究法演習b(石野)
120	34	前期	アート・デザイン演習(小山)	平和学(桃井)			社会科・地歴科教育法I(鈴木(雄))
		後期	アート・デザイン論(小山)		スペイン語の世界(5)(Burgos)	スペイン語の世界(6)(Villoria)	社会科・地歴科教育法II(鈴木(雄))
121	34	前期		現代社会とボランティア(二宮)		研究法演習a(鈴木(直子))	
		後期				研究法演習b(鈴木(直子))	
122	34	前期	ワークショップ・デザイン論(内藤)			演習11a(国際文化・西)(齋藤)	
		後期		日本近代文学の世界2(藤枝)	日本近代文学の世界3(権田)	演習11b(国際文化・西)(齋藤)	
123	14	前期			グローバル・スタディーズ4(杉浦)		
		後期					
124	14	前期	宗教科教育法I(小林(由))	宗教科教育法III(小林(由))			
		後期	宗教科教育法II(小林(由))	宗教科教育法IV(小林(由))			
125	16	前期			Comunicación oral III-1(Moyano)	Comunicación oral III-2(Alvares)	
		後期			グローバル・スタディーズ3(豊川)		
130	34	前期	リーダーシップ・組織論(村上(祐))	国語科教育法I(若杉)			
		後期		国語科教育法II(若杉)		漢文学の世界(黒川)	
131	81	前期	ユニバーサル・コミュニケーション論(中津)		パフォーマンスa(3)(Heagney)		
		後期	ユニバーサル・コミュニケーション演習(安東)	哲学概論(小須田)	パフォーマンスb(3)(Heagney)		
132	52	前期	パフォーミング・アーツa(英語)(Bayne)	基礎演習16a(文化史)(佐々木(守))	日本語データ分析入門(小林(正))	児童文学の世界(笹田)	
		後期	パフォーミング・アーツb(英語)(Bayne)	基礎演習16b(文化史)(佐々木(守))	日本語データ分析入門(小林(正))		
133	52	前期	暮らしの科学(栄養学)(新出)	グローバル・スタディーズ5(林)			英語アカデミック・ベーシックスa(1)(Ford)
		後期					英語アカデミック・ベーシックスb(1)(Ford)
134	38	前期	コーチング論(渋谷(聡))	現代の日本政治(松井)			
		後期		現代の国際政治(小島)	データサイエンス(山本(達))		
135	33	前期					英語アカデミック・ベーシックスa(2)(Schnickel)
		後期					英語アカデミック・ベーシックスb(2)(Schnickel)
136	39	前期			パフォーマンスa(2)(川端)		
		後期		スペイン語IV(文法)(木村)	パフォーマンスb(2)(川端)		
140	174	前期		暮らしの法律(川上)		プロジェクト入門1(辰巳)	漢字文化論(今野)
		後期	健康・安全管理(1)(藤本・津久井)			プロジェクト入門2(辰巳)	美術史概論(木川・佐々木(守))
141	34	前期					英語アカデミック・ベーシックスa(3)(Stevens)
		後期					英語アカデミック・ベーシックスb(3)(Stevens)
142	41	前期		異文化コミュニケーション1(Bayne)	英語音声学の世界(宇佐美)		
		後期		異文化コミュニケーション2(Moyano)			
143	64	前期	Gramática y lectura III-1(Trenado)	Gramática y lectura III-2(Sanchez)	初級くずし字ワークショップ(多賀糸)		
		後期		聖書学概論(坂田)	初級くずし字ワークショップ(多賀糸)		日本文学読解トレーニング(藤井・鈴木(直子))
化学	54	前期			暮らしの科学(病気の予防)(細川)		
		後期			暮らしの科学(健康増進)(細川)		
145	40	前期	演習4a(日本文化)(今野)	演習6a(国際文化・英)(Sasaki)		現代の日本語(今野)	
		後期	演習4b(日本文化)(今野)	演習6b(国際文化・英)(Sasaki)	スペイン語の世界(1)(Sanchez)	スペイン語の世界(2)(Caldelo)	
210	39	前期	地球市民としての思考と表現1(1)(鈴木(直喜))	地球市民としての思考と表現1(1)(鈴木(直喜))	基礎演習4a(日本文化)(今野)		
		後期	地球市民としての思考と表現2(1)(西村)	地球市民としての思考と表現2(1)(西村)	基礎演習4b(日本文化)(今野)		
211	39	前期	地球市民としての思考と表現1(2)(吉岡)	地球市民としての思考と表現1(2)(吉岡)		英語翻訳演習1a(Sasaki)	
		後期	地球市民としての思考と表現2(2)(新居)	地球市民としての思考と表現2(2)(新居)	日本近代文学と社会(尾崎)	英語翻訳演習1b(sasaki)	
220	39	前期	地球市民としての思考と表現1(3)(兼清)	地球市民としての思考と表現1(3)(兼清)	Gramática y lectura I-1(Trenado)	基礎演習17a(文化史)(石野)	学校経営と学校図書館(新居)
		後期	地球市民としての思考と表現2(3)(安斎)	地球市民としての思考と表現2(3)(安斎)	Gramática y lectura II-1(Trenado)	基礎演習17b(文化史)(石野)	
221	39	前期		日本語教授法演習1(1)(田坂)	パフォーマンスa(1)(Kischuck)		キリスト教思想特殊研究IIa(竹田)
		後期		日本語教授法演習2(1)(田坂)	パフォーマンスb(1)(Kischuck)		Global Citizen and Development(Falkus)
222	64	前期	日本近代文学概論1(鈴木(啓))				
		後期	日本近代文学概論2(鈴木(直子))	宗教学概論(井上(ま))			
223	16	前期	言語文化総合演習II(田和・鈴木(卓)・齋藤)	英語翻訳演習2a(三辺)			
		後期		英語翻訳演習2b(三辺)			
224	16	前期			学習指導と学校図書館(中村)		
		後期			読書と豊かな人間性(中村)		
225	78	前期	社会課題解決のためのメディア1(中田(一))	日本語学概論1(今野・小野)	演習7a(国際文化・英)(笹田)		書道1(加藤(泰))
		後期	社会課題解決のためのメディア2(重松)	日本語学概論2(田和)	演習7b(国際文化・英)(笹田)	英語学の世界(鈴木(卓))	書道2(加藤(泰))
226	78	前期	社会課題解決のためのビジネス1(花畑)			教育学概論(新居)	
		後期	社会課題解決のためのビジネス2(鈴木(祥))	民俗学(余)	東洋美術史の世界(濱田(瑞))	教育制度論(本城)	
230	50	前期					教育課程論(新居)
		後期			日本語音声学(田川)		
231	90	前期	映像表現法(三好)	演習10a(国際文化・西)(駒井)	日本古典文学概論1(藤井)		特別活動の理論と方法(本城)
		後期	映像表現演習(杉本(哲))	演習10b(国際文化・西)(駒井)	日本古典文学概論2(姫野・佐伯)		
232	34	前期		演習9a(国際文化・英)(鈴木(卓))	スペイン語I→1(文法)(齋藤)	基礎演習10a(国際文化・西)(駒井)	
		後期		演習9b(国際文化・英)(鈴木(卓))	スペイン語II-1(文法)(齋藤)	基礎演習10b(国際文化・西)(駒井)	
240	309	前期	情報社会の安全と倫理(1)(2)(福田)	情報社会の安全と倫理(3)(福田)	文化史学序説(石野・井上(ま)・大井(知)・木川・坂田・佐々木(守)・中野渡・福留・桃井)	キリスト教学I(2)坂田	
		後期	健康・安全管理(2)(藤本・津久井)	史学概論(石野・中野渡・福留・桃井)	キリスト教のことば(稲葉)	キリスト教学II(2)坂田	プロジェクト・プレゼンテーション(兼清)
241	35	前期				スペイン語I→2(文法)(木村)	
		後期			情報メディアの活用(新居)	スペイン語II→2(文法)(木村)	
410	73	前期					
		後期		西洋美術史の世界(木川)			
411	20	前期			研究法演習a(Sasaki)		
		後期		西洋文化史学特殊研究IIb(大井(知))	研究法演習b(Sasaki)		
412	40	前期				ロシア語入門(井上(ま))	第二言語教育演習IIIa(Trenado)
		後期	情報スキル1(沢田)	情報スキル3(安藤)		ロシア語初級(井上(ま))	第二言語教育演習IIIb(Trenado)
421	56	前期					
		後期			スペイン語の世界(3)(Fiszelew)	スペイン語の世界(4)(Fiszelew)	
423	30	前期	思想文化総合演習a(大井(知)・木川・佐々木(守))	日本文学研究VI(藤澤)	コミュニケーション・スキルズI a(3)(Gould)		
		後期	思想文化総合演習b(大井(知)・木川・佐々木(守))	日本文学研究VI(藤澤)	コミュニケーション・スキルズI b(3)(Gould)		
個人	0	前期	スペイン語圏文学特殊研究IIIa(駒井)		キリスト教思想演習IIa(竹田)	西洋文化史学研究I/西洋文化史学演習IIa(大井(知))	
		後期	スペイン語圏文学特殊研究IIIb(駒井)		キリスト教思想演習IIb(竹田)	西洋文化史学研究I/西洋文化史学演習IIb(大井(知))	
閲覧	12	前期					
		後期			情報処理研究(福田)		
講堂	0	前期					
		後期					
Bumb	0	前期					
		後期					
エス ペ	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:10-14:40	4 14:50-16:20	5 16:30-18:00
020	21	前期	Current Issues: SDGs a(Sage)	Global Citizen and Environment(宮嶋)	Global Citizen and Media(宮嶋)		留学準備TOEFL-ITP対策講座 a(Campbell)
		後期	Current Issues: SDGs b(Sage)	Global Citizen and Justice(宮嶋)	Global Citizen and Constructive Controversy(宮嶋)		留学準備TOEFL-ITP対策講座 b(Campbell)
021	20	前期					
		後期			Global Citizen and Society(関(貴))	Global Citizen and Politics(関(貴))	
022	16	前期					
		後期					
023	21	前期					
		後期					
120	34	前期	初年次ゼミナール (1)(田和)	書く技法(発展)(太田)	日本近代文学探究(片山)		地球市民学の諸相I(鈴木(直喜)・安斎)
		後期		書く技法(発展)(太田)	日本文学踏査(佐伯・姫野)		地球市民学の諸相II(辰巳・山本(達))
121	34	前期	初年次ゼミナール (10)(福留)	スペイン語Ⅴ(読解演習)(松本(有))	書く技法(一般)(佐伯)		
		後期			対話の技法(早坂)	文理融合基礎(福田)	
122	34	前期		日本近代文学とジェンダー(鈴木(直子))	日本語学探究(小野)		
		後期		日本古典文学探究(吉野)	比較文学研究(川野)		
123	14	前期				教育制度研究/言語教育政策特殊研究a(渋谷)	
		後期				教育制度研究/言語教育政策特殊研究b(渋谷)	
124	14	前期					
		後期					
125	16	前期			日本語中級Ⅰa(田坂)	日本語中級Ⅱa(田坂)	
		後期			日本語中級Ⅰb(田坂)	日本語中級Ⅱb(田坂)	
130	34	前期	英語文学の世界Ⅰ(中垣)	コミュニケーション・スキルズⅡa (1)(Horne)	コミュニケーション・スキルズⅡa (2)(Campbell)	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a(Ford)	
		後期	英語文学の世界2(川端)	コミュニケーション・スキルズⅡb (1)(Horne)	コミュニケーション・スキルズⅡb (2)(Campbell)	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b(Ford)	
131	81	前期	初年次ゼミナール (2)(藤井)		西洋史概説a(桃井)		
		後期		キャリア・デザインⅠ (1)(齋藤)	西洋史概説b(桃井)		
132	52	前期	初年次ゼミナール (11)(鈴木(直喜))	コミュニケーション・スキルズⅡa (3)(Gould)			
		後期		コミュニケーション・スキルズⅡb (3)(Gould)		Business Communication(Campbell)	
133	52	前期	初年次ゼミナール (12)(藤本)	SDGs概論(村上(千))	東洋史概説a(石野)		
		後期			東洋史概説b(石野)		
134	38	前期	教育心理学(本城)			情報科学1(鼠屋)	
		後期				情報科学3(鼠屋)	
135	33	前期	初年次ゼミナール (3)(笹田)				
		後期				ラテンアメリカ文学を楽しむ(内田)	
136	39	前期	初年次ゼミナール (4)(鈴木(卓))			English Skills Workshop (Academic Writing)(Campbell)	
		後期		英検対策講座 b (1) (田中)		English Skills Workshop (Academic Listening)(Brandao)	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening) (宮嶋)
140	174	前期		人間論(1)(井上(ま))・坂田・竹田・藤本・吉岡)	グループプロジェクト1(安斎)	日本芸能文化1(田辺)	地球市民セミナー1(西村)
		後期	キャリア・デザインⅠ (2)(今野)		グループプロジェクト2(安斎)	日本芸能文化2(佐伯)	地球市民セミナー2(吉岡)
141	34	前期	初年次ゼミナール (13)(安斎)			日本語表現法1(早坂)	
		後期				日本語表現法2(小林)	
142	41	前期	初年次ゼミナール (5)(駒井)				
		後期		教職実践演習 (中・高) (1)(吉岡・本城・新居)			
143	64	前期	初年次ゼミナール (6)(姫野)		朝鮮・韓国の歴史と文化(中尾)		中欧・東欧の歴史と文化(大井(知))
		後期					
化学	54	前期			キリスト教学Ⅰ (3)(Honore)		
		後期			キリスト教学ⅡⅠ (3)(宮越)		
145	40	前期	初年次ゼミナール (7)(桃井)		創作ワークショップ1(俳句)(藤本)		
		後期		教職実践演習 (中・高) (2)(吉岡・本城・新居)	創作ワークショップ4(朗読)(早坂)		
210	39	前期	初年次ゼミナール (14)(新居)		日本語教授法演習1 (2)(矢崎)	専門事例：地球市民と言語(西村)	
		後期			日本語教授法演習2 (2)(矢崎)	専門事例：地球市民と日本語教育(西村)	
211	39	前期	初年次ゼミナール (8)(中野渡)		談話分析(鈴木(卓))	中級くずし字ワークショップ(内田)	
		後期			談話分析演習(鈴木(卓))	上級くずし字ワークショップ(小野)	
220	39	前期	初年次ゼミナール (9)(木川)				
		後期		パフォーミング・アーツ(スペイン語)(Moyano)	教育とジェンダー(藤本)	表象文化とジェンダー(花方)	
221	39	前期			対話表現文法a(1)(Schnickel)	英語で学ぶ平和(Edwards)	
		後期			対話表現文法b(1)(Schnickel)	英語で学ぶ対話(宮嶋)	
222	64	前期	メディアスペイン語の世界(Perez)	教育実習Ⅰ・Ⅱ(本城)	日本文化史学特殊研究ⅡⅠa(村瀬)		
		後期		教職実践演習 (中・高) (3)(吉岡・本城・新居)			
223	16	前期					
		後期					
224	16	前期					
		後期					
225	78	前期	生涯学習概論(本庄)	現代社会と法律(渡辺)	地域文化研究5(西住)	政治学1(大井(知))	
		後期		労働者と法律(田畑)	地域文化研究8(長野)	政治学2(大井(知))	
226	78	前期		人間論(2)(井上(ま))・坂田・竹田・藤本・吉岡)			
		後期			中国の歴史と文化(青木)		
230	50	前期	スペインの歴史と文化(荻野)		ギリシア語入門(竹田)	ラテン語入門(上野)	
		後期			ギリシア語初級(竹田)	ラテン語初級(上野)	
231	90	前期	イギリスの歴史と文化(Sasaki)	人間論(3)(井上(ま))・坂田・竹田・藤本・吉岡)	ラテンアメリカの歴史と文化(長野)		
		後期	アメリカの歴史と文化(斎藤)				
232	34	前期			演習3a(日本文化)(鈴木(直子))	創作ワークショップ3(小説)(那須田)	
		後期			演習3b(日本文化)(鈴木(直子))		
240	309	前期		人間論(4)(井上(ま))・坂田・竹田・藤本・吉岡)	日本史概説a(中野渡)		
		後期	キャリア・デザインⅠ (4)(新居)		日本史概説b(福留)	現代日本サブカルチャー分析(今野・鈴木(直子))・田和・藤井・姫野)	
241	35	前期		グローバル・スタディーズ7(岸)	グローバル・スタディーズ8(中村(長))		
		後期		グローバル・スタディーズ9(佐藤(裕))	グローバル・スタディーズ10(関戸)		
410	73	前期		考古学(小泉)	現代社会とメディア(Arun)		
		後期	キャリア・デザインⅠ (3)(本城)	死生学(井上(ま)・木川・坂田・佐々木(守)・藤井・駒井)	現代の国際経済(佐久間)		
411	20	前期		基礎演習15a(文化史)(福留)			
		後期		基礎演習15b(文化史)(福留)			
412	40	前期	基礎演習12a(国際文化・西)(Moyano)		地域文化研究6(市川)	地域文化研究7(長野)	
		後期	基礎演習12b(国際文化・西)(Moyano)				
421	56	前期					
		後期	情報スキル2(錦山)	社会課題解決のための情報スキル(佐藤(紗))			
423	30	前期		地域協力演習(鈴木(卓))			
		後期		地域協力演習(鈴木(卓))			
個人	0	前期		日本語学研究Ⅰ(今野)			
		後期		日本語学研究Ⅰ(今野)			
閲覧	12	前期					
		後期					
講堂	0	前期					
		後期					
Bumb	0	前期					
		後期					
エス ペ	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:10-14:40	4 14:50-16:20	5 16:30-18:00
020	21	前期		チュートリアル (1) (安斎)	研究法演習a(桃井)	研究プロジェクト1・3 (1) (安斎)	研究法演習a(井上(主))
		後期			研究法演習b(桃井)	研究プロジェクト2・4 (1) (安斎)	研究法演習b(井上(主))
021	20	前期		チュートリアル (2) (佐々木(萌))	研究法演習a(佐々木(守))	研究プロジェクト1・3 (2) (安藤)	研究法演習a(坂田)
		後期			研究法演習b(佐々木(守))	研究プロジェクト2・4 (2) (安藤)	研究法演習b(坂田)
022	16	前期		チュートリアル (3) (兼清)	演習20a (文化史) (木川)		演習18a (文化史) (大井(知))
		後期			演習20b (文化史) (木川)		演習18b (文化史) (大井(知))
023	21	前期		チュートリアル (4) (鈴木(直喜))		研究プロジェクト1・3 (3) (佐々木(萌))	研究法演習a(福留)
		後期				研究プロジェクト2・4 (3) (佐々木(萌))	研究法演習b(福留)
120	34	前期	専門事例：地球市民と文化(辰巳)	社会科・公民科教育法I(鈴木(雄))	スペイン語 I-1 (会話) (Perez)	基礎演習3a (日本文化) (鈴木(直子))	
		後期		社会科・公民科教育法II(鈴木(雄))	スペイン語II-1 (会話) (Perez)	基礎演習3b (日本文化) (鈴木(直子))	
121	34	前期	専門事例：地球市民と社会(清兼)	演習21a (文化史) (井上(ま))	Comunicación oral I-1(Moyano)		
		後期		演習21b (文化史) (井上(ま))	Comunicación oral II-1(Moyano)		
122	34	前期	専門事例：地球市民と平和構築(佐々木)		基礎演習22a (文化史) (坂田)	研究プロジェクト1・3 (4) (兼清)	地球社会論と地球市民学I(安斎)
		後期	専門事例：地球市民と環境(鈴木(直喜))(隔年)	専門事例：地球市民と環境(鈴木(直喜))(隔年)	基礎演習22b (文化史) (坂田)	研究プロジェクト2・4 (4) (兼清)	地球社会論と地球市民学II(安斎)
123	14	前期		チュートリアル (5) (辰巳)			西洋文化史学研究III(木川)
		後期					西洋文化史学研究III(木川)
124	14	前期		チュートリアル (6) (長野)	日本語上級文法a(西村)		日本語上級会話a(西村)
		後期			日本語上級文法b(西村)		日本語上級会話b(西村)
125	16	前期		チュートリアル (7) (西村)			
		後期				現代教育問題(新居)	
130	34	前期				研究プロジェクト1・3 (5) (鈴木(直喜))	
		後期	専門事例：地球市民と開発(鈴木(直喜))(隔年)	専門事例：地球市民と開発(鈴木(直喜))(隔年)		研究プロジェクト2・4 (5) (鈴木(直喜))	
131	81	前期	総合文化スタディーズ1(佐伯・田和・中野渡・藤井・井上(主)・坂田・福留・桃井)		心理学 1(山上)	基礎演習20a (文化史) (木川)	
		後期		文化史入門演習(1)(大井(知)・佐々木(守)・中野渡・坂田)	心理学 2(矢部)	基礎演習20b (文化史) (木川)	
132	52	前期	総合的な学習の時間の指導法(新居)		応用言語学(久保)	東洋文化史学特殊研究a(石野)	
		後期		プレゼンテーション技法(1)(山本(達)・内藤)	社会言語学(二瓶)	東洋文化史学特殊研究b(石野)	
133	52	前期			データと社会(2) (安藤・鈴木(直喜))		
		後期		プレゼンテーション技法(2)(山本(達)・三宅)		スペイン語の世界 (8) (Perez)	
134	38	前期		現代社会と倫理(外村)	基礎演習18a (文化史) (大井(知))	研究プロジェクト1・3 (6) (辰巳)	
		後期		暮らしの倫理学(外村)	基礎演習18b (文化史) (大井(知))	研究プロジェクト2・4 (6) (辰巳)	
135	33	前期	専門事例：地球市民とキャリア(安斎)		専門事例：地球市民とビジネス(安斎)	研究プロジェクト1・3 (7) (長野)	
		後期		スペイン語の世界 (7) (Peres)		研究プロジェクト2・4 (7) (長野)	
136	39	前期				研究プロジェクト1・3 (8) (西村)	
		後期		グローバル・スタディーズ1(稲田)	宗教史学特殊研究b(井上(ま))	研究プロジェクト2・4 (8) (西村)	
140	174	前期	総合文化スタディーズ2(木川・今野・斉藤・石野・井上(主))	総合文化データサイエンス(1)(木川・木村・鈴木(卓)・姫野)	経済学(山本(崇))		
		後期	国際文化入門演習(笹田・斎藤・鈴木(卓)・Trenado・駒井・Sasaki・桃井)	文化史入門演習(2)(大井(知)・佐々木(守)・中野渡・坂田)	表象文化論(花方)		
141	34	前期				研究プロジェクト1・3 (9) (山本(達))	
		後期				研究プロジェクト2・4 (9) (山本(達))	
142	41	前期	英語圏比較文化(辻河)	スペイン語圏の社会と女性(駒井)	日本文化史学特殊研究Ia(遠藤(み))	研究プロジェクト1・3 (10) (吉岡)	
		後期		スペイン語翻訳演習(駒井)		研究プロジェクト2・4 (10) (吉岡)	
143	64	前期	スペイン文学を楽しむ(松本(有))	総合文化データサイエンス(2)(木川・木村・鈴木(卓)・姫野)	データと社会(1) (安藤・山本(達))		
		後期	スペイン語圏の文化と社会(駒井・長野・Trenado・Moyano)	プレゼンテーション技法(3)(山本(達)・青木)		日本文化史学特殊研究IIIb(阿部)	
化学	54	前期			暮らしの科学 (実験講座 キッチンサイエンス)(社藤)		
		後期	暮らしの科学 (実験講座 健康と環境)(社藤)				
145	40	前期		英語科教育法I(高田)	演習8a (国際文化・英) (Bayne)		
		後期		英語科教育法II(高田)	演習8b (国際文化・英) (Bayne)		
210	39	前期			基礎演習6a (国際文化・英) (Sasaki)		
		後期			基礎演習6b (国際文化・英) (Sasaki)	書く技法 (基礎) (藤本)	
211	39	前期				スペイン語音声学(木村)	スペイン語学(木村)
		後期	英語アカデミック・アドバンスト(川端)				
220	39	前期	専門事例：地球市民と教育(吉岡)		基礎演習5a (日本文化) (田和)	演習5a (日本文化) (田和)	専門事例：地球市民とポピュラー文化(長野)
		後期	専門事例：地球市民と心理(吉岡)		基礎演習5b (日本文化) (田和)	演習5b (日本文化) (田和)	専門事例：地球市民とアート(長野)
221	39	前期		キリスト教思想研究I(竹田)			
		後期		キリスト教思想研究I(竹田)	スペイン語の世界 (9) (山浦)	スペイン語の世界 (10) (Moyano)	
222	64	前期	地域共生インターン講座(西村)	総合文化データサイエンス(3)(木川・木村・鈴木(卓)・姫野)			
		後期		情報系インターン講座(安藤)			
223	16	前期		チュートリアル (8) (吉岡)	スペイン語学研究I/スペイン語学特殊研究Ia(木村)		
		後期			スペイン語学研究I/スペイン語学特殊研究Ib(木村)		言語文化総合演習I(姫野・鈴木(卓)・駒井)
224	16	前期		チュートリアル (9) (新居)			
		後期			学校図書館メディアの構成(新居)		
225	78	前期		総合文化データサイエンス(4)(木川・木村・鈴木(卓)・姫野)	フィールドワーク3(佐々木(萌))(隔年)		
		後期					
226	78	前期		源氏物語の世界1(藤井)	生徒指導(本城)		
		後期		源氏物語の世界2(姫野)	教育相談(本城)		海外インターン講座(佐々木(萌))
230	50	前期		日本語学の世界1(田和)	スペイン語Ⅲ (文法) (斎藤)		
		後期		日本語学の世界2(内田)	スペイン語圏の音楽文化(長野)		専門事例：地球市民とAI(安藤)
231	90	前期			フィールドワーク5(辰巳)(隔年)	国際文化交流(Holy)	
		後期		文化史入門演習(3)(大井(知)・佐々木(守)・中野渡・坂田)		国際文化交流演習(Holy)	教育実習指導(本城)
232	34	前期				基礎演習1a (日本文化) (藤井)	
		後期			ス페인・ラテンアメリカ文学(駒井)	基礎演習1b (日本文化) (藤井)	
240	309	前期	総合文化スタディーズ3(大井(知)・今野・笹田・鈴木(直子)・石野・駒井・姫野)		キリスト教と現代社会(稲葉)	キャリア・デザインⅡ(佐伯)	キャリア・デザインⅢ(吉岡)
		後期	日本文化入門演習(鈴木(直子)・田和・藤井・福留)	文化史入門演習(4)(大井(知)・佐々木(守)・中野渡・坂田)	キリスト教の思想(竹田)	キャリアの組織論(本城)	
241	35	前期					フィールドワーク2(山本(達))(隔年)
		後期					
410	73	前期		日本文化史学特殊研究IIa(福留)			
		後期		日本文化史学特殊研究IIb(福留)		西洋美術史学特殊研究IIb(貫井)	
411	20	前期	スペイン語圏文学研究III/スペイン語圏文学特殊研究IIa(長野)				
		後期	スペイン語圏文学研究III/スペイン語圏文学特殊研究IIb(長野)				
412	40	前期			情報科学2(横山)		フィールドワーク4(鈴木(直喜))(隔年)
		後期			情報科学4(横山)	児童文学演習(笹田)	フィールドワーク4(鈴木(直喜))(隔年)
421	56	前期			英語史(小笠原)		
		後期			留学準備スタートアップ講座(斎藤)		
423	30	前期		演習13a (国際文化・西) (Trenado)	スペイン語検定対策講座(山浦)	考える技法(福田)	
		後期		演習13b (国際文化・西) (Trenado)	スペイン美術(貫井)	読む技法(小野)	
個人	0	前期				日本文化史学研究III/美術史学演習IIIa(佐々木(守))	日本古典文学特殊研究IIa, 日本文学研究IV(佐伯)
		後期				日本文化史学研究III/美術史学演習IIIba(佐々木(守))	日本古典文学特殊研究IIb, 日本文学研究IV(佐伯)
閲覧	12	前期					
		後期					
講堂	0	前期				基礎演習8a (国際文化・英) (Bayne)	研究法演習a (Bayne)
		後期				基礎演習8b (国際文化・英) (Bayne)	研究法演習b (Bayne)
Bumb	0	前期					
		後期					
エス ペ	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:10-14:40	4 14:50-16:20	5 16:30-18:00
020	21	前期			キャリアのための英語コミュニケーション (1)(大井(洋))		
		後期			Global Citizen and Business(西野)		
021	20	前期			キャリアのための英語コミュニケーション (2)(Sage)		
		後期					
022	16	前期			キャリアのための英語コミュニケーション (3)(佐々木(萌))	日本語中級Ⅲa(高畠)	日本語中級Ⅳa(高畠)
		後期				日本語中級Ⅲb(高畠)	日本語中級Ⅳb(高畠)
023	21	前期		演習19a (文化史) (桃井)	キャリアのための英語コミュニケーション (4)(工藤)		
		後期		演習19b (文化史) (桃井)			
120	34	前期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (2)(荻原)	FYE: Integrated Skills (1)(Sage)	対話表現文法a (3)(坂本)	対話表現文法a (2)(坂本)	研究法演習a(笹田)
		後期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (1)(荻原)	FYE: Integrated Skills (5)(Sage)	対話表現文法b (3)(坂本)	対話表現文法b (2)(坂本)	研究法演習b(笹田)
121	34	前期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (4)(佐々木(萌))	FYE: Integrated Skills (2)(Schnickel)			
		後期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (3)(大井(洋))	FYE: Integrated Skills (6)(Schnickel)			
122	34	前期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (6)(大濱 (え))	FYE: Integrated Skills (3)(大濱 (え))		TOEIC対策講座Advanced a(Ford)	
		後期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (5)(大濱 (え))	FYE: Integrated Skills (8)(大濱 (え))	FYE: Integrated Skills (7)(Brandao)	TOEIC対策講座Advanced b(Ford)	
123	14	前期	日本思想史(古畑)	演習1a (日本文化) (藤井)	キャリアのための英語コミュニケーション (5)(西野)	日本文学研究I(藤井)	
		後期		演習1b (日本文化) (藤井)		日本文学研究I(藤井)	
124	14	前期	イスパニア語科教育法III(遠藤(杏))		キャリアのための英語コミュニケーション (6)(田中)		
		後期	イスパニア語科教育法IV(遠藤(杏))				
125	16	前期		文学理論a(今関)	キャリアのための英語コミュニケーション (7)(清水)	基礎演習11a (国際文化・西) (齋藤)	
		後期		文学理論b(今関)		基礎演習11b (国際文化・西) (齋藤)	
130	34	前期	SYE: English Seminar (7)(清水)			基礎演習2a (日本文化) (姫野)	研究法演習a(姫野)
		後期	プロジェクトのための英語コミュニケーション (7)(田中)		英検対策講座 b (1)(田中)	基礎演習2b (日本文化) (姫野)	研究法演習b(姫野)
131	81	前期	スペイン語圏の世界遺産(Villoria)	キリスト教と文学(鈴木(直子))	日本の歴史と文化1(古川)		社会学1(今井)
		後期			日本の歴史と文化2(古川)		社会学2(今井)
132	52	前期	SYE: English Seminar (1)(Brandao)	SYE: English Seminar (2)(Brandao)	基礎演習9a (国際文化・英) (鈴木(卓))	異文化コミュニケーションの世界(森山)	英検対策講座 a(大濱(え))
		後期			基礎演習9b (国際文化・英) (鈴木(卓))		
133	52	前期		情報環境の構築(9)(10)(桑田)	情報環境の構築(11)(12)(鼠屋)		
		後期		データリテラシー基礎(9)(10)(桑田)	データリテラシー基礎(11)(12)(鼠屋)		
134	38	前期	SYE: English Seminar (3)(黒川)	SYE: English Seminar (6)(佐藤(千))		スペイン語通訳演習(太田)	
		後期				ビジネススペイン語(太田)	
135	33	前期		FYE: Integrated Skills (4)(萩原)	演習12a (国際文化・西) (Moyano)		
		後期		FYE: Integrated Skills (9)(萩原)	演習12b (国際文化・西) (Moyano)		
136	39	前期	SYE: English Seminar (5)(佐藤(千))	SYE: English Seminar (4)(黒川)			研究法演習a(藤井)
		後期			専門事例: 地球市民と政治(山本(達))(隔年)	専門事例: 地球市民と政治(山本(達))(隔年)	研究法演習b(藤井)
140	174	前期		西洋思想史(樽垣)			
		後期			対照言語学2 (日西) (齋藤) (隔年)		
141	34	前期	FYE: Seisen Studies in English (10)(末廣)	FYE: Seisen Studies in English (1)(工藤)	基礎演習13a (国際文化・西) (Trenado)		
		後期	FYE: Seisen Studies in English (11)(末廣)	FYE: Seisen Studies in English (2)(工藤)	基礎演習13b (国際文化・西) (Trenado)		
142	41	前期	FYE: Seisen Studies in English (12)(工藤)	FYE: Seisen Studies in English (3)(相馬)	イスパニア語科教育法I(高畠)		
		後期	FYE: Seisen Studies in English (13)(工藤)	FYE: Seisen Studies in English (4)(相馬)	イスパニア語科教育法II(高畠)		
143	64	前期		FYE: Seisen Studies in English (5)(末廣)	キリスト教の祈り(宮越)	基礎演習19a (文化史) (桃井)	
		後期	専門事例: 地球市民と宗教(辰巳)	FYE: Seisen Studies in English (6)(末廣)	科学史・科学哲学(許)	基礎演習19b (文化史) (桃井)	
化学	54	前期					
		後期					
145	40	前期					
		後期			西洋文化史学特殊研究1b(桃井)		
210	39	前期		FYE: Seisen Studies in English (9)(大井(洋))			
		後期	専門事例: 地球市民と対話(佐々木(萌))		専門事例: 地球市民と技術(山本(達))(隔年)	専門事例: 地球市民と技術(山本(達))(隔年)	
211	39	前期	FYE: Seisen Studies in English (14)(小河)	SYE: English Seminar (8)(清水)	スペイン語 I-2 (会話) (Alvarez)	研究法演習a (駒井)	
		後期	FYE: Seisen Studies in English (15)(小河)		スペイン語II-2 (会話) (Alvarez)	研究法演習b (駒井)	
220	39	前期	FYE: Basic English GC 2(西野)	SYE: English Seminar (9)(山下)			
		後期		スペイン語の世界 (11)(Colmena)		スペイン語の世界 (12)(山浦)	
221	39	前期	SYE: English Seminar (10)(山下)		Comunicación oral I-2(Colmena)		
		後期	専門事例: 地球市民とメディア(兼清)		Comunicación oral II-2(Colmena)		
222	64	前期		FYE: Seisen Studies in English (7)(小河)			
		後期		FYE: Seisen Studies in English (8)(小河)	スペイン語の世界 (13)(山浦)	スペイン語の世界 (14)(Trenado)	
223	16	前期			キャリアのための英語コミュニケーション (8)(大濱(え))	言語理論研究/言語理論a(北原)	
		後期				言語理論研究/言語理論b(北原)	
224	16	前期			対照言語学研究/対照言語学特殊研究a(北原)		
		後期		対照言語学1 (日英) (北原) (隔年)	対照言語学研究/対照言語学特殊研究b(北原)		
225	78	前期		人文・自然地理学(西)	法学 (日本国憲法) (高橋)		フィールドワーク6(西村)
		後期		地誌(西)			
226	78	前期			哲学2(木山)		
		後期	英語圏文学(辻河)		哲学1(佐藤(も))		
230	50	前期	基礎演習21a (文化史) (井上(ま))			地域文化研究2(藤倉)	
		後期	基礎演習21b (文化史) (井上(ま))			地域文化研究1(権)	
231	90	前期		東洋美術史学特殊研究a(八木)	言語学(松本(隆))		
		後期			認知言語学(久保)		
232	34	前期		FYE: Basic English HC a(西野)	地域文化研究3(澤田)		
		後期		FYE: Basic English HC b(西野)	地域文化研究4(江崎)		
240	309	前期		キリスト教と美術(木川)	暮らしの社会学(堀江)	キリスト教学I (4)(稲葉)	
		後期	ジェンダー史(大井(知)・福留・石野・佐々木(幸))	ジェンダー学(堀江)	現代社会とジェンダー(堀江)	キリスト教学II (4)(土居)	
241	35	前期					
		後期					
410	73	前期		西洋美術史学特殊研究IIa(佐藤(直))			西洋美術史学特殊研究IIIa(向後)
		後期		西洋美術史学特殊研究Ib(木川)			
411	20	前期			基礎演習7a (国際文化・英) (笹田)		研究法演習a (Trenado)
		後期			基礎演習7b (国際文化・英) (笹田)		研究法演習b (Trenado)
412	40	前期	情報環境の構築(5)(6)(桑田)	情報環境の構築(7)(8)(桑田)		日本古典文学の世界1(井)	
		後期	データリテラシー基礎(5)(6)(桑田)	データリテラシー基礎(7)(8)(桑田)		日本語学の世界3(亀田)	
421	56	前期					
		後期					
423	30	前期		言語学特殊研究I/英語学特殊研究IIa(鈴木(卓))		研究法演習a (Moyano)	
		後期		言語学特殊研究I/英語学特殊研究IIb(鈴木(卓))		研究法演習b (Moyano)	
個人	0	前期		日本近代文学特殊研究Ia(藤澤)	リサーチ入門a(大井(洋))	英語圏文学演習Ia(笹田)	西洋文化史学演習Ia(桃井)
		後期		日本近代文学特殊研究Ib(藤澤)	リサーチ入門b(大井(洋))	英語圏文学演習Ib(笹田)	西洋文化史学演習Ib(桃井)
閲覧	12	前期					
		後期					
講堂	0	前期		体育実技・理論(村岡)	体育実技・理論(鉄崎)		
		後期		体育実技・理論(村岡)	体育実技・理論(鉄崎)		
Bumb	0	前期					
		後期					
エス ペ	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					

教室名	収容数	学期	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:10-14:40	4 14:50-16:20	5 16:30-18:00
020	21	前期					
		後期					
021	20	前期					
		後期					
022	16	前期					
		後期					
023	21	前期					
		後期					
120	34	前期					
		後期	数量リテラシー (1) (福田・高橋ア)				
121	34	前期					
		後期	数量リテラシー (2) (福田・高橋ア)				
122	34	前期					
		後期		数量リテラシー (3) (福田・高橋ア)			
123	14	前期					
		後期					
124	14	前期					
		後期					
125	16	前期					
		後期					
130	34	前期					
		後期		数量リテラシー (4) (福田・高橋ア)			
131	81	前期					
		後期					
132	52	前期	博物館資料保存論 (和田)				
		後期	博物館教育論 (米沢)	博物館展示論 (神辺)			
133	52	前期					
		後期					
134	38	前期					
		後期					
135	33	前期					
		後期					
136	39	前期					
		後期					
140	174	前期					
		後期					
141	34	前期					
		後期					
142	41	前期					
		後期					
143	64	前期					
		後期					
化学	54	前期					
		後期					
145	40	前期					
		後期					
210	39	前期					
		後期					
211	39	前期					
		後期					
220	39	前期					
		後期					
221	39	前期					
		後期					
222	64	前期					
		後期					
223	16	前期		多文化的公共空間I (昔農)	多文化的公共空間I (昔農)		
		後期		多文化的公共空間II (昔農)	多文化的公共空間II (昔農)		
224	16	前期		応用言語学特殊研究III (小泉 (利))			
		後期		応用言語学特殊研究III (小泉 (利))			
225	78	前期					
		後期					
226	78	前期					
		後期					
230	50	前期					
		後期					
231	90	前期					
		後期					
232	34	前期					
		後期					
240	309	前期					
		後期	文化史学発展研究I (石野・井上 (ま)・大井 (知)・木川・坂田・佐々木・中野渡・福留・緒井)	帝国の歴史 (大井 (知)・木川・井上 (ま)・桃井・石野・佐々木・中野渡)			
241	35	前期					
		後期					
410	73	前期					
		後期					
411	20	前期					
		後期					
412	40	前期					
		後期					
421	56	前期					
		後期					
423	30	前期					
		後期					
個人	0	前期		東洋文化史学演習a (石野)			
		後期		東洋文化史学演習b (石野)			
閲覧	12	前期					
		後期					
講堂	0	前期					
		後期					
Bumb	0	前期					
		後期					
エス ペ	0	前期					
		後期					
OL	0	前期					
		後期					
／	0	前期					
		後期					